HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | ワーキング・ホリデーの観光的価値 : 日本への台湾人ワーキング・ホリデー経験者を対象に |
| Author(s) | 馮, 惠芸 |
| Citation | 北海道大学. 修士(観光学) |
| Issue Date | 2014-03-25 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/55513 |
| Type | theses (master) |
| File Information | Feng20140325.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2014年修士論文

# ワーキング・ホリデーの観光的価値

## －日本への台湾人ワーキング・ホリデー経験者を対象に－

## 打工度假的觀光價值

－以台灣赴日打工度假經驗者為對象－

The Tourism Values of Working Holiday Programs

－A Research of Taiwanese Working Holiday Makers With Experiences in Japan－

2014年1月

北海道大学大学院　国際広報メディア・観光学院

観光創造専攻　修士課程

Hokkaido University Graduate School of International Media,

Communications, and Tourism Studies

Master Course of Tourism Creation Major

馮惠芸　Hui-Yun Feng

88123037

# 要旨

観光はその幅広い経済波及効果により、日本の一大成長産業と捉えられ、国内旅行の振興のみならず、外国人の訪日旅行にも力を入れ、「ビジット・ジャパン事業」などを推進してきた。しかし、これまでは「観光客」を取り扱う際に、限定的に観光・レジャー目的で短期滞在する人達を指す場合が多く、中長期滞在のワーキング・ホリデー・メーカー（以下 WHM と略称する）を見落としてしまう傾向がある。

WHM は、特別なビザで海外のある国に一定期間滞在し、その間「観光」と「就労」の両方とも体験できる「ワーキング・ホリデー」（以下 WH と略称する）制度を利用して渡航した人達である。WH 経験を通して彼らは滞在国で様々な消費行動や観光行動を起こし、文化などの影響を受けているが、自分自身が影響を受けるだけでなく、それらの経験に関する情報を発信することを通して、周囲にも何らかの影響を与えていると想定される。

本論文は、WHM のこのような行動特性に焦点を当て、日本への台湾人 WH 経験者を対象に、彼らが活動期間中に起こした観光行動や消費行動のパターン、それに関する情報発信行動を解明することにより、WH の潜在的な観光的価値を明らかにすることと、WH の受け入れ体制の改善策や訪日促進への活用策に方向性を提示することを目的とする。それと同時に、訪日課題への理解や両国間交流の促進の参考にもなり得ると考えられる。

研究目的を達成するために、本研究は文献調査の他、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。その結果、対象者 60 名から有効なアンケートを入手し、更にそのうちの 26 名がインタビュー調査に応じてくれた。文献調査、アンケート調査、インタビュー調査の結果はそれぞれ第 2 章～第 4 章にまとめており、研究の動機・目的は第 1 章に、結論及び提言、今後の課題については第 5 章に記しているが、本研究で得た主な結論は下記の 5 点である。

1. 日本への台湾人 WHM は以前からの親日家である人が多く、WH 経験を通して、より積極的なリピーターとして日本を訪れている。

2. 日本への台湾人 WHM は、1 箇所または数箇所に安定して滞在し、アルバイトしながらの生活の合間に、近距離並びに長距離の旅行を楽しむ傾向がある。

3. 日本への台湾人 WHM は、積極的または受動的に WH に関する情報を発信することを通して、周囲に対する日本案内人（エバンジェリスト）の役割を果たしている。

4. 日本への台湾人 WHM は自分自身の WH 経験に概ね満足しているが、可能であれば経験した以上に旅行したいと希望している。

5. 日本への台湾人 WHM が WH の日本での認知度不足によって最も苦労したことは、日本現地の諸規定や手続きの繁雑さや矛盾と日本人との交流である。

キーワード：ワーキング・ホリデー、ワーキング・ホリデー・メーカー、観光的価値、日本、台湾

目次

1　はじめに ····· 1

1.1　研究動機・背景 ····· 1

1.2　研究目的・意義 ····· 3

*(1) 目的* ····· *3*

*(2) 意義* ····· *3*

1.3　研究方法・流れ及び枠組み ····· 3

*(1) 文献調査* ····· *4*

*(2) アンケート調査* ····· *4*

*(3) インタビュー調査* ····· *5*

*(4) 研究の流れ及び論文の枠組み* ····· *6*

1.4　用語定義 ····· 7

*(1) ワーキング・ホリデー* ····· *7*

*(2) ワーキング・ホリデー・メーカー* ····· *7*

*(3) 観光的価値* ····· *7*

1.5　論文の構成 ····· 8

2　先行研究及び現状把握 ····· 9

2.1　WH に関する先行研究 ····· 9

2.2　台湾における WH の現状 ····· 12

2.3　日本への WH の詳細及び現状 ····· 18

2.4　日本への WH に関するインターネット情報源 ····· 20

*(1) 政府行政機関及び WH 協会* ····· *20*

*(2) フォーラムサイト* ····· *23*

*(3) フェイスブックグループ* ····· *23*

*(4) 電子掲示板* ····· *24*

*(5) エージェンシー* ····· *25*

2.5　まとめ ····· 26

3　アンケート調査結果の整理・分析 ····· 28

3.1　基本情報 …… 28
*（1）男女比及び年齢* …… *28*
*（2）滞在時期及び滞在期間* …… *29*
*（3）主な居住地（複数回答可）* …… *30*
*（4）WH に参加した理由（複数回答可）* …… *31*
*（5）日本を選定した理由（複数回答可）* …… *32*
*（6）他国への WH 経験または WH 予定* …… *33*
*（7）基本情報への考察* …… *34*
3.2　活動開始前 …… 36
*（1）渡日前に用意した準備資金額* …… *36*
*（2）渡日前の情報獲得手段（複数回答可）* …… *37*
*（3）航空券の入手手段* …… *38*
*（4）住居探しの手段* …… *38*
*（5）語学学校探しの手段* …… *39*
*（6）アルバイト探しの手段（複数回答可）* …… *40*
*（7）活動開始前への考察* …… *41*
3.3　活動期間中 …… 43
*（1）アルバイト* …… *43*
*（2）全体の生活費用及び各支出項目が占める比率* …… *45*
*（3）旅行日数及び訪れた都道府県数* …… *49*
*（4）集会回数及び集会場所* …… *50*
*（5）情報発信* …… *52*
*（6）活動期間中への考察* …… *54*
3.4　活動終了後 …… 57
*（1）情報発信* …… *57*
*（2）WH への満足度* …… *59*
*（3）日本／日本人への印象* …… *60*
*（4）日本への再訪意欲及び親戚友人への推薦意向* …… *60*
*（5）大変だったこと及びあれば良いと思うこと* …… *62*
*（6）活動終了後への考察* …… *62*

3.5 まとめ ····· 63

**4 インタビュー調査結果の整理・分析 ····· 65**

4.1 WHに対する考え ····· 69

*(1) 日本へWHに行くきっかけ ····· 69*

*(2)「WH」で日本に行く理由 ····· 69*

*(3) WHに対する期待或いは目標 ····· 70*

*(4) 行き先の選定理由 ····· 71*

*(5) WHに対する考えへの考察 ····· 73*

4.2 ワーキングとホリデー ····· 75

*(1) アルバイト ····· 75*

*(2) 旅行形態 ····· 76*

*(3) 交流状況 ····· 78*

*(4) 時間の使い方 ····· 79*

*(5) ワーキングとホリデーへの考察 ····· 80*

4.3 情報発信 ····· 82

*(1) 発信目的、形式及び頻度 ····· 82*

*(2) 個人フェイスブックページと個人ブログ ····· 83*

*(3) フェイスブックグループとフォーラムサイト ····· 84*

*(4) 周囲への影響 ····· 86*

*(5) 情報発信への考察 ····· 87*

4.4 感想及び意見 ····· 89

*(1) 満足度 ····· 89*

*(2) 日本／日本人への印象 ····· 90*

*(3) 日本への再訪意欲及び親戚友人への推薦意向 ····· 92*

*(4) 大変だったこと及びあれば良いと思うこと ····· 93*

*(5) 感想及び意見への考察 ····· 95*

4.5 まとめ ····· 97

**5 おわりに ····· 100**

5.1 結論 ····· 100

5.2　提言 ····· 104
5.3　今後の課題 ····· 106
**謝辞 ····· 107**
**謝辭 ····· 108**
**参考文献リスト ····· 109**
**付録 ····· 119**
付録 1　アンケート調査票（繁体中国語版） ····· 119
付録 2　アンケート調査票（日本語版） ····· 123
付録 3　インタビュー質問項目（繁体中国語版） ····· 127
付録 4　インタビュー質問項目（日本語版） ····· 128
付録 5　インタビュー同意書（繁体中国語版） ····· 129
付録 6　インタビュー同意書（日本語版） ····· 130
付録 7　日台ワーキング・ホリデー査証案内 ····· 131
付録 8　査証申請書（繁体中国語） ····· 135
付録 9　履歴書（繁体中国語） ····· 137
付録 10　調査票（繁体中国語） ····· 138
付録 11　理由書（WH 制度を利用したい理由） ····· 140
付録 12　計画書（日本に入国後に何をしたいか） ····· 141
付録 13　（交流協会による）アンケート調査票（繁体中国語） ····· 142
**ABSTRACT ····· 147**
**概要 ····· 149**

# 1　はじめに

## 1.1　研究動機・背景

2003 年、地域活性化や雇用機会の拡大など、経済波及効果の大きい観光は、日本経済における重要な成長分野と見なされ、政府による観光立国戦略が打ち出された。その戦略においては、国内旅行の振興のみならず、外国人の訪日旅行に対しても力を入れ、戦略の一環として「ビジット・ジャパン事業」を開始し、訪日外国人旅行者数を増加させる努力をしてきた。その内容を見てみると、受け入れ環境整備やプロモーション活動など、外国人旅行者の訪日促進を考える際、広義的に観光客以外の商用客やその他の遊客も全て対象とするというよりも、狭義的にその中で比重が最も大きい観光客だけを対象とした基本的な取り組みであるような印象を受ける。しかし、このような傾向では、中長期滞在であり、尚且つ余暇を過ごすことを主な目的とするワーキング・ホリデー・メーカー（以下 WHM と略称する）の重要性を見落とすことになりかねない。

WHM は、特別なビザで海外のある国に一定期間滞在し、その間「観光」と「就労」の両方とも体験できる「ワーキング・ホリデー」（以下 WH と略称する）制度を利用して渡航した人達である。近年、このような制度は旅行や各種体験ができる他、国際観が養える、語学力が鍛えられるなど、若者の自己成長にも繋がる機会として人気を集め、注目されている。WHM は主に上記のような目的の下に WH 制度によって海外に渡航しているが、その際、滞在国で生活している中で、様々な消費行動や観光行動を起こしていることが考えられる。そして、インターネットを通して母国にいる家族や友人に、自らの旅行や生活などに関する情報を発信していることも予想される。つまり、自分自身が滞在国で観光や生活を体験していると同時に、周囲にも情報発信を通して何らかの影響を与えていると想定される。

現在、日本における WH の現状は、オーストラリアとの WH 協定締結を皮切りに、2013 年 2 月時点で 11 ヶ国[1]となっているが、アメリカと中国を除き、初年度の 2003 年からビジット・ジャパン事業の重点市場[2]となっている韓国、台湾、香港も入っている。その中でも韓国との締結年が 1999 年で最も早く、申請者数の急増により、査証発給枠が 1999 年の 1,000 名か

[1] 外務省：ワーキング・ホリデー制度（download at 2013.12.20）によれば、WH 協定締結国はオーストラリア（1980）、ニュージーランド（1985）、カナダ（1986）、韓国（1999）、フランス（1999）、ドイツ（2000）、イギリス（2001）、アイルランド（2007）、デンマーク（2007）、台湾（2009）、香港（2010）、ノルウェイ（2013）の 11 ヶ国である。

[2] 国土交通省観光庁（2003）平成 15 年度観光白書（download at 2013.12.20）による。

ら 2011 年 10 月以降に 10,000 名にまで拡大した[3]。台湾とは 2009 年に 2,000 名[4]、香港とは 2010 年に 250 名[5]の発給枠で締結した。現時点で 3 ヶ国の WHM は合計最大で 12,250 名になり、観光客数[6]の多さと比べようもないとは言え、前述のように、長期滞在中の観光行動や消費行動、更に周囲への情報発信行動などによる潜在的な影響力は、完全に無視することはできないだろう。

一方、台湾においては、台湾から海外への WH が盛んになっている。近年、自国青年の国際交流機会として、政府は WH を積極的に推進しており、2009 年から 2013 年の 5 年間で 7 ヶ国と協定を締結し、締結国数を 2004 年のオーストラリアとニュージーランドの 2 ヶ国から 9 ヶ国にまで増加させた[7]。その中で日本はこの 5 年間で最も早く WH 協定を締結し、ビザ発給枠が 2,000 名と、無制限のオーストラリアを除けば最も多い国となっており、WH で行きたい国で 1 位[8]に選ばれ、観光で訪れた国で中国に次いで 2 位[9]と高い人気を博している。また、ビジット・ジャパン事業の重点市場において 2 位となっており、旅行前の情報源として旅行会社を除き、個人ブログなどのインターネット情報や親族・友人が多用されている[10]。

以上の観点から、日本への台湾人 WHM は日本での生活や旅行だけではなく、それに関する情報をインターネットなどで発信することを通しても、台湾人の訪日促進に貢献していると考えられる。しかし管見によれば、このように WH を観光の視点から解析する研究は見当たらず、その観光行動や消費行動のパターン、情報発信行動、満足度や課題などについて、確認が取れていない状況である。この背景の下に、WHM の行動、或いは意識などを究明することは WH の観光的価値を示すことに繋がり、WH に対する見方や扱い方の改善に導く糸口になると考えられる。それと同時に、台湾から日本への様々なタイプの旅行者の思いや期待を理

---

[3] 外務省：日韓ワーキング・ホリデー制度（download at 2013.12.20）によると、両国間の査証発給枠は 2002 年に 1,800 名、2006 年に 3,600 名、更に 2009 年に 7,200 名に拡大し、Embassy of Japan in Korea：日韓ワーキングホリデー（download at 2013.12.20）を参照すると、2011 年 10 月には 10,000 名となった。

[4] 台湾との窓口 公益財団法人交流協会 東京本部：お知らせ：日台双方でのワーキング・ホリデー制度導入について（download at 2013.12.20）による。

[5] 外務省：日本・香港ワーキング・ホリデー制度に関する口上書の交換（download at 2013.12.20）による。

[6] 日本政府観光局(JNTO)(2013)国籍別／目的別 訪日外客数(2004 年～2012 年)(download at 2013.12.20)によれば、2012 年 3 ヶ国の訪日観光客数はそれぞれ韓国 1,569,278 人、台湾 1,329,331 人、香港 447,486 人である。

[7] 行政院（2013）江揆：「青年度假打工協定」值得肯定（download at 2013.12.21）による。

[8] Pollster 波仕特線上市調（2009）日本為台灣民眾最想前往打工度假的國家（download at 2013.12.21）によると、WH で行きたい国で日本は 32.94%で 1 位、2 位はオーストラリアの 22.89%である。

[9] 交通部觀光局（2013）觀光局行政資訊系統【觀光市場調查摘要】2012 年國人旅遊狀況調查 P.26（download at 2013.12.21）による。

[10] 国土交通省観光庁（2013）訪日外国人の消費動向平成 24 年年次報告書 P.28（download at 2013.12.4）による。

解するのに役立つだけではなく、日本への来訪に関する課題、今後の二国間交流のあり方について考える上でも有効な試みであるのではないだろうか。

## 1.2　研究目的・意義

（1）目的

本研究は観光文脈における WH への調査分析がないことを確認した上で、日本への台湾人 WHM が活動期間中に起こした観光行動や消費行動のパターン、それに関する情報発信行動を解明することにより、WH の潜在的な観光的価値を明らかにすることを第一の目的とする。そしてそれに加え、WH の受け入れ体制の改善策や訪日促進への活用策に方向性を提示することを第二の目的とする。

（2）意義

本研究は、WHM を観光客、生活者、そしてエバンジェリスト[11]として捉え、彼らが日本で起こした観光行動や消費行動のパターン、そしてそれに関する情報発信行動を明らかにすることにより、WH のこれまでに見過ごされてきた、観光としての価値を示すことができる。また、活動を終えた WHM へのアンケート調査及びインタビュー調査の結果をまとめることにより、WH の受け入れ体制の改善策や訪日促進への活用策に対して方向性を提示することもできると思われる。

また、今回の調査・研究では、WH に限定しての調査・研究とし、それ以外の来訪者に関する言及を行わないが、調査・研究の中で明らかになるであろう様々な観光行動や消費行動のパターン、課題などへの理解は、より広範囲でのビジット・ジャパン事業で謳われている来日誘致活動、更には二国間（日本－台湾）の国際交流の促進についても、参考となり得ると考えている。

## 1.3　研究方法・流れ及び枠組み

上記研究目的を達成するために、本研究では文献調査、アンケート調査及びインタビュー調査を行う。以下はそれぞれの概要を述べた上、研究の流れ及び論文の枠組みを示したい。

[11] 原文は evangelist（英語）である。大辞林第三版によれば、原義は福音伝道者であるが、転義としてある製品に関する熱狂的な信奉者で他人にその魅力を伝えようとする人を指す。また、情報通信産業などにおいて、自社製品の啓発活動を行う職種である。ここでは転義の中の前者を取り、日本に好意を持ち、日本のことを周囲に対し、自発的かつ積極的に宣伝する人を意味する。

（1）文献調査

二つのパートに分けて行う。一つはWHに関する先行研究を収集してまとめ、これまでの研究の傾向を把握し、本研究の位置付けを行うことである。同時に、アンケート調査の調査項目及び内容を策定するための手掛かりを探る。もう一つは各種調査報告や新聞記事、関連著作などの関連資料を取り集め、台湾におけるWHの現状や9ヶ国との協定内容を整理することである。その際に、日本との協定内容やこれまでの実施状況、WHMがよくアクセスすると想定されるインターネット空間などを更に取り上げ、より詳細な考察を行う。調査の結果は第2章に記している。

（2）アンケート調査

台湾に帰国したかどうかを問わず、日本でのWH活動を終えた台湾人WHMを対象に、文献調査に基づいてGoogleフォームを用いて作成したインターネットアンケートによる調査を実施する。実施媒体は、WHMがよくアクセスすると想定されるフェイスブックグループ[12]、フォーラムサイト[13]や電子掲示板[14]を中心としながら、筆者の個人フェイスブックページにも同アンケートを載せ、友人に転載してもらう。実施期間は8月末～10月初旬の1ヵ月半とする。この調査において、最終的な回答者数は64人[15]であり、そのうち有効回答数は60であった。

アンケートの内容は基本情報、活動開始前、活動期間中及び活動終了後の四つのパートに分けられており、合計37問ある。調査項目として、まずは基本情報の他に、WHに参加した理由及び日本を選定した理由、そして終了後に日本または日本人に対する印象の変化や自らの再訪意欲、周囲への推薦意向と全体に対する感想や意見などとした。これらの項目を通して日本への台湾人WHMの活動開始前と終了後の心境変化を把握し、WH活用の可能性や施策改善のための手掛かりを探った。

次に活動期間中のアルバイトや各種費用の内訳、現地での観光行動や交流集会などについて調査し、WHMの生活者、観光客としての消費行動の実態を解明した。更に、利用した媒体や発信内容、発信頻度など、情報発信行動に関する実状を調査することにより、WHMのエバンジェリストとしての可能性を明らかにした。アンケート調査の結果は図表にまとめて第3

[12] 日本打工度假互助會（日本WH互助会／公開）、JPWH除役者聯盟（JPWH退役者連盟／非公開）、2010-2011 Go To Japan WH !!!（秘密）

[13] 背包客棧（バックパッカーズの宿）の中の日本打工度假版（日本WHフォーラム）

[14] 批踢踢實業坊（PTT実業坊）の中の海外打工旅遊（海外WH）WorkanTravel版、日本留學（日本留学）JapanStudy版、日本生活資訊（日本生活情報）Japan_Living版

[15] そのうち、1名は11月上旬にインタビューを実施する直前に文面で記入したもらった。

章に示しており、調査表（繁体中国語版、日本語版）は付録 1 及び付録 2 を参照されたい。

（3）インタビュー調査

アンケート調査では得られない、より詳細な情報を得るために、アンケートの内容と調査結果を基に質問項目を策定し、インタビュー調査を実施する。実施の手順について、まず、インターネットアンケートの末尾にハンドルネームと連絡先の自由記入欄を設け、引き続き本研究に協力してくれる志願者（ボランティアのインフォーマント）を募集する。次に、志願者にメールで連絡し、インタビュー調査に応じる意思があるかどうかを再確認すると同時に、アンケートの回答に不明な箇所がある場合、合わせてそれについて質問する。返信してくれた志願者のうち、調査に応じる意思があると確認できた対象者に対し、筆者の一時帰国時期及び志願者の所在地や都合に合わせ、具体的な日時や場所、形式などの調整を行い、最終的な日程を決めてインタビュー調査を実施する。

本インタビュー調査に応じてくれた対象者は合計 26 人であった。調査の実施期間は 10 月末～11 月上旬の約 2 週間とし、台湾或いは日本で直接対面形式、Skype や LINE などの通信ソフトの通話／チャット機能を利用した形式、メールで質問一覧を送る形式の三つの方法で実施した。それぞれの対象人数について、対面で 15 名、Skype で 6 名（うちビデオ通話 1 名、通話 4 名、チャット 1 名）、LINE で 2 名（うち通話 1 名、トーク 1 名）、メールで 3 名である。メール形式の場合、時間と空間の制限を受けないため、上記実施期間以外の期間にも実施した。

メール形式以外の実施の流れについて、主に二段階に分けて行い、第一にアンケート調査の結果をグラフで見せながら簡潔に説明[16]し、その結果に対する意見や感想を聞き取った。第二にアンケート調査で回答してくれた内容を文書に書き換えて渡し[17]、当時記入した内容を思い出してもらいながら、質問項目に沿って尋ねていった。基本的に自由に語ってもらうため、回答内容に応じて質問の順番を適度に入れ換え、深く追究していきたいものがあれば聞き込むようにしていた。インタビュー調査の結果は文字にまとめて第 4 章に表しており、質問項目（繁体中国語版、日本語版）及び同意書（繁体中国語版、日本語版）は付録 3 から付録 6 を参照されたい。

[16] Skype のビデオ通話や通話の場合は画面共有の形式でスライドを見せながらアンケート調査の結果を説明した。Skype のチャット、LINE の通話やトークの場合はアンケート調査の結果を文字化したファイルを送って見てもらう形式を取った。

[17] Skype や LINE の場合は文字化したファイルを送って見てもらう形式を取った。

（4）研究の流れ及び論文の枠組み

本研究の流れ及び本論文の枠組みを図式で図 1.1 に示している。

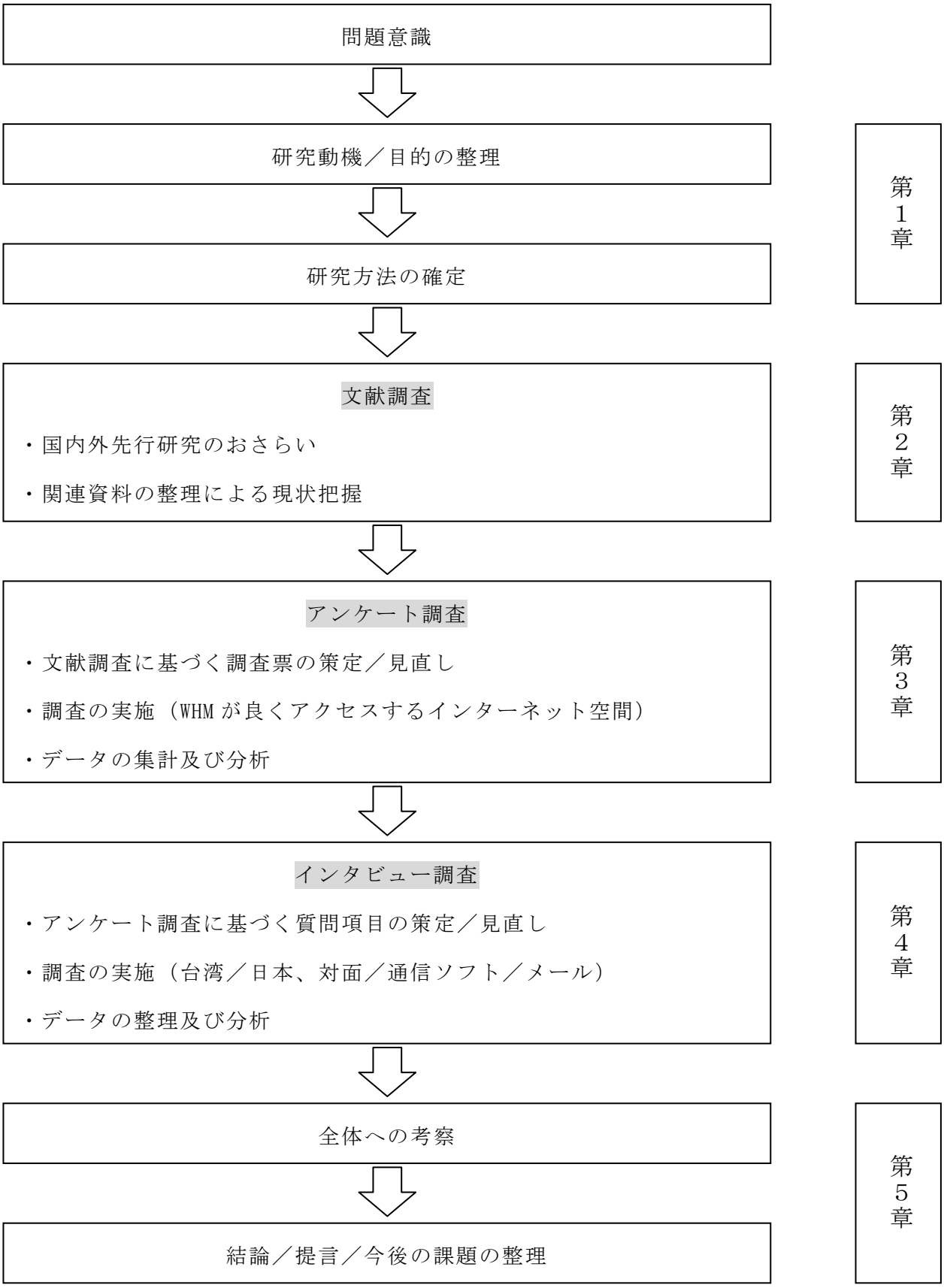



図 1.1　研究の流れ及び論文の枠組み

## 1.4　用語定義

（1）ワーキング・ホリデー

WH は一般的に「二つの国・地域間の取り決め等に基づき、各々の国・地域が、相手国・地域の青少年に対して自国・地域の文化や一般的な生活様式を理解する機会を提供するため、自国・地域において一定期間の休暇を過ごす活動とその間の滞在費を補うための就労を相互に認める制度」[18]とされるが、近年、日本においては「都市住民が農山漁村を訪れ、農林水産業等における軽作業の手伝いと観光をしながら、3～4 日程度の休暇を過ごす仕組み」[19]とする場合もある。また、台湾においても環境保護や自然文化体験を兼ねたものや、観光地の民宿やレストラン業者が提供する国内 WH が現れ始めた[20]が、本研究で取り扱うのはこの類のものではないため、WH の定義については上記一般的な定義に準じる。なお、台湾人が日本へ WH に行くことを「日本への WH」と称する。

（2）ワーキング・ホリデー・メーカー

前項に関連し、本研究では WHM を「国内において農山漁村や観光地を訪れ、諸作業の手伝いと観光や体験活動をしながら休暇を過ごす人」と捉えるのではなく、「他国・地域の文化や一般的な生活様式を理解するために、現地で就労と観光などの活動をしながら、一定期間の休暇を過ごす自国・地域の青少年」と定義する。なお、日本への WH に参加する台湾人 WHM を「日本への台湾人 WHM」と称するが、研究対象となる活動を終えた日本への台湾人 WHM のことを、副題では「日本への台湾人 WH 経験者」としている。

（3）観光的価値

冒頭の研究背景・動機で述べたように、WHM は滞在国で生活している中で、様々な観光行動や消費行動を起こしていることが考えられる。そして、インターネットを通して母国にいる家族や友人に、自らの旅行や生活などに関する情報を発信していることも予想される。このような現象は、二つの面において観光に影響を与えていると思われる。一つは、彼ら自身が現地での旅行や生活を通して支出した費用による影響、いわゆる観光による経済波及効果である。もう一つは、各種媒体を通して自らの経験について発信することによる影響、つまり潜在的なプロモーション効果である。本研究ではこの二者を合わせて「観光的価値」とし

---

[18] 外務省：ワーキング・ホリデー制度（download at 2013.12.20）による。

[19] 財団法人東京市町村自治調査会（2006）「島しょ地域におけるワーキングホリデー導入に関する調査研究報告書」P.11（download at 2013.12.26）による。

[20] 張巧臆（2012）「打工度假旅遊者之自我成長與能力提升」P.10 による。

て定義し、その解明を目的とする。

### 1.5　論文の構成

本論文は全 5 章で構成されている。

第 1 章は序章として、筆者の問題意識を基に、研究の動機・背景を整理した上で、研究の目的・意義を示した。その上で、目的に応じて選定された研究方法を説明し、研究の流れ及び論文の枠組みを提示し、本論文における重要用語の定義を行った。

第 2 章では、研究方法の文献調査に当たる部分について説明する。WH に関する国内外の先行研究と関連資料を収集整理し、これまでの研究の傾向及び台湾における WH、特に日本への WH の現状を把握する上、本研究の位置付けを行う。

第 3 章では、研究方法のアンケート調査に当たる部分について説明する。インターネットで実施されたアンケート調査の結果を図表にまとめ、調査票の基本情報、活動開始前、活動期間中、活動終了後の四つのパートに沿って考察と合わせて示す。

第 4 章では、研究方法のインタビュー調査に当たる部分について説明する。台湾と日本で実施されたインタビュー調査の結果とそれに対する考察を、WH に対する考え、ワーキングとホリデー、情報発信、感想及び意見の四つのカテゴリーに沿って述べる。

第 5 章は終章として、各調査を通して得た結果をまとめ、本研究の目的である WH の観光的価値を示し、更にそれに基づいて WH 関係者に対して提言を行い、今後の研究題材として本研究で取り残された課題を提示する。

# 2　先行研究及び現状把握

前章は本論文及び本研究の動機や目的、枠組みなどについて述べたが、本章では文献調査の結果を説明する。本章は先行研究及び関連資料を収集し、その整理の基に、WH に関するこれまでの研究の傾向、台湾における WH、特に日本への WH の現状及び詳細を示した上で、本研究の位置付けを行っていく。

## 2.1　WH に関する先行研究

WH という一見矛盾し合う言葉が示すように、労働と観光との結合を最初に提示したのは Pape（1965, p.337）である。若者が仕事に頼りながら旅行するが、仕事を二の次とし、旅行を重んじる現象を「touristry」と定義した。その後、Cohen（1973, p.91）により、夏休みなどを利用し、自国から他国へ短期労働に行くことを「WH」として初めて言及された。それらを引き継いで、Uriely and Reichel（2000, pp.269- 271）は、労働する旅行者（Working Tourists）を職業上の労働旅行者（Professionals as Working Tourists)、長期労働旅行者（Long-Term Budget Working Tourists）と WH（Working Holidays）の 3 種類にまとめ、WHM は就労を旅行経験の一部として見なす傾向があると述べた。

更に Uriely（2001）は、上記に旅行する労働者（Traveling Workers）を加え、WH 旅行者（Working-holiday tourists)、非正規労働旅行者（Non-institutionalised working tourists）と出稼ぎ労働者（Migrant tourism workers)、旅行する職業労働者（Traveling professional workers）の 4 種類に再分類して特性の比較を行い、WHM は就労を一種の余暇活動と捉えていることを示した。

前述した定義や特性による分類などに関する海外文献の他、WH に関して国内外ではどのような調査研究が行われたのだろうか。オーストラリア政府が大学の研究機関に委託調査した報告書「Evaluation of Australia's Working Holiday Maker（WHM）Program」（Tan, Richardson, Lester, Bai & Sun, 2009）は、WHM プログラムの経済的・労働市場的・社会的影響について総合的に評価することを目的としたものであるが、労働市場へのインパクトより、WHM が観光に費やした資金による経済的効果を評価し、労働力の提供（labour supply）よりむしろ観光の輸出（tourism export）といった方が相応しいとの結論を得た。

一方、日本において WH に関する研究が少なく、オーストラリアを研究対象とするものがほとんどなのが現状である。吉本・長尾（2008）は、日本における WH の特性と実態、WHM の WH への参加動機などを分析し、20 代後半の高学歴の女子青年にとって WH は自分自身を

見つめ直す機会であることを示した。

藤岡（2008）は、オーストラリアにおける日本人 WHM の就労実態や現地日本人コミュニティにおける役割、WH が移住経路である可能性を調査を通して明らかにした。増田（2011）は、オーストラリアの WH について簡潔に説明した上で、上記調査報告書を含めた 3 つの調査報告書に対して総合的な考察を行い、オーストラリアの労働事情と WH との関連性を解明した。

藤岡（2012a）はオーストラリアへの日本人 WHM が増加した理由と、彼らが語る動機の曖昧さをプッシュ要因、プル要因、媒介要因の三つの角度から検討した結果を記した。更に、藤岡（2012b）は WH の魅力と問題点を表した上で、語学力や就業などの面において WHM にもたらす効果とリスクを検証した。

台湾の場合はどうだろうか。日本と同様、関連研究が少なく、オーストラリアを研究対象とするものが多い。その内容を見てみると、WH への参加動機や体験内容、異文化への適応、WHM の性格特性、満足度や WH 経験によって得たものなどを中心とした、定性的なものが大半を占めている。近年、日本に関するものも出てきたが、これらの範疇を超えることはなかった。以下に上記内容の分類に沿って先行研究を整理する。

WH への参加動機や体験内容について、吳家瑋（2008）は WH への参加動機を「本来の生活環境からの逃避」、「オーストラリアへの好奇心」、「英語の学習」、「冒険への挑戦」と「自己実現」、体験内容を「鑑賞」、「娯楽」、「教育」、「逃避」と「社交」のそれぞれ五つにまとめ、WH 体験は国際観や自立性の養成に役立ち、物事に対する見方や考え方を変えていくことができると述べた。

鍾尚澄（2009）は、参加動機と体験内容を合わせて WHM を、より豊かな人生を求めて現地で活躍しながら各種体験を楽しめた「浮浪者」、語学学習と異国での生活体験を目的に苦労を経たものの満足した経験を得られた「言語学習者」、オーストラリアの労働賃金の高さを目当てにほとんどの時間を時給の高い仕事に費やした「金稼ぎ者」、WH に対する期待が高すぎたことで海外生活の孤独さと寂しさに耐えられず帰国した「幻滅者」の 4 種類に分類した。

巫佳芬（2010）は、WH への参加動機を「WH 自体の魅力」、「特定人生目標の履行」、「逃避欲求」、「体験希望」、「知識欲」、「リラックス願望」の六つに分類し、体験による学習内容を「言語」、「就労」、「文化」の三つ、WHM への影響を「個人成長」、「国際観の養成」、「交際範囲の拡大」、「就業機会の増加」の四つのカテゴリーに分け、そのうち文化の学習が WHM への影響が最も大きく、最も一般的な影響は個人成長であると示した。

林碧月（2010）はWHMは「異国で生活できること」、「アルバイトしながら旅行できること」、「外国語を喋る環境にいられること」、「長期旅行できること」を参加動機とし、「異国文化を体験した」、「視野を広げた」、「能力を向上させた」、「旅行への欲求が満たされた」経験を通し、「思い出を作ること」、「達成感を味わうこと」、「好奇心を満たすこと」、「自立性を養うこと」といった価値を追求しているとまとめた。

続いて異文化への適応について、呂昭瑩（2009）はWHへの参加動機は主に新しい刺激を得たいためと述べた上、異文化への学習は言語と非言語の二つの面において行われ、相手国の文化を尊重することは自国文化への再認識にも繋がり、個人への影響はすぐには現れないが、人生に彩りをつけているとした。

彭詩容（2010）は、WHMはWH活動期間中に移動に伴って異文化への適応が発生し、滞在地域によってその過程が違ってくると述べ、そうした適応の中で特に言語への適応が最も重要であり、その他の面における適応にも影響を与えると記した。また、適応はWH活動期間中だけではなく、WH終了後に台湾に帰国した際にも発生するとした。

李欣倫（2012）は、文化知力の概念を引用し、異文化への適応やアルバイトへの満足度の良し悪しはそれによって影響されるが、異文化への適応はアルバイトへの満足度にだけではなく、文化知力との関係性にも影響を与えていると分析した。

次にWHMの性格特性について、徐惠珍（2010）はWHMの性格特性の他に参加動機、満足度についても触れ、それぞれ「友好的」、「自己実現」、「WH体験で得られた収穫」が最も代表的な特徴であると示し、「外向的」、「開放的」、「友好的」と「慎重的」の四つの性格特性が高ければ高いほど、参加動機において「交際範囲の拡大」、満足度において「自然及び社会環境」、「職場環境」、「全体的な満足度」が高く、逆に「神経質」という性格特性が高ければ高いほど、満足度において「自然及び社会環境」、「利便性と親近性」、「全体的な満足度」が低いとの調査結果を提示した。

劉怡伶（2012）は、WHMに女性が多いことを述べた上、「友好的」、「開放的」、「慎重的」が主な性格特性であり、「旅行へのリスク意識」に有意の影響があり、更に「外向的」という性格特性と「旅行へのリスク意識」も「旅行目的地の決定」と有意の関連性があることを調査を通して明らかにした。

満足度やWHの経験によって得たものについて、前述した徐惠珍（2010）が満足度について触れた他、張巧臆（2012）はWHで得たものについて述べ、WHMは個人的理由と人生に彩りをつけたいという願望を参加動機とし、専門知識や語学力の不足、人間関係や職場におけ

る挑戦または困難に挑むことを通し、自己成長や能力向上、物事に対する見方や考え方がよりポジティブになったとの収穫を得たと究明した。

その他にアルバイトや旅行に追求するものに関するものも幾つかあった。盧怡君（2010）は、アルバイト動機はアルバイトへの満足度に、その満足度が余暇活動による利益への追求に、更にその追求が実際に余暇活動に参加する行動に、それぞれ有意の影響があることを示し、アルバイトへの満足度は余暇活動に参加する行動と有意の関連性があるとまとめた。鄭雲月（2011）は、旅行体験はWHMの各種体験において中核的な要素であり、旅行動機や自己実現と関連し合う関係にあると論じた。

最後に日本に関するものを見てみよう。張珮萱（2010）は、WHMは主にホテルやレストランでのアルバイトに従事し、心理面及び社交面において日本文化を体験していたことを述べた上、勤務地や勤務内容によって文化体験の内容も違ってくると指摘した。

羅雨欣（2011）は、WHMにとって「人」と係わる生活体験及び文化体験は最も印象に残るものであり、それらの体験を通して、WHMが学習・成長し、物事に対する見方や考え方を変えていくと分析した。

陳韋綾（2012）は、WHMが生活への適応及び職場への適応において最も困難とされたのはコミュニケーションと日本人との交流であることを示し、それ以外の衣食住などについては大きな問題がなく、文化の習得においては予期以上の効果を得ていると記述した。

以上にまとめたように、これまでの研究はWHの労働市場における意味、WHへの参加動機や体験内容、異文化への適応、WHMの性格特性、満足度やWH経験によって得たものなどを中心とした研究が大多数を占めている。一方、国内外においてWHMの長期滞在による効果を観光的価値として捉える研究は、調査対象がオーストラリアである報告書「Evaluation of Australia's Working Holiday Maker（WHM）Program」を除けばないに等しいことが分かる。そのため、本研究は観光的価値及び日本を取り扱うことにより、その不足を補うことができると思われる。

## 2.2　台湾におけるWHの現状

研究動機・背景でも述べたように、近年、自国青年の国際交流機会として、台湾政府はWHを積極的に推進しており、2009年から2013年の5年間で7カ国と協定を締結した。その結果、締結国を2004年のオーストラリアとニュージーランドの2カ国に2009年の日本を加え、更に2010年のカナダ、ドイツ、2011年の韓国、そして2012年のイギリス、2013年の

アイルランド、ベルギーと続き、現在の 9 カ国にまで増加させた[21]。そのため、台湾人青年への WH ビザ発給枠が増加し、加えてオーストラリアが WH ビザ発給枠に上限がない影響を受け、2006 年から 2013 年台湾人青年への WH ビザ発給枠は、図 2.1 で見られるように、2 千人未満から 20 倍以上の 4 万人超えになる勢いで鰻上りに成長してきた。そして、近い将来にフランスやハンガリーとの協定も締結[22]される見込みとなっており、WH 協定国数の増加に対する政府の積極的な姿勢により、今後は更に成長していくと思われる。

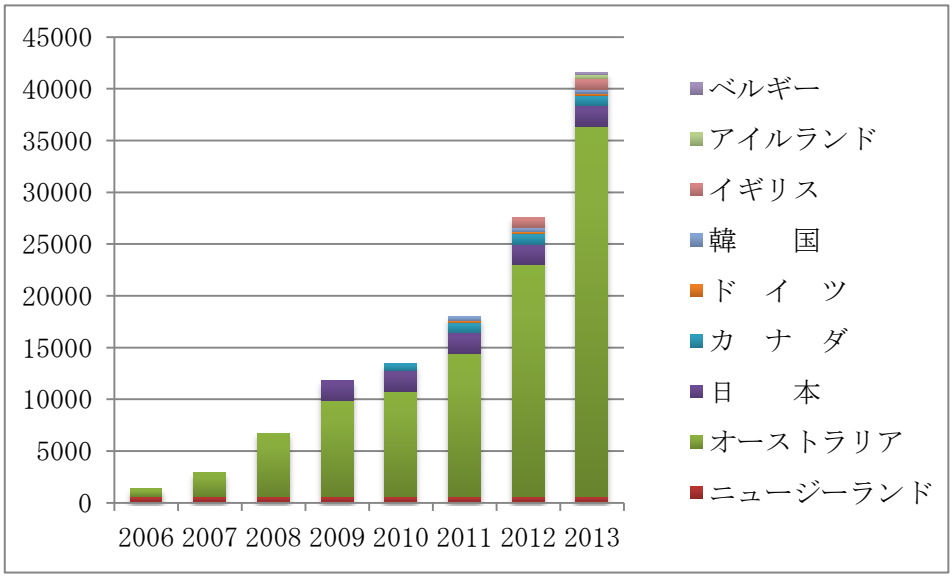



図 2.1　2006 年～2013 年台湾人青年への WH ビザ発給枠

*出典：オーストラリア移民局による統計資料（2013）、（2010）、中華民国外交部による WH 特設サイト「青年度假打工」（download at 2013.12.23）を基に筆者作成*

一方、このような趨勢に対し、批判的または懐疑的な意見も出ている。2012 年 9 月中旬、ある国内週刊誌の記事[23]が金銭目的でオーストラリアへ WH に行った高学歴青年の事例を取り上げ、食肉解体作業員など体力を要する仕事に従事していたことを標的に、WHM を「台労[24]」と名付けたことが起爆剤となり、それ以来 WH に関してメディアに多く報道されるようになった。その中で賛否両論ともあり、WH を労働力の輸出と見なして台湾の将来は危ういと批判する人もいるが、調査を通してその批判を否定し、WHM が求めるのは WH 本来の意義である[25]と訴える人もいる。どちらの論点が多いかは別にして、この記事によって台湾人の WH

---

[21] ここでの年別は協定発効日に準じる。

[22] 中時電子報(2013)赴法匈打工度假 恐得再等一等 12 月 19 日 オンライン記事(download at 2013.12.23)によれば、フランス、ハンガリーとの WH 協定締結は 2013 年末を目標としていたが、両国政府の関連機関と調整中のため、来年以降の見込みとなった。

[23] 今周刊（2012）清大畢業生為何淪為澳洲屠夫 9 月 12 日 821 期（download at 2013.12.23）による。

[24] 「台湾人労働者」の略であり、ここでは体力を要する仕事に従事する出稼ぎ労働者への蔑称である。

[25] オーストラリアの WH 経験者による自主的調査「『打工度假 ≠ 台勞！』－澳洲 Working Holiday 實況大

に対する見方は大きく影響されたと言えよう。

以上のように政府の積極的な推進とメディアによる賛否両論の報道により、台湾人青年のWHに対する認知度は高められたと思われる。このような傾向は上述した図2.1からも窺えるが、Google検索で検索された回数にも反映されている。図2.2はGoogleトレンドで2004年～2013年の10年間、WHを意味する二つのキーワード「打工度假」、「度假打工」の検索回数を表したものである。検索回数が最も多い月が100とされているが、その月は記事が掲載された2012年9月である。更に図2.2と図2.1を合わせて見ると、2007年の後半からWHが少しずつ知られ始め、2011年の後半からはほぼ50以上の水準に保っているのが分かる。

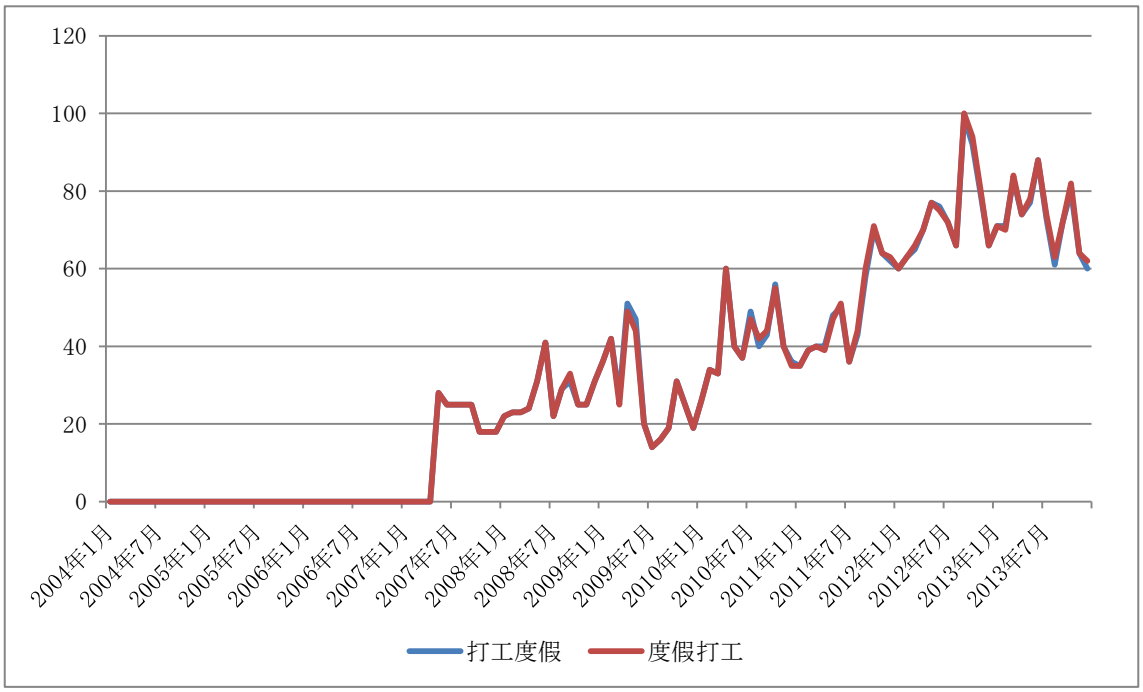



図2.2　WHを意味する二つのキーワードの検索回数

*出典：Googleトレンドで検索した結果（download at 2014.1.1）を基に筆者作成*

続いて各協定締結国との協定内容を対照しながら見てみよう。表2.1はその比較をまとめたものである。内容を詳しく見てみると、年齢制限はカナダ以外が18歳～30歳、有効滞在期間はイギリス以外が1年、回数制限はオーストラリア以外が1回となっている。有効滞在期間について、ニュージーランドは滞在期間中に3ヶ月以上園芸や栽培業の仕事に従事した

---

調査（2012）」（download at 2013.12.23）では、回答者160人のうち、（1）WHで得た全収入がAUD60,000以上の人は僅か4人（2）支出を控除した場合、2年でAUD30,000（約TWD1,000,000）以上台湾に持ち帰ってきた人は8人に止まる（3）初めてのアルバイトに就くまでの平均所要時間は3.75週（4）87%の人はオーストラリアへWHに行く選択は良かったと回答した、という四つの要点にまとめた。また、康文文教基金会による「台灣青年從事國外打工度假之動機與體驗調查（2012）」（download at 2013.12.23）は豪、日、加、独、韓、英6カ国のWH経験者226名に対して実施された。その結果、動機に関する25個の選択肢の中、「金稼ぎのため」が第24位となっており、上位3位は「世界を見回って視野を広げるため」、「語学力を向上させて自立性を養うため」、「新しい世界や物事に対する好奇心を満たせるため」となっている。どちらもWHM≠台労（出稼ぎのためにWHに参加したわけではない）と主張する結果となった。

場合、現地で証明資料を提出して申請すれば、ビザの有効期限を 3 ヶ月延長すること[26]ができる。また、回数制限でオーストラリアが 2 回となっているが、これは延長を希望する場合、セカンドビザを申請することができることを意味する。その条件はニュージーランドの延長ビザと同様、ファーストビザでの滞在期間中、指定された地域で特定された産業分野で一定の仕事に最低 3 ヶ月間(88 日)就労し、そのことを証明できるものを提出すること[27]である。なお、セカンドビザを取得できた場合、2 年目は就労に関する制約を受けることはない。

上記制限の他に人数についても制限されているが、上限がないのはオーストアリアのみである。カナダの場合は初年度 200 名だったが、開始して間もないうちに定員枠に達したため、急遽 700 名に拡大し、翌年度から 1,000 名になった[28]。現状、その 1,000 名は 3 種類[29]に分けられており、それぞれの種類に対して人数制限がある。日本の場合は 1 年に 2 回の申請時期があり、人数制限の半分に該当するビザ発給枠が配当される。イギリスも日本と同様だが、イギリス政府の関連機関に申し込む前に台湾の教育部青年発展署によって発行される協賛証明を取得しなければならない[30]。協賛証明は形式上のものであり、実質的に協賛金が出るわけではないため、預金残高証明に規定された金額、つまり現地での初期滞在費及び往復の航空券を購入するための資金は自ら用意することになる。

そして滞在期間中のアルバイトや学習・訓練に関する制限については、一つの雇用主の下でのアルバイト期間と、一つまたはそれ以上のコースやトレーニングを受ける合計期間を指すものである。これは、WH ビザを他目的に利用する、或いは WHM を一箇所に縛らないようにする工夫であるとも言えよう。なお、アルバイト制限で「無」と表記している国について、期間に対して制限がないという意味であり、全く制限がないというわけではなく、日本や韓国のように特定業種の仕事に従事できない場合もある。

各協定締結国との協定内容で主な違いについて以上で簡潔に説明したが、その他の制限や相違点については、表 2.1 を参照されたい。

---

[26] Working Holidaymaker Extension Visa (download at 2013.12.23) による。

[27] Working Holiday visa (subclass 417) (download at 2013.12.23) によると、指定された地域とは首都特別区や地方重要都市及び特定地域を除くエリア、産業分野とは農林水産業及び鉱業、建設業を指し、一定の仕事については別途詳細に規定されている。

[28] 中央通訊社 (2010)「台加青年交流 (打工度假)」名額自 100 年 1 月 10 日起增至 1000 名　12 月 7 日　オンライン記事 (download at 2013.12.23) による。

[29]前往加拿大旅遊與工作－加拿大打工度假，專為台灣青年設計的加拿大工作和實習計畫－體驗加拿大 (download at 2013.12.23) によれば、3 種類はワーキング・ホリデー (940 名)、ヤングプロフェッショナル (40 名)、インターナショナルコープ (20 名) であり、申請手続きや条件もそれぞれ違う。

[30] UK Border Agency－2013 Youth Mobility Scheme applications accepted for Taiwan from 7 March (download at 2013.12.23) による。

表 2.1　各国との WH 協定内容比較

| | NZ | 豪 | 日 | 加 | 独 |
|---|---|---|---|---|---|
| 締結日 | 2004.02.20 | 2004.07.15 | 2009.04.03 | 2010.04.16 | 2010.09.28 |
| 発効日 | 2004.06.01 | 2004.11.01 | 2009.06.01 | 2010.07.01 | 2010.10.11 |
| 年齢制限 | 18～30 | 18～30 | 18～30 | 18～35 | 18～30 |
| 有効滞在期間 | 1 年 | 1 年 | 1 年 | 1 年 | 1 年 |
| 回数制限 | 1 回 | 2 回 | 1 回 | 1 回 | 1 回 |
| 人数制限 | 600 | 無 | 2,000 | 1,000 | 200 |
| 申請時期 | 6 月 | ― | 5 月、11 月 | ― | 10 月 |
| 預金残高証明 | NZD 4,200 | AUD 5,000 | NTD 80,000 | CAD 2,500 | EUR 2,000 |
| 査証費用 | NZD 165 | AUD 420 | NTD 1,100 | CAD 150 | EUR 60 |
| アルバイト制限 | 3 ヶ月 | 6 ヶ月 | 無 | 無 | 3 ヶ月 |
| 学習・訓練制限 | 3 ヶ月 | 4 ヶ月 | 無 | 6 ヶ月 | 6 ヶ月 |
| その他制限 | 1.健康であり、犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること | 1.健康であり、犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと | 1.健康であり、健全な経歴を有し、犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること<br>4. 3 ヶ月以上滞在する場合、在留カードを申請すること<br>5. 発給日から 1 年以内に入国すること<br>6.風俗営業などが営まれている営業所への就労は禁止されること | 1.健康であり、犯罪歴を有しないこと<br>2.滞在期間健康保険に加入すること | 1.健康であり、犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること<br>4.語学学校／実習／研修の参加証明または雇用主の同意書を提出すること<br>5.申請日から 3 ヶ月以内に入国すること |

*出典：中華民国外交部及び各国実施責任機関のホームページ（download at 2013.12.22）を基に筆者作成*

表 2.1　各国との WH 協定内容比較（続）

| | 韓 | 英 | 愛 | 白 |
|---|---|---|---|---|
| 締結日 | 2010.11.23 | 2011.09.29 | 2012.10.09 | 2013.03.06 |
| 発効日 | 2011.01.01 | 2012.01.01 | 2013.01.01 | 2013.03.29 |
| 年齢制限 | 18～30 | 18～30 | 18～30 | 18～30 |
| 有効滞在期間 | 1 年 | 2 年 | 1 年 | 1 年 |
| 回数制限 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | 1 回 |
| 人数制限 | 400 | 1,000 | 400 | 200 |
| 申請時期 | － | 2 月、5 月 | － | － |
| 預金残高証明 | USD 3,000 | GBP 1,600 | EUR 4,000 | EUR 2,500 |
| 査証費用 | 無料 | USD 330 | NTD 1,000 | EUR 180 |
| アルバイト制限 | 無 | 無 | 無 | 6 ヶ月 |
| 学習・訓練制限 | 無 | 無 | 6 ヶ月 | 6 ヶ月 |
| その他制限 | 1.健康であり、犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること<br>4.90 日以上滞在する場合、外国人居留登録をすること<br>5.滞在地変更の場合、14 日以内に転入申請をすること<br>6.専門職に従事する場合、資格変更手続きを行うこと | 1.男性の場合､兵役終了または免除であること<br>2.教育部青年発展署から協賛証明を取得してから 3 ヶ月以内にビザを申請すること<br>3.申請日から 3 ヶ月以内に入国すること | 1.犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること<br>4.90 日以上滞在する場合､外国人居留登録をすること<br>5.申請日から 6 ヶ月以内に入国すること | 1.健康であり､犯罪歴を有しないこと<br>2.被扶養者を同伴しないこと<br>3.滞在期間健康保険に加入すること<br>4.語学力に関する面接を受けること<br>5.入国後 8 日以内に居留登録をすること |

*出典：中華民国外交部及び各国実施責任機関のホームページ（download at 2013.12.22）を基に筆者作成*

## 2.3　日本への WH の詳細及び現状

前節では台湾における WH の現状及び 9 つの協定締結国との協定内容の比較を行い、各国間の主な差異を概ね把握できた。本節では本研究の研究対象国となる日本を取り上げ、台湾から日本への WH の詳細及び現状を見ていきたい。

台湾と日本との間で WH 協定が締結されたのは 2009 年のことであり、4 月 3 日に双方への書簡発出によって WH 制度が導入され、両国の交流や相互理解の促進に資するものだと期待されている。日本側の実施責任機関である公益財団法人交流協会は、公式ホームページ上の査証案内において、WH は余暇を過ごすことを主な目的とし、就労はその付属的な活動であること、そしてインターンシップや中長期の就学は WH と趣旨が異なり、別の査証に該当することを明記している。この文面から、WH は原則ホリデーの方が占める比重が大きく、中長期の就労や就学などは認められないことが分かる。

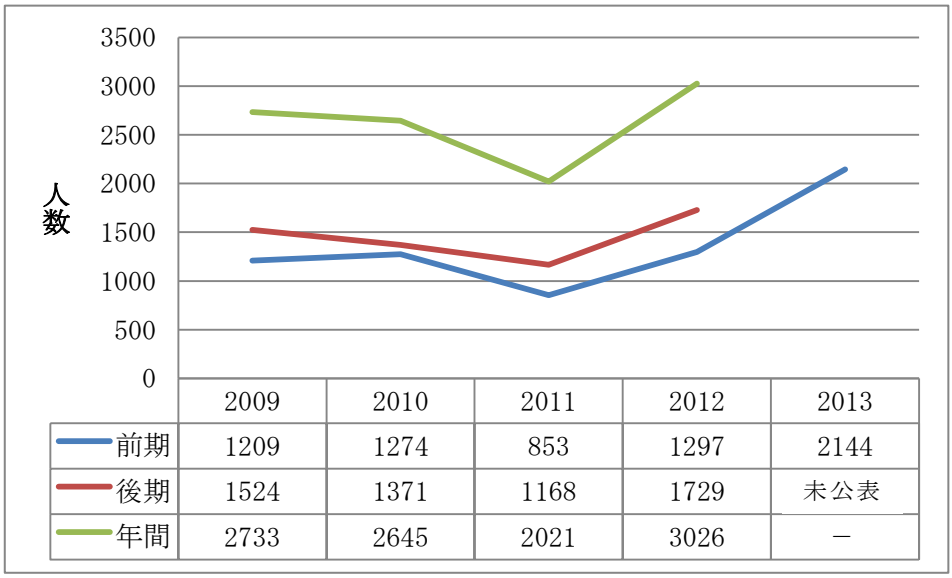
日本への WH は日本に対する認識を深めてもらうことが趣旨のため、申請資格は基本的に表 2.1 に示されている内容だけであり、語学力に対しては特に規定がなく、たとえ日本語ができなくても申請できる。また、申請書類からも WH の趣旨が重視されている印象を受ける。証明資料以外に記入が必要な書類には、ビザ申請書や履歴書、調査表など基本情報に関するものの他、WH 制度を利用したい理由を記した理由書と日本に入国後に何をしたいかを明記した計画書が含まれている。交流協会はこのように、上記証明資料及び申請書類を以てどの申請者に WH ビザを発給するかを判断している。なお、WH 査証に関する注意事項や各種書類の様式は、付録 7 から付録 13（公益財団法人交流協会 HP より転載）を参照されたい。

一方、現行のサポート体制はどのようなものなのだろうか。公式に認定された支援機関は公益財団法人交流協会のみとなっている。WH に関する情報は、基本的にホームページの「WH Q&A」に掲載されているが、それ以外に具体的なサポートがないのが現状である。また、WH の実施状況を把握するためにあると思われるアンケート調査については、「郵送または電子メールで提出された場合が多く、回収された資料は説明会などの補足資料として利用されるが、集計は行われていない」という、データを活用し切れたとは言えない回答[31]を得た。

続いて実際の申請状況を見てみよう。冒頭の研究動機・背景で述べたように、日本は WH で行きたい国で 1 位に選ばれ、観光で訪れた国で 2 位と高い人気を博している。また、台湾における対日世論調査では、2008 年の初回実施から連続 4 回で日本に好意的な結果が得ら

[31] 11 月上旬の電話取材及び 12 月上旬のメールでの問い合わせによる。

れた[32]。以上のことから、日本への WH に興味を持っている台湾人青年は大勢いるだろうと想定されるが、実際に問い合わせたところ、図 2.3 で表している回答を得た。




| | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 1209 | 1274 | 853 | 1297 | 2144 |
| 後期 | 1524 | 1371 | 1168 | 1729 | 未公表 |
| 年間 | 2733 | 2645 | 2021 | 3026 | － |

図 2.3　日本への WH 申請者数

*出典：11 月上旬の電話取材及び 12 月上旬のメールでの問い合わせによって得た回答を基に筆者作成*

図 2.3 を見て分かる通り、開始してまだ 5 年目だが、初回から発給枠の 1,000 名を超える申請が殺到し、その後も東日本大震災の影響を受けた 2011 年前期を除き、全て定員数を上回っている。全体的に見ても増加傾向にあり、2013 年後期の数値はまだ公表されていないが、前期より後期の申請者数が多いというこれまでの数年間の傾向を見ると、2013 年の年間申請者数は 4,000 人を超えることも予想し難くないだろう。

申請者数が増加する傾向は、Google 検索で関連キーワードが検索された回数にも表されている。前節と同様、Google トレンドで WH が開始された 2009 年～本年 2013 年の 5 年間、日本で WH を意味する四つのキーワード「日本打工度假」、「日本度假打工」、「打工度假日本」、「度假打工日本」の検索回数を調べ、図 2.4 に示した結果を得た。この図から、最初の 2 年間は申請期間[33]の前の月（4 月と 10 月）にだけ検索され、2011 年の東日本大震災による低迷が過ぎた後、依然として 2 つの申請期間の前に集中する傾向があるが、それ以外の時期にも検索されるようになった。特に今年の 4 月と 10 月は検索回数が連続して刷新され、日本へ

[32] 公益財団法人交流協会がニールセン社に委託して 2008 年度を初回実施とした世論調査（download at 2013.12.24）である。調査は主に最も好きな国、今後最も親しくすべき国、日本に親しみを感じるか、日本に旅行したいと考えるかの四つの質問を調査項目としている。調査の結果、4 回連続（2008 年度、2009 年度、2011 年度、2012 年度）で日本が最も好きな国で 1 位（2 位以下と大差をつけている）、今後最も親しくすべき国で 2 位（1 位は中国）となっており、日本に親しみを感じるかと日本に旅行に行きたいと考えるかのどちらの質問でも肯定的な回答が占める比率が高い。

[33] 2009 年前期だけが 6 月申請だったが、協定締結のお知らせが出されたのは 4 月初旬であった。

の WH の人気がますます上昇していることが窺える。

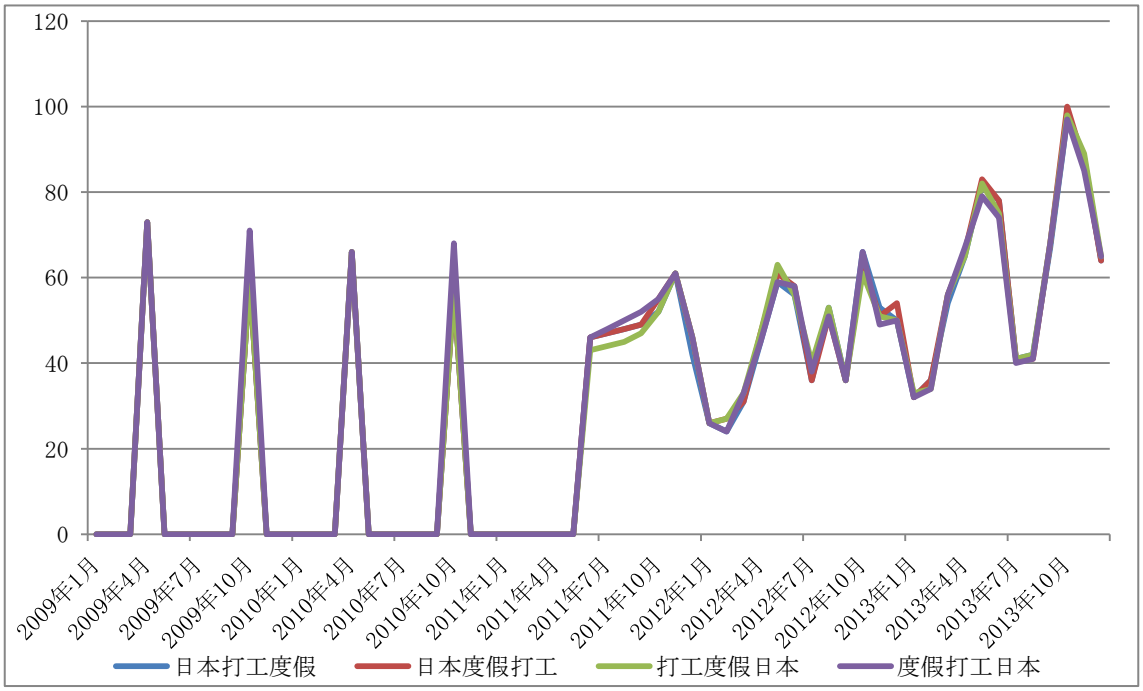



図 2.4　日本 WH を意味する四つのキーワードの検索回数

*出典：Google トレンドで検索した結果（download at 2014.1.1）を基に筆者作成*

以上見てきたように、WH に関する台湾社会全体の動向と、台湾人青年が日本への WH に示した高い関心度から、申請者数は今後更に増加していき、韓国のようにビザ発給枠が拡大される可能性も無きにしも非ずだろう。そのため、WH または WHM の特性を掴み、それに対して対応策を講じることは価値のあることだと思われる。

## 2.4　日本への WH に関するインターネット情報源

2 節及び 3 節で述べてきた内容は、WH に申請するに当たって必要不可欠な情報だと言えるが、WHM はどのようなルートを通して WH に関する情報を入手しているのだろうか。以下に台湾から日本への WH を中心に幾つかの代表的な情報源を簡潔に考察していきたい。

（1）政府行政機関及び WH 協会

前述した通り、台湾政府は積極的に WH を推進しているため、近年では図 2.5 及び図 2.6 で見られるような WH または青年国際交流に関する特設サイトが設けられている。前者には各協定締結国の申請条件や Q&A がまとめられており、先輩達の体験談や政府主催イベントの映像や写真、関連リンクなどの情報が掲載されている。後者には WH 以外に留学や遊学、海外インターンシップ、国際ボランティア、国際会議及びイベント、研修・トレーニングに関する情報もあるが、WH に関しては主に各協定締結国の基本情報、注意事項や労働法令が

主に提供される情報となる。

図 2.5　WH 特設サイト「青年度假打工」

*出典：「青年度假打工」ホームページ（download at 2013.12.22）*

図 2.6　国際交流情報サイト「iYouth 青少年國際交流資訊網」

*出典：「iYouth 青少年國際交流資訊網」ホームページ（download at 2013.12.24）*

政府行政機関による情報サイト以外に、台湾と日本とも WH 協会が存在している。台湾の場合は台灣國際打工渡假教育協會（台湾国際 WH 教育協会／Taiwan International Working Holiday Association、略称 TIWHA）と称し、2008 年 5 月 18 日に設立された、WH の認知度向上や WH に関する国内外情報の取りまとめ、出国前の教育訓練及び帰国後の経験談講座などを主な任務とする非営利社会団体である。協会主催のイベントに参加するにはメンバー会

員になる必要があるが、登録料は TWD 1,200（学生の場合は TWD 1,000）となっている。

図 2.7　台灣國際打工渡假教育協會（台湾国際 WH 教育協会）

*出典：「台灣國際打工渡假教育協會（台湾国際 WH 教育協会）」ホームページ（download at 2013.12.24）*

図 2.8　一般社団法人日本 WH 協会

*出典：「一般社団法人日本 WH 協会」ホームページ（download at 2013.12.24）*

日本の場合、以前 WH の支援と促進を目的に厚生労働大臣の許可を受けて設立された公益財団法人日本 WH 協会が存在していたが、2010 年の 7 月末に業務が停止され、解散された[34]。解散後に幾つかの類似団体が設立されたが、ここでは法的措置に則って商号などを譲渡された一般社団法人日本 WH 協会（Japan Association for Working Holiday Maker、略称 JAWHM）を取り上げて考察を行う。一般社団法人日本 WH 協会は、日本青年に対して WH で出国する前

[34] トラベルビジョン（2010）日本ワーキング・ホリデー協会が破産手続きを開始－会員企業や利用者減少し 8 月 17 日 オンライン記事（download at 2013.12.24）によると、公益財団法人日本 WH 協会は債務超過により、2010 年に破産手続きが開始され、解散された。

のセミナー開催や情報提供、帰国後の就職支援以外に、来日中の外国人青年に対しても生活情報の提供やアルバイトの紹介を行っている。なお、日本青年がメンバー会員になるには JPY 5,000 の登録料が要るが、外国人青年は無料で生活情報及び交流の機会が得られる。

（2）フォーラムサイト

前項では比較的公式の情報源を見てきたが、続いて非公式な情報源を見てみたい。フォーラムサイト「背包客棧（バックパッカーズの宿）」は 2004 年に設立された台湾最大の旅行フォーラムサイト[35]であり、主に紀行文や感想文、航空券やホテル情報など、台湾国内及び海外への個人旅行向けの情報が集約され、地域毎に一つのフォーラムにまとめられている。また、WH 協定締結国毎に特設フォーラムも開設されているため、個人旅行客にだけではなく、WHM にも意見交換や情報交流の場として多用されている。

図 2.9　背包客棧（バックパーカーズの宿）

*出典：「背包客棧（バックパーカーズの宿）」日本 WH フォーラム（download at 2013.12.25）*

（3）フェイスブックグループ

フォーラムサイトの他に、フェイスブックグループも WHM に多用されている情報源の一つである。WH に関するフェイスブックグループは多数存在しているが、日本への WH に関して最も代表的なものとして、メンバー数が 14,000 名を超える「日本打工度假互助會（日本 WH 互助会）」がある。明確な開設日は不明だが、創設者の前項フォーラムサイトへの投稿[36]から、2011 年 2 月に設立されたと思われる。掲載内容を見てみると、申請関連情報から旅仲間の

[35] 背包客棧－維基百科，自由的百科全書（download at 2013.12.25）によれば、登録者数は約 79 万名、そのうち約 6.1 万名が頻繁に活動している。

[36] 日本 WH 互助会の創設者の投稿「日本打工度假互助會」http://www.backpackers.com.tw/forum/showthread.php?t=443626（download at 2013.12.25）による。

募集、アルバイトやシェアハウス／ゲストハウス情報、生活用品の引き継ぎなど、実用性の高い、且つ即時性のある情報が網羅されている。

図 2.10　日本打工度假互助會（日本 WH 互助会）

*出典：「日本打工度假互助會（日本 WH 互助会）」グループページ（download at 2013.12.25）*

（4）電子掲示板

上記以外にもう一つ挙げられる情報源として電子掲示板（Bulletin Board System、略称 BBS）がある。電子掲示板「批踢踢實業坊（PTT 実業坊）」は、1995 年に創設された、登録者数延べ 150 万、1 日平均使用者数延べ 24 万を超えた台湾最大の BBS[37]である。海外打工旅遊版（海外 WH 掲示板、WorkanTravel）は、2 万個以上ある掲示板のうちの一つであり、各国への WH に関する情報が書き込まれている。日本を中心としたものではないため、日本旅行や生活、留学に関する掲示板と合わせて利用される場合が多いと思われる。

図 2.11　批踢踢實業坊（PTT 実業坊）

*出典：「批踢踢實業坊（PTT 実業坊）」WorkanTravel 掲示板（download at 2013.12.25）*

[37] 批踢踢－維基百科，自由的百科全書（download at 2013.12.25）による。

（5）エージェンシー

以上三つの情報源は、WH の先輩や同じく WH に高い関心を持っている人達との交流によって成立したものであるが、全て自分で手配するのではなく、エージェンシーに依頼する人もいると想定される。ここでは、上記三つの情報源でよく取り上げられる「JPTIP」に対して考察する。JPTIP は WH の他に留学や遊学もサービスの対象となっているが、留学や遊学の場合は手数料無料[38]であるのに対し、WH は会費 NTD 999 の会員制となっている。WH に対して提供されるサービスとして、出国前は説明会及び申請書類の添削、特設日本語コース、航空券の予約、語学学校／住居／アルバイト探し、保険の加入や注意事項が書かれた冊子の配布など、活動期間中は交流イベントやカウンセリングなどがある。サービス内容は個人のニーズに応じて選択できるため、諸手続きや自分の日本語力に不安を感じる人にとって良い選択肢であるとも言えよう。

図 2.12　JPTIP 日本留學、遊學、打工度假、日語顧問專業機構

*出典：「JPTIP 日本留學、遊學、打工度假、日語顧問專業機構」ホームページ（download at 2013.12.25）*

前述した五つの情報源の他に、ブログや WH 専門書も情報源として考えられる。ブログの場合は検索エンジンでキーワードを入力すれば関連するものが出てくる。WH 専門書の場合はオーストラリアを扱うものが多いが、近年では日本に関するものも数冊出版されている。なお、この両者は一つだけを取り上げることが難しいため、ここでは詳述しない。

本節では日本への WH に関する主なインターネット情報源をまとめたが、アンケート調査とインタビュー調査で、情報の収集や発信に対して考察を行う際は、以上の情報源をベースとしたい。なお、本研究では情報発信行動に焦点を当てているため、アンケート調査やイン

[38] 保証金として NTD 1,500 を支払うが、手続き終了後に全額返却される。

タビュー調査においては、特に書き込みなど情報の交流が頻繁であるフォーラムサイト及びフェイスブックグループ、電子掲示板の三つに重点を置きたい。

## 2.5　まとめ

本章は、先行研究及び関連資料の収集整理を通し、これまでの研究の傾向と台湾における日本へのWHの現状を把握した。先行研究では、WHという労働と観光と結合した言葉の出現と、WH大国であるオーストラリアがWHへの評価から、日本及び台湾におけるWHに関する研究をおさらいした。日本と台湾とも関連研究がそれほど多くなく、オーストラリアを研究対象としたものがほとんどであるが、日本の場合は就業への影響や現地での就労実態など、労働の側面に近い視点で書かれたものが多い印象を受けた。

台湾の場合は参加動機や体験内容の解明とそれによるWHMの分類、異文化への適応が現地での各種体験や満足度への影響、WHMの性格特性と満足度や旅行に対する諸意識との関係、WH経験を通してどのような収穫を得たのか、現地での労働や旅行との関連性などを中心としたものが主であった。その中で日本に関するものも、アルバイトと文化体験との関係や各種体験が個人への影響、適応上に遭遇した困難や挑戦など、いずれも上記他国に対する研究と同様な傾向が見られ、日本への台湾人WHMの観光的行動、消費行動及び情報発信行動に関する研究は皆無であった。この点において、本研究が取り扱う題材の切り口の独自性が明確に浮かび上がる。

続いて台湾におけるWHの現状では、WHの近年の発展と各協定締結国との協定内容の比較を行った。WHは国際交流政策の一環として政府に推進されることもあり、メディアの報道によって更に火が付き、若者に注目されるようになったことで、毎年の申請者数も、インターネットで検索された回数も右肩上がりに増加してきた。他方、各協定国との協定内容の比較において、主な相違点を取り上げて簡潔に説明し、国によってWHに対する制限などの規定が違うことを示した。

次に、台湾から日本へのWHの詳細と現状に対して更に考察を行った。申請に関しては、申請者がWHの趣旨に違反しないように、基本的な規制として理由と計画の明示が要求されている。サポート体制については、ホームページに関連情報が掲載され、アンケート調査で得たデータを説明会などに運用させるのが実情である。一方、申請状況とインターネットで検索された回数は、台湾人が日本に好意を抱いていることもあり、2011年の東日本大震災による一時的な落ち込みを除き、2009年の開始以来は基本的に増加傾向にある。従って、

前節と合わせて見れば、WH または WHM の特性を理解し、それに対応策を講じるのは有意義なことだと思われる。

最後に WHM が関連情報を獲得する主な情報源について考察した。政府行政機関や WH 協会など比較的公式なものの他、台湾においてメンバー数の多いフォーラムサイト、フェイスブックグループ、電子掲示板など非公式なものや、エージェンシーが運営するサイトなどを幾つか例示し、その基本情報や特性を整理し、本研究のアンケート調査及びインタビュー調査の参考とすることにした。

以上で見てきたように、本研究は WH の観光的側面に焦点を当て、これまでにあまり注目されなかった活動期間中に WHM が起こした観光行動や消費行動のパターンに加え、情報発信行動による潜在的な観光宣伝効果を研究対象とすることに独創性を有している。また、WH 大国とされているオーストラリアではなく、日本を取り扱うことに関しても、改善策や活用策の提示といった意義があり、いずれの面においても先行研究の不足を補うことができると思われる。

本章は WH に関するこれまでの研究と現状について述べ、WH の基本を把握したが、次章は実際にアンケート調査を実施した結果及びそれに対する考察を中心に述べる。

# 3　アンケート調査結果の整理・分析

本章は、日本への台湾人 WH 経験者を対象に実施したアンケート調査の結果及びそれに対する考察を示したものである。本調査は文献調査に基づいて Google フォームを用いて作成したインターネットアンケートを利用し、日本への台湾人 WHM がよくアクセスするフォーラムサイトやフェースブックグループ、電子掲示板及び筆者の個人フェースブックページで実施した。調査期間は 2013 年 8 月末～10 月初旬の 1 ヵ月半とし、回答者数は 64 人であり、そのうち有効回答数は 60 であった。アンケートは基本情報、活動開始前、活動期間中及び活動終了後の四つのパートに分けられており、合計 37 問あるが、以下はその四つのパートに沿って調査の結果及び考察を述べていきたい。

## 3.1　基本情報

（1）男女比及び年齢

回答者の男女比について、図 3.1 を見て分かるように「女性（44 名／73.33%）」は高い比率を占めており、「男性（16 名／26.67%）」を大きく上回っている。

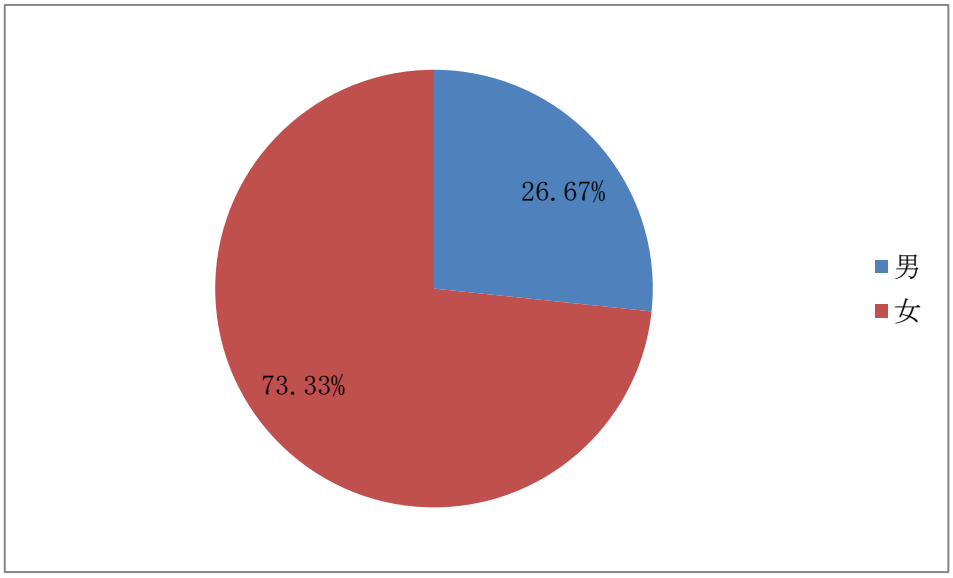



図 3.1　男女比（n＝60）

WH は 18 歳～30 歳の青年を対象としているが、本調査では 20 歳以下の回答がないため、21 歳以上のみの結果となった。25 歳で区切ると、図 3.2 に示されるように、「26 歳以上（44 名／73.33%）」が占める割合が高く、「25 歳以下（16 名／26.67%）」のおよそ 3 倍となっている。更にそれぞれの内訳を図 3.3 で見てみると、「25 歳以下」では「24 歳（6 名）」が最も多く、23 歳～25 歳に集中しており、「26 歳以上」では「29 歳（12 名）」が最も多く、28 歳～31 歳に集中している傾向が見える。それと同時に、年齢制限の上限に近い 28 歳以上が

全体の半数以上を占めていることも分かる。

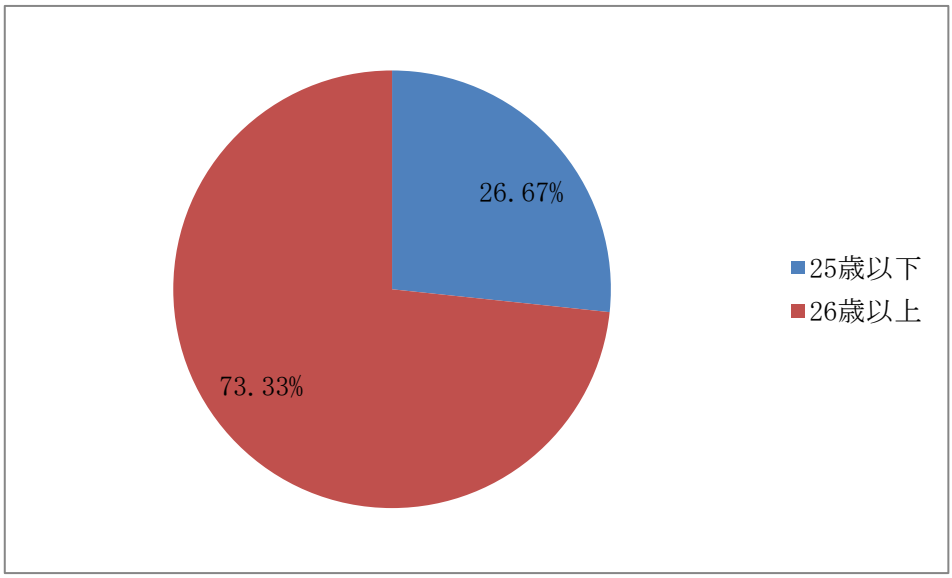



図 3.2　当時年齢（n＝60）

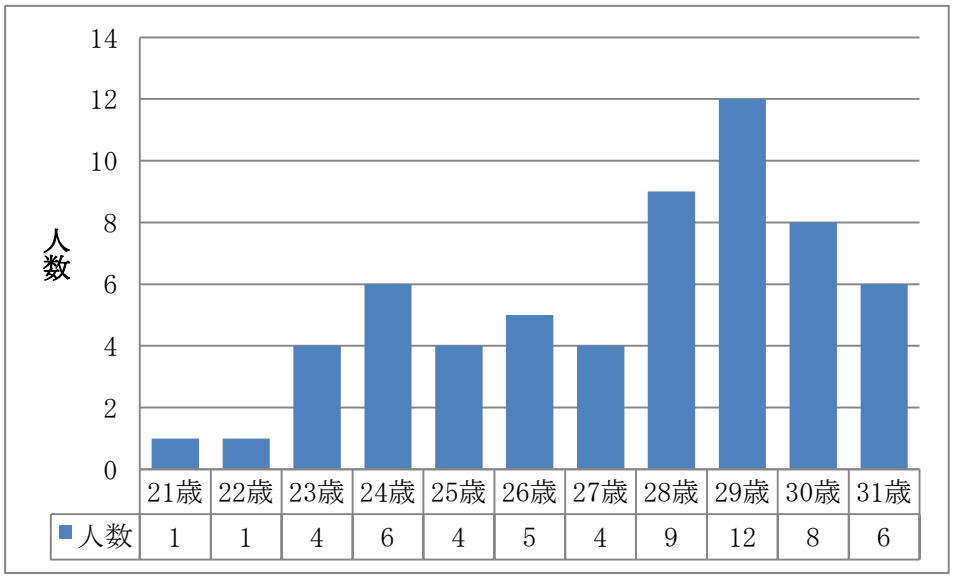



図 3.3　当時年齢の内訳（n＝60）

（2）滞在時期及び滞在期間

実際の滞在時期について、アンケートでは直接聞いていないが、現在年齢から当時の年齢を引いて概算した結果を図 3.4 に表した。「2012 年～2013 年（30 名／50.00%）」の回答が半数を占めており、それ以外の回答は時間軸に遡っていくにつれて回答者数が減っている。

更に実際にどのぐらい日本に滞在していたかの設問に対し、図 3.5 の通り、8 割近くの回答者が「12 ヶ月（47 名／78.33%）」と記入した。次に多いのは 1 割を占める「11 ヶ月（6 名／10.00%）」となるが、「5 ヶ月」と回答した 1 名を除き、ほぼ全員の日本での滞在期間が半年以上に及んでいる。

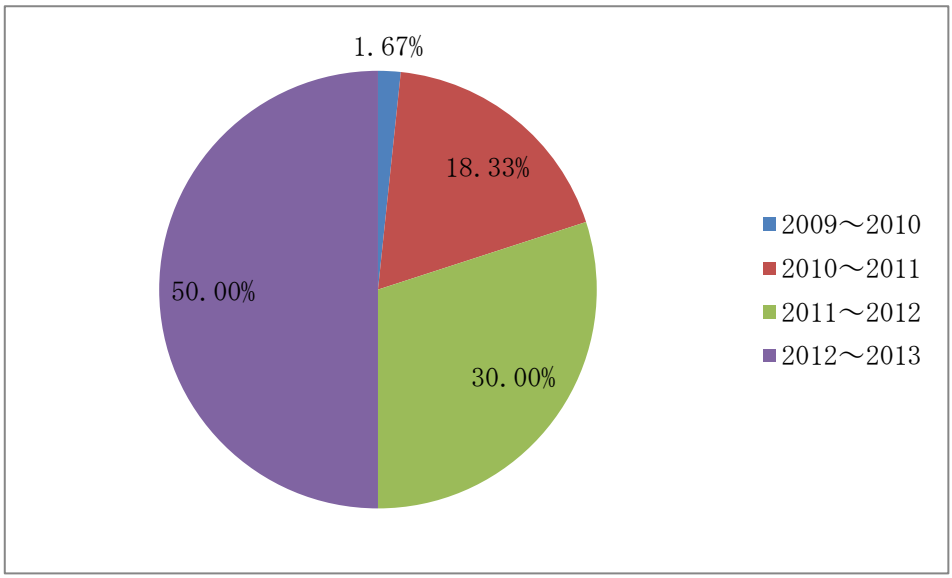
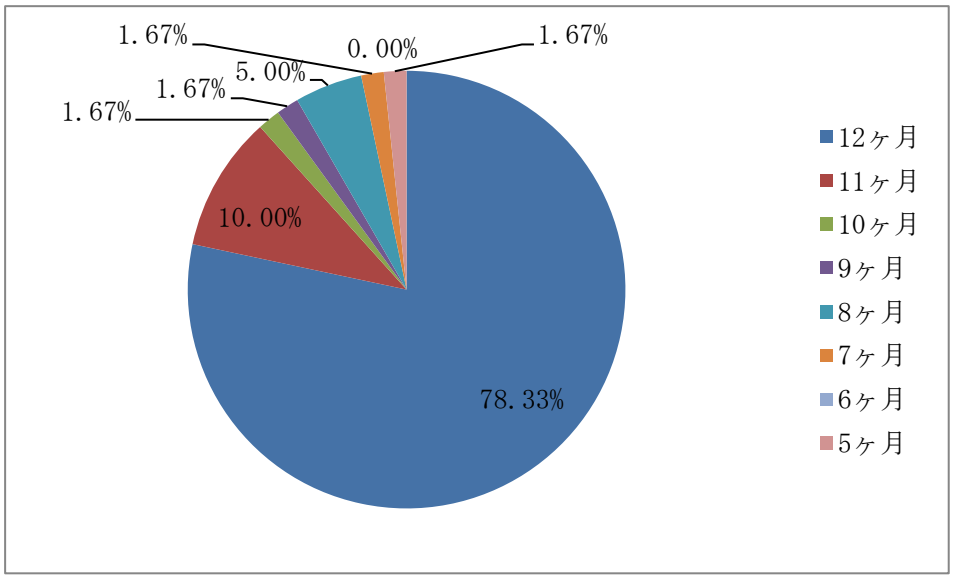



図 3.4　滞在時期（n＝60）




平均値＝11.42 ヶ月

最頻値＝12 ヶ月

中央値＝12 ヶ月

第一四分位数＝12 ヶ月

第三四分位数＝12 ヶ月

図 3.5　滞在期間（n＝60）

（3）主な居住地（複数回答可）

WH で日本にいた際に 1 ヶ月以上滞在した都道府県を主な居住地として定義して質問したところ、図 3.6 のように 2 位の「東京（20 名）」よりも「大阪（24 名）」が 1 位にランクインされ、その次に 3 位の「北海道（9 名）」という結果を得た。その回答を地方別で再整理すると、図 3.7 で見られるように、都道府県別の結果と関連し、「関西（31 名）」と「関東（29 名）」が 1 位と 2 位を占め、「中部（9 名）」が近隣数県の人数を足して単体の「北海道（9 名）」と同位の 3 位という結果となった。これらの結果は日本への台湾人 WHM は東京と大阪を中心とした関東、近畿の二大都市圏に集中し、その間に挟まれている中部と北海道を除き、東北や中国、四国、九州地方への渡航者はほとんどいないことを表している。なお、大阪が東京を超えて 1 位になったところと、北海道が上位 2 位とかなりの差がありながら、少な

くない回答者に選択されているところに注目すべきである。

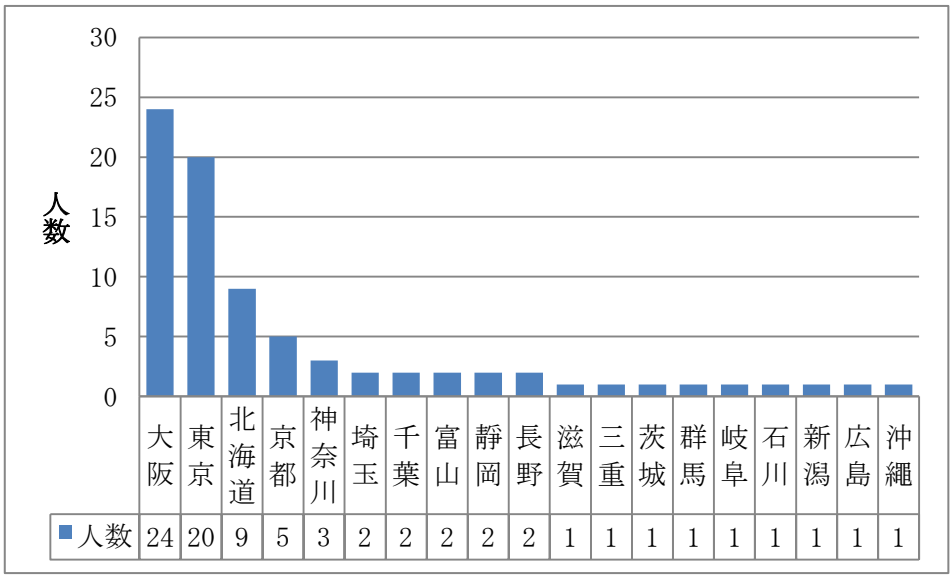



図 3.6　主な居住地（都道府県別）

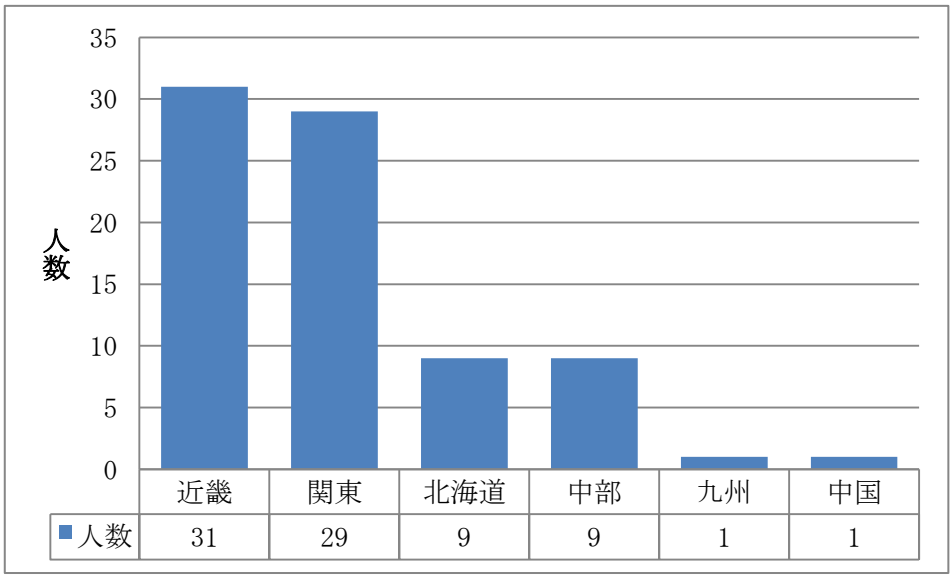



図 3.7　主な居住地（地方別）

（4）WH に参加した理由（複数回答可）

続いて図 3.8 では WH に参加した理由について質問した結果を示している。上位 3 位として「異国生活を体験できる（56 名／93.33%）」、「異国の自然文化を深く体験できる（46 名／76.67%）」、「異国の言語を学べる（46 名／76.67%）」、「異国で長期旅行できる（42 名／70.00%）」が挙げられる。1 位と 2 位から、日本への台湾人 WHM は異国での体験と外国語の学習の 2 点を主な理由として WH に参加していることが分かる。一方、上記以外の理由を見ていくと、4 位に「異国で合法的にアルバイトできる（35 名／58.33%）」があるが、3 位の「異国で長期旅行できる」より下位であることから、日本への台湾人 WHM にとってワーキングもホリデーも WH に不可欠な要素であると同時に、前者（ワーキング）より後者（ホリデ

一）の方を重んじていることが窺える。更に、WH と海外に行くこととの関連に因んで「国際的視野を身につけられる（32 名／53.33%）」は連想しやすいが、「現在の生活から離れられる（27 名／45.00%）」が意外に多くの票を集めていることは興味深い。なお、その他の回答について、「日本語塾の開業に向けての準備」、「芸能人の追っかけ～日本人のファンと同様のスタートラインに立てる」、「恋人が日本にいるので、日本での生活に慣れることができるか試してみたい」（共に 1 名）など日本を選定した理由に近いものがある。

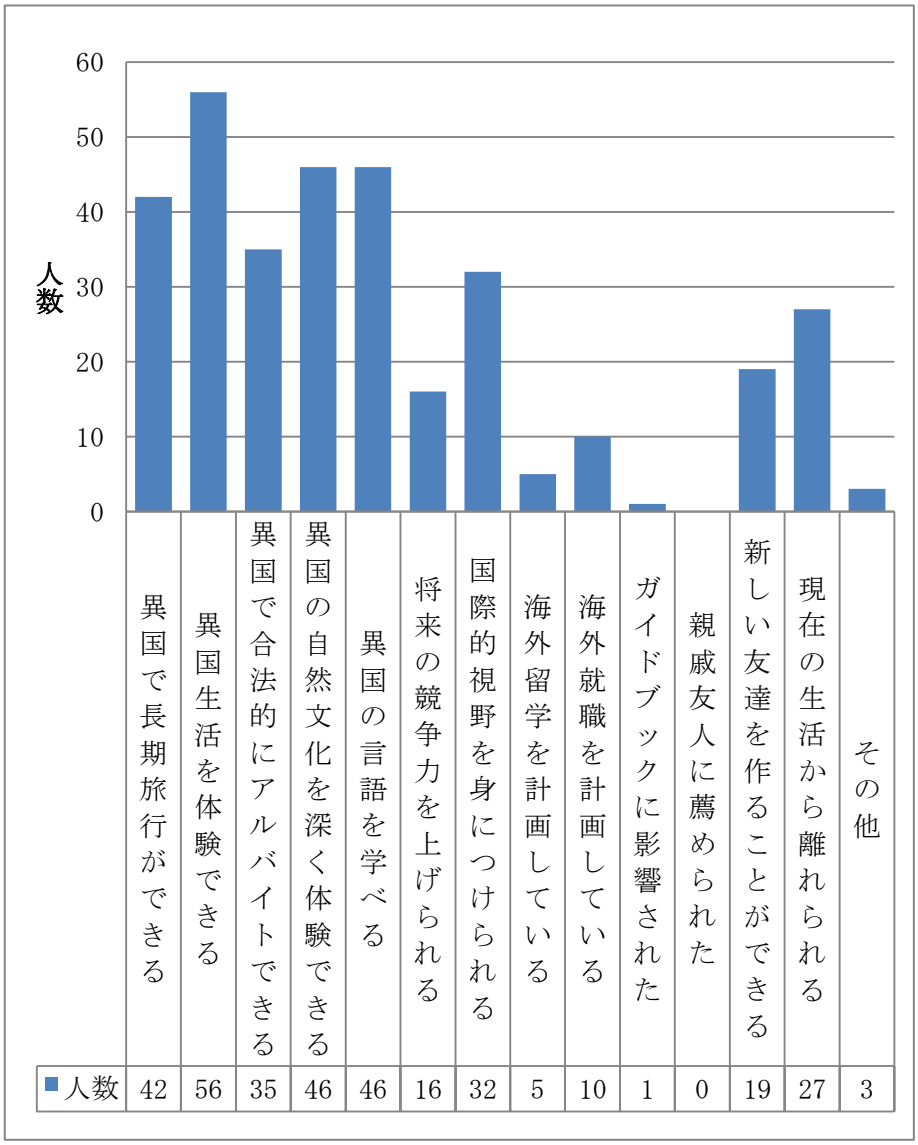



図 3.8　WH に参加した理由

（5）日本を選定した理由（複数回答可）

台湾と WH 協定を締結している国の中から日本を選定した理由について質問した結果、図 3.9 で見られるように、1 位の「日本語に興味がある（51 名／85.00%）」が 2 位の「伝統文化に興味がある（35 名／58.33%）」と 3 位の「流行文化に興味がある（33 名／55.00%）」に大きな差をつけている。これらを 4 位の「食べ物が多様で美味しい（24 名／40.00%）」

と5位の「美しい自然景観がある（23名／38.33%）」と合わせて見ると、日本への台湾人WHMが言語学習や自然、文化を好んでいる傾向が見えてくる。一方、その他の理由として、「日本語ができる／日本語学科だったため（合わせて3名）」のように語学力に関するものや「子供の頃から日本文化（漫画、アニメ、ドラマ、音楽など）に影響されてきたため」、「日本の建築を見たいため」（共に1名）のように日本文化に関連するものが挙げられる。「申請当時はNZ、豪、日の3ヶ国しかなく、NZ、豪までの飛行期間が長すぎて慣れないため」や「海外で暮らしてみたいため」（共に1名）など、日本と直接的な関係のない理由もある。

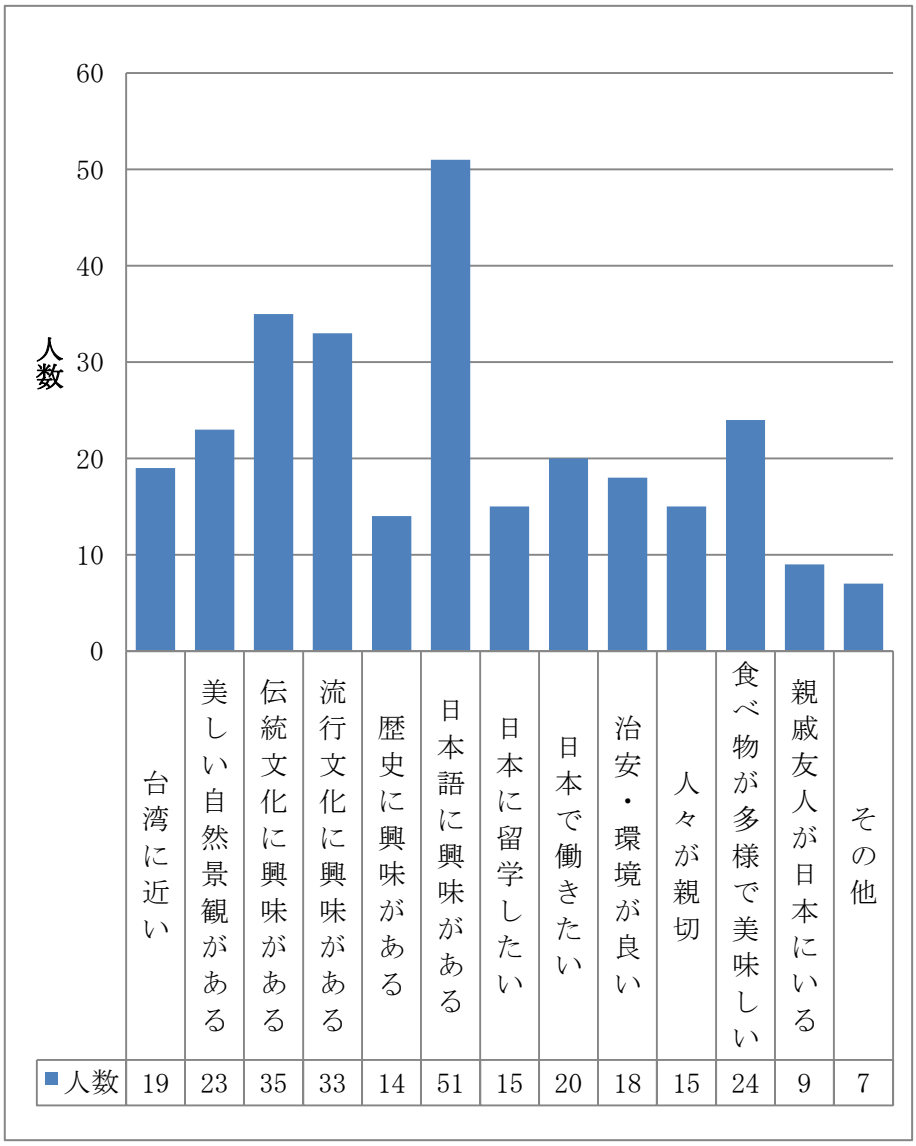



図 3.9　日本を選定した理由

（6）他国へのWH経験またはWH予定

日本へのWH経験以外に、以前他国へWHに行った経験、または今後他国へWHに行く予定があるかについて、実際に行った国或いは行こうとする国を含め、図3.10～図3.13にその

結果をまとめている。以前他国へ WH に行った経験があるとの回答は僅か 10.00%（6 名）しか占めておらず、今後他国へ WH にいく予定があるとの回答も 15.00%（9 名）に止まっている。この結果から日本への台湾人 WHM は日本を選んでの WH に参加しており、いわゆる WH マニアとして様々な国を転々としているのではないことが分かる。また、その内訳を見てみると、どちらもオーストラリアに最も人気が集まり、それにアメリカやカナダ、イギリスなどの欧米国家が続いている結果となった。

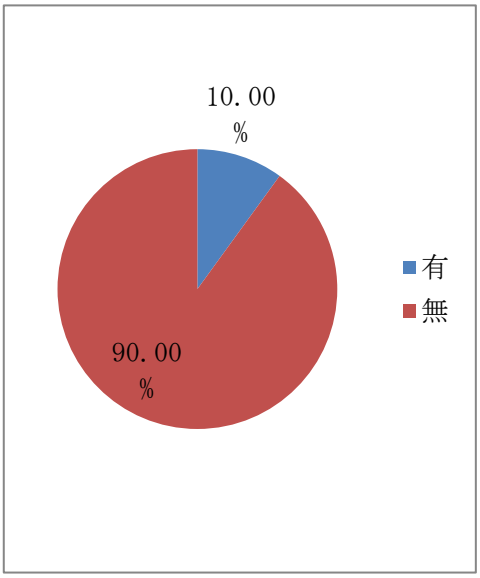



図 3.10　他国への WH 経験（n＝60）

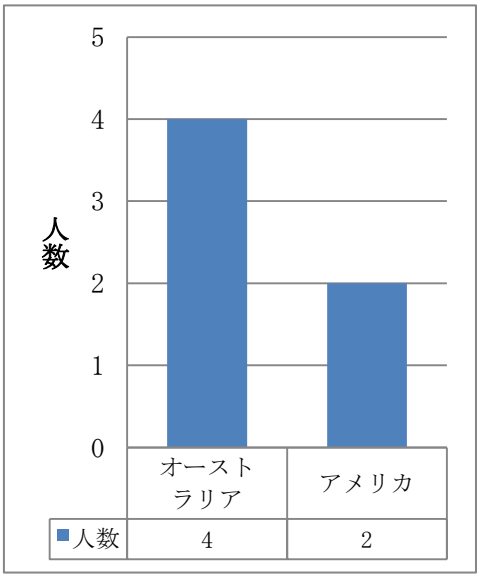



図 3.11　経験した国（n＝6）

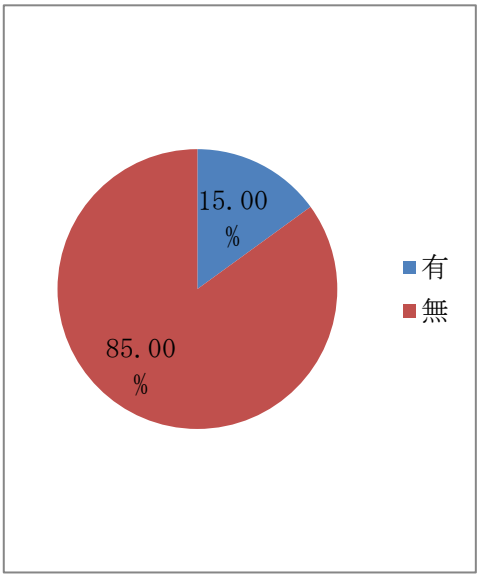



図 3.12　他国への WH 予定（n＝60）

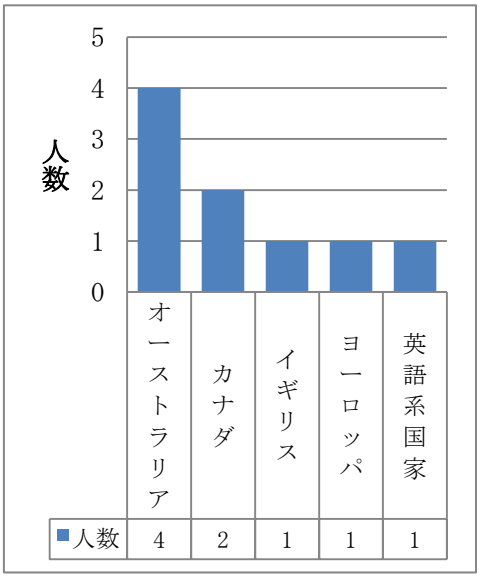



図 3.13　予定している国（n＝9）

（7）基本情報への考察

前述した基本情報に基づいて日本への台湾人 WHM の特性を整理すると、まず性別においては、男性より女性の方が遥かに多く、年齢では 26 歳以上が 25 歳以下の約 3 倍の比率を占めており、29 歳前後と 24 歳前後の二つの年齢に集中している傾向が見られる。これは、WH に

参加するのに女性より男性の方が兵役や30歳までに安定した生活に就くべきだという社会的期待などの障壁があるからだと考えられる。そして、24歳前後と29歳前後に多いのは、大学を卒業して(男性の場合はそれに加えて1年半の兵役を経て)間もない頃に申請するか、社会人になって数年間働いて仕事の転換期を迎え、ある程度貯金して年齢制限の上限に近づいたところで申請するかの二つのパターンが多いのではないかと想定される。

続いて滞在時期と滞在期間について、推算ではあるが2012年～2013年に日本に滞在していた回答者数が最も多く、遡れば遡るほど人数が減っていく。その理由として、アンケート調査はインターネット上で実施されたため、実際に経験した時期から年月が経っていくに連れ、経験者のWHに対する関心が薄まっていき、インターネット上で関連コンテンツを見なくなったのではないかということが考えられる。更に、東日本大震災の影響を受け、渡航可能期間が延長されたこと[39]も、もう一つの理由として考えられる。滞在期間に関しては、12ヶ月との回答が大半を占めていることから、日本への台湾人WHMは長期滞在する傾向があると言えよう。従って、本研究の目的の一つである活動期間中の観光行動及び消費行動を観察するのに十分な代表的な特質を有していると言って良いだろう。

次に主な居住地の結果を見てみよう。上位3位に大阪、東京と北海道があるが、訪日台湾人観光客の都道府県訪問率[40]と日本の観光地の認知度及び訪問意欲[41]の上位3位と一致しており、観光地として人気が高ければWHの渡航先としても人気があることが分かる。つまり、WHの分析において、観光文脈での分析が有効であると考えられよう。また、東京と大阪の二大都市圏に集中している状況に関し、都市の方がアルバイトの機会が多く、外国人の受け入れ体制も比較的整っているため、WHに「滞在費・旅行資金を補うための就労」が基本的に必要とされることから考えれば、頷ける結果だと思われる。しかし、上記いずれのランキ

---

[39] （公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：東日本大震災のため訪日を中止したワーキング・ホリデー制度利用者の皆様へ（２０１０年前期分ＷＨ査証取得者）及び（２０１０年後期分ＷＨ査証取得者）（download at 2013.12.4）によると、東日本大震災の影響から渡航を見合わせたことにより、既に発給を受けていたWH査証の有効期間中に、WH制度を利用して日本に入国できなかった2010年前期及び後期のWH査証取得者に対し、特別措置としてWH査証の再発給を実施した。2010年前期分のWH査証取得者については2011年9月21日まで、2010年後期分のWH査証取得者については2011年12月14日～2011年12月27日の間に再発給の旨を申し出れば、手数料無料で新たな発給日から1年有効のWH査証が再発給される。なお、本来のWH査証が未使用であることが前提である。

[40] 国土交通省観光庁(2013)訪日外国人の消費動向 平成24年 年次報告書P.7図表1-14【台湾】(download at 2013.12.4）によれば、観光・レジャー目的で訪日した台湾人が良く訪れる都道府県上位5位は、東京都、大阪府、北海道、京都府、千葉県である。

[41] 日本政策投資銀行北海道支店（2013）アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査（平成25年版）P.18（download at 2013.12.4）を参照すると、台湾人の日本観光地に対する認知度及び訪問意欲において、認知度で上位5位となっているのは、東京、大阪、北海道、富士山、名古屋であり、訪問意欲で上位5位となっているのは、北海道、東京、大阪、京都、富士山である。

ングでも東京が大阪より上位だが、本調査では大阪が東京より上位の結果となった。このような結果は、東日本大震災によって東京を避ける傾向があることや、相対的に見たら東京より大阪の方が生活費が安いなどの理由があると推測されるだろう。この点については、第4章インタビュー調査での結果で詳述する。

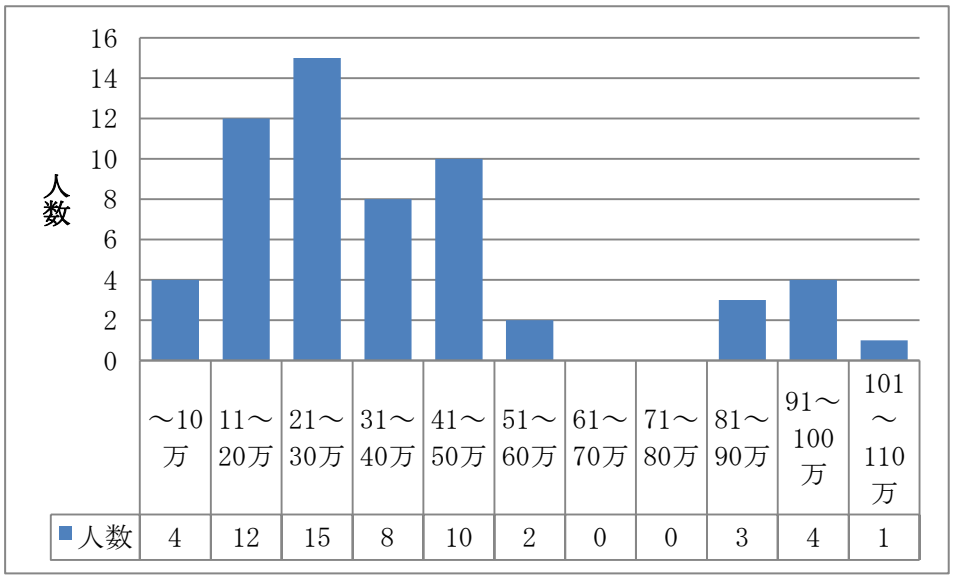
では、日本への台湾人 WHM はどういった理由で日本へ WH に行ったのかを考察していきたい。調査結果によると、彼らは WH に異国の生活／自然／文化体験と外国語の学習の 2 点を期待して参加したことと、ワーキングよりホリデー重視の傾向が見られる。そして、日本を選定した理由を詳しく見てみると、日本語や日本の伝統／流行／食文化、自然景観に興味があることが挙げられている。この二つの結果を照らし合わせて見ると、その間に一致性が見受けられると認識して良いだろう。また、WH に参加した理由に現在の生活から離れられるというのも挙げられているが、これは年齢への考察の際にも述べたように、仕事の転換期を迎えた或いは兵役を終えたなど、現在の状態から抜け出したいが次の一歩をどう踏み出せば良いか迷っている段階を指しているのではないかと考えられる。この点においても観光行動の特徴の一つである「非日常性」という観点と共通性があると考えられる。

最後に他国への WH 経験や予定について、どちらも「有」が占める比率が低いが、日本を選定した理由で日本語や日本の各種文化への興味が上位にあることから、他国への WH 経験がないのは日本にしか興味を持たないのではないかと思われる。それに対し、他国への WH 予定がないのも同様の理由が考えられる他、他国への WH 申請年齢も 30 歳となっている場合がほとんどのため、30 歳を目前に日本に行き、帰国したら 30 歳を越えてしまい、他の国に行けなくなったという可能性もあると予測される。

### 3.2　活動開始前

（1）渡日前に用意した準備資金額

図 3.14 は日本への台湾人 WHM が渡日前にどのぐらいの資金を準備したかを示したものである。「21 万～30 万円（15 名／25.42%）」との回答が最も多く、次に「11 万～20 万円（12 名／20.34%）」、「41 万～50 万円（10 名／16.95%）」の順となっている。全体的に見ると、準備した資金額は少ない方に集中している印象を受けるが、100 万円近くを用意した回答者は少ないが、もう一つの群れとなっている。




平均値＝40.19 万

最頻値＝30 万

中央値＝30 万

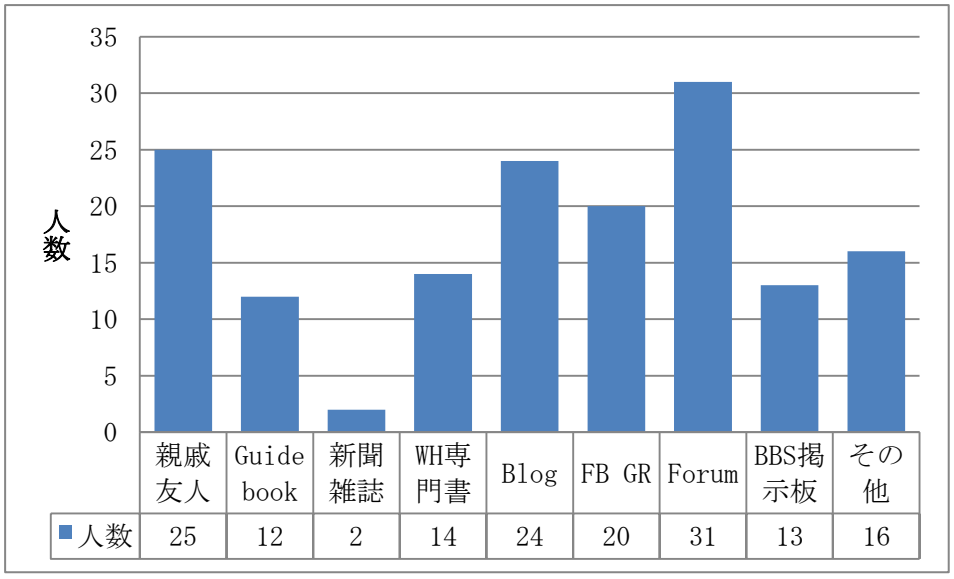
第一四分位数＝20 万

第三四分位数＝50 万

図 3.14　渡日前に用意した準備資金額【円】(n＝59)

（2）渡日前の情報獲得手段（複数回答可）

渡日前の情報獲得手段について質問した結果を表しているのが図 3.15 である。WH の情報収集によく利用される手段は「フォーラムサイト」、「親戚友人」と「ブログ」の三つであり、その中で半数以上の回答者が「フォーラムサイト」を通して情報を収集していたと回答した。「フォーラムサイト」、「ブログ」、「フェイスブックグループ」と「BBS 掲示板」の回答者に対し、利用していたものの具体名を尋ねたところ、回答の少ない「ブログ」を除き、最も多く記入された回答はそれぞれ「背包客棧（バックパッカーズの宿)」、「日本打工度假互助會（日本 WH 互助会)」と「PTT」となっている。「その他」の回答においては「エージェンシー（11 名)」が大半を占めている他、「自分で日本語サイトを検索する（3 名)」や「自分で資料を探す」、「以前留学で行ったことがある」（共に 1 名）などの回答がある。




Guidebook＝ガイドブック

Blog＝ブログ

FB GR＝フェイスブックグループ

Forum＝フォーラムサイト

図 3.15　渡日前の情報獲得手段

（3）航空券の入手手段

日本への台湾人 WHM は実際どのように航空券を入手したかを図 3.16 に示した。回答者の約 6 割が「自分（35 名／58.33%）」で航空券を購入し、残り 4 割のうち、ほとんどの回答者が「旅行会社（21 名／35.00%）」を通して入手した。「その他（4 名／6.67%）」の回答については、全て「エージェンシー（4 名）」となっている。

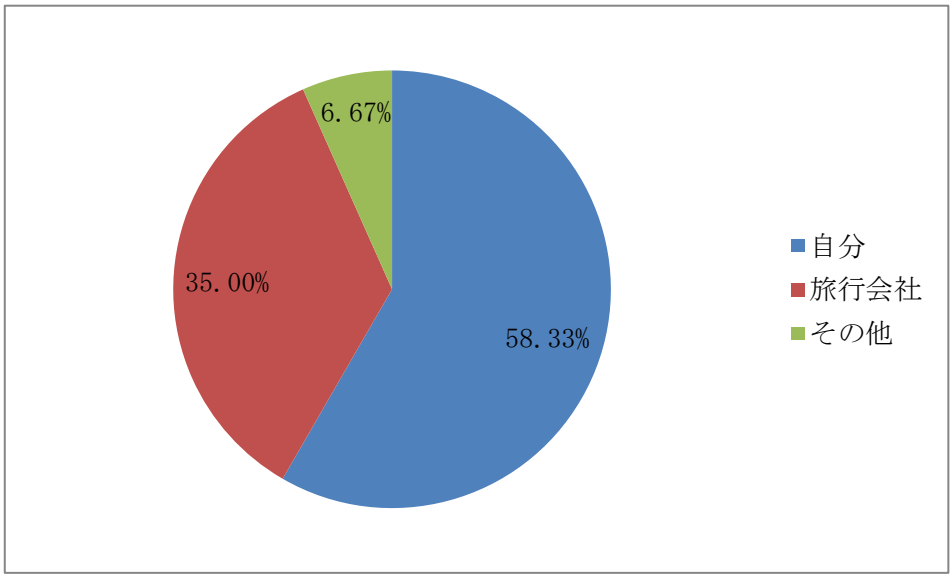



図 3.16　航空券の入手手段（n＝60）

（4）住居探しの手段

現地での住居はどういった手段を通して探したかに関し、図 3.17 に結果をまとめている。最も高い割合を占めているのは「その他（39 名／65.00%）」であり、「不動産仲介（13 名／21.67%）」、「親戚友人（5 名／8.33%）」と「学校（3 名／5.00%）」の回答を大きく上回る結果となった。「その他」の回答内容を更に分類していくと、図 3.18 で示したように「インターネット検索（23 名／58.97%）」が占める比率が最も高く、それに続いて「エージェンシー（8 名／20.51%）」、「社員寮（6 名／15.38%）」の順となっている。「自分（インターネット以外）」の回答については、「初回は自分でゲストハウスを探したが、引越しの際は友人が紹介してくれた」と「自分」（共に 1 名）との回答が記入されている。この結果から、現地での住居を探す際に日本への台湾人 WHM は他力を介さず、自力で解決する傾向があると窺える。

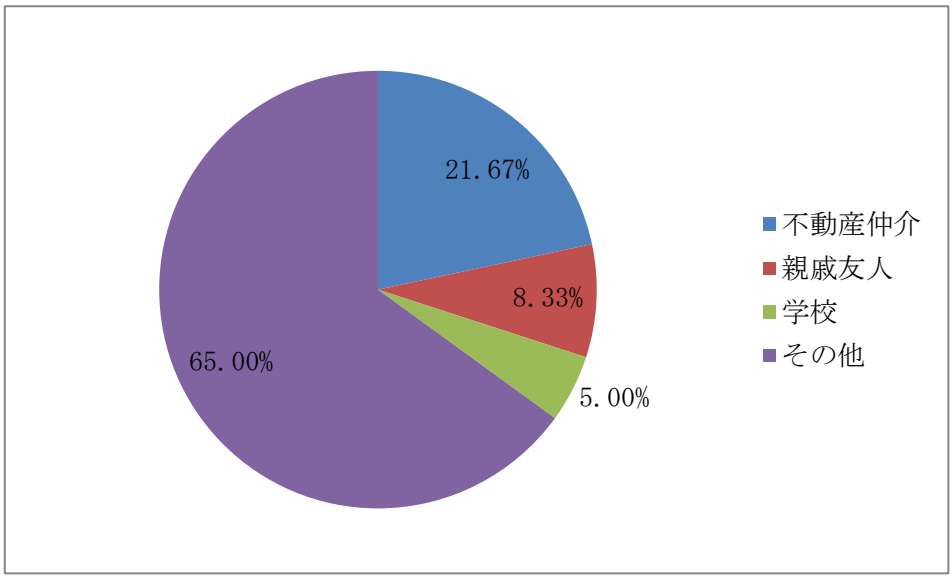



図 3.17　住居探しの手段（n＝60）

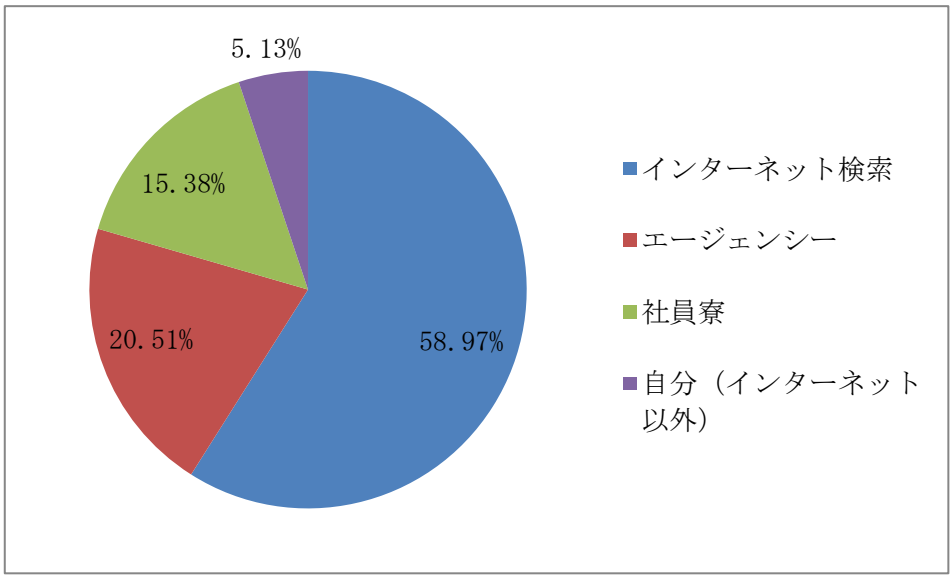



図 3.18　住居探しの手段【その他】（n＝39）

（5）語学学校探しの手段

前節で述べたように、日本を選定して WH に参加した理由として「日本語に興味がある」と「異国の言語を学べる」が大きなウェイトを占めている。そこで、日本語学習のために日本への台湾人 WHM は語学学校に通ったか、通ったとする場合、どのように語学学校を探したかを尋ねてみた。

図 3.19 と図 3.20 をまとめて見ると、8 割の回答者が「その他（48 名）」と回答し、そのうち「台湾にいた際に日本語の先生が薦めてくれた」と記入した 1 名を除き、全員が「語学学校に通わなかった（47 名／97.92%、全体の 78.33%）」と回答したのが分かる。つまり、語学学校に通った回答者は全体の 2 割に過ぎず、語学学校探しの主な手段としてはエージェンシーか自分である。

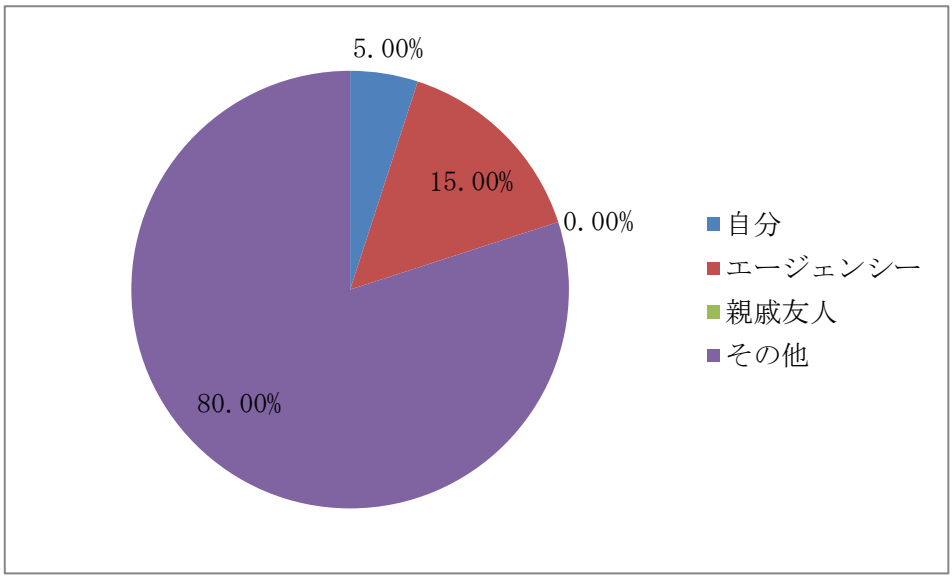



図 3.19　語学学校探しの手段（n＝60）

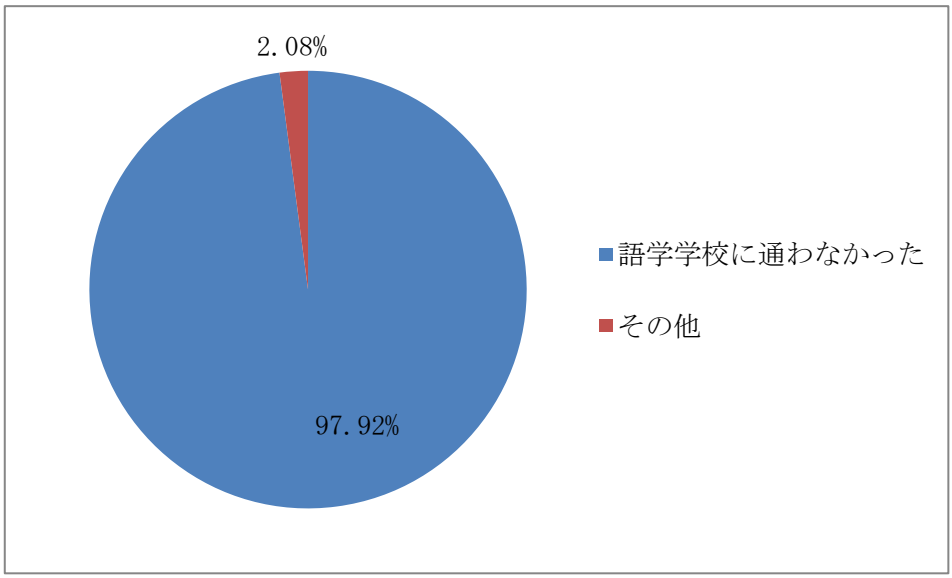



図 3.20　語学学校探しの手段【その他】（n＝48）

（6）アルバイト探しの手段（複数回答可）

WH という名称から分かるように、ワーキング、すなわち、アルバイトも滞在中の重要な活動の一つと言える。日本への台湾人 WHM はどのように滞在中の生計を支えるアルバイトを探したのだろうか。それを示したものが図 3.21 である。結果を見てみると、最も利用されたのは「職業紹介所（32 名／53.33%）」と「人材紹介会社（30 名／50.00%）」であり、それに次ぐのは「その他（23 名／38.33%）」である。「その他」の回答内容を更に見ていくと、「無料アルバイト情報誌（7 名）」、「エージェンシー（6 名）」が比較的多く、「希望のアルバイト先を自分で見つけ、その応募方法に沿って応募した（4 名）」や「店頭に貼ってあるチラシを見て応募した（3 名）」といった行動派の回答もある。それ以外の少数回答として「インターネットを通して」、「宿泊先が人員募集していた」、「学校からの紹介」（共に 1 名）な

どが挙げられる。

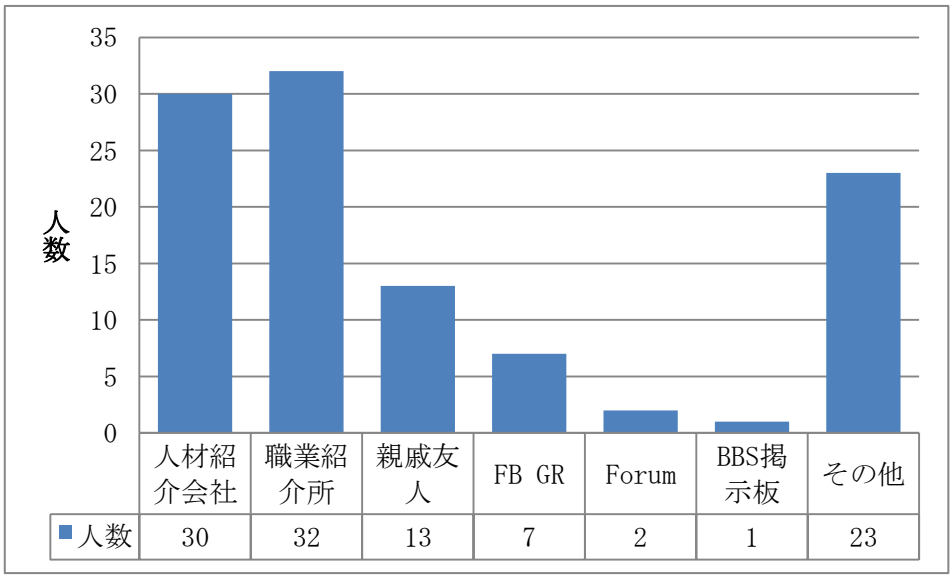



図 3.21　アルバイト探しの手段（n＝60）

（7）活動開始前への考察

日本への台湾人 WHM が渡日前に行った準備活動を、上記データを基に考察していきたい。始めに用意した準備資金額を見ると、大多数の回答者はそれほど用意しなかった印象が持たれる。それは、8 万台湾元（為替レート 1 日本円＝0.3 台湾元で換算すると約 27 万円弱）の預金残高があれば WH に申請可能、また、活動期間中に「滞在費・旅行資金を補うための就労」が認められるため、到着後 1～2 ヶ月の初期生活費用を負担できるぐらいの準備資金を用意できれば良いという考えを持っている回答者が多いのではないかと予想される。一方、多めの準備資金を用意した回答者について、彼らがアンケートの他の部分への回答を見ると、以前留学などで日本に滞在した経験があり、生活するのにどのぐらいの金額が適切なのかを知っている者もいるが、万が一に備えての考え方を持っている可能性も高いと思われる。

次に渡日前の情報獲得手段について、本調査は日本への台湾人 WHM がよくアクセスする「フォーラムサイト」、「フェイスブックグループ」と「BBS 掲示板」で実施したため、この三つの選択肢が選択されるのは意外なことではない。そのため、ここでは他の選択肢で回答者数の多い「親戚友人」、「ブログ」を中心に考察を深めていきたい。「親戚友人」、言い換えれば、身の周りにいる親族や友達であるが、WH で日本に行くことで日本に関する情報が要ると想定する場合、ここでの「親戚友人」は WH の経験者や留学または仕事で日本に在住し、日本に詳しい人だと推測して良いだろう。一方、「ブログ」の場合、日常生活や旅行に関する様々なことを記録する日記のようなもののため、以前の経験者が書いたものを参考にする回答者が多いのではないかと思われる。また、具体名の記入が少ないのは、彼らが参考にす

るのは特定のブログではなく、検索エンジンでキーワード検索を行い、ヒットしたものの中から自分のニーズに合ったものをピックアップしているのではないかと考えられる。

続いて航空券の購入、現地での住居探し、語学学校の申請などの支度作業を合わせて見てみよう。航空券の購入手段及び住居探しの手段の二つの設問に対する回答を照らし合わせてみると、どちらも自分で手配するとの回答が占める比率が高い。これは、日本への台湾人 WHM は渡日前の準備作業を自分で全うする傾向があると理解して良いだろう。

他方、日本語を学ぶという目的意識が高いにもかかわらず、ほとんどの回答者が語学学校に通わなかったことについて解釈が必要であろう。その理由として考えられるのは 2 点あると思われる。一つは WH ビザとは別に、1 年間或いはそれ以下の短期留学ビザがあるので、わざわざ WH ビザを利用して語学留学する必要はないと、回答者が考えているのではないかと予想される。そしてもう一つ推測できる理由は、回答者は既にある程度の日本語力を持っており、高額な学費を支払って語学学校に通うより、日常生活の中で実用的な日本語を学んだ方が有意義だという考え方が彼らの中にあることである。これらの理由により、日本への台湾人 WHM が語学学校に通う比率が低い結果となったのだろう。

最後に、活動期間中の生活及び旅行を支えるためのアルバイトの探し方について、回答者の約半数が「職業紹介所」と「人材紹介会社」を利用していた。職業紹介所の場合、日本全国 31 都道府県のハローワーク[42]に外国語サービスがあり、更に三大都市の東京、大阪、名古屋には外国人雇用サービスセンターがあるため、日本への台湾人 WHM にとってアルバイトを探す時の重要手段の一つだと考えて良いだろう。人材紹介会社の場合、インターネット上で登録すれば自らアルバイトを探すことや、専門業者に紹介してもらうことが可能である。また、台湾にも類似したサービスがあることから使い勝手が良く、職業紹介所と同様に重宝されているのではないかと思われる。更に、これらの組織の信頼性についてもそれなりの安心感を持って受け止められていると判断できるだろう。そして、比較的フォーマルなこの二つの手段以外に、親戚友人に紹介してもらう回答も他の選択肢と比較すると少なくない。なお、ここでの親戚友人は、留学または仕事で日本に在住している親族や友達の他、同じく WHM である同期や先輩のことも含まれていると認識して良いだろう。

[42] 東京外国人雇用サービスセンター:外国語サービスのあるハローワーク(全国)(download at 2013.12.5)による。

### 3.3　活動期間中

（1）アルバイト

図 3.22 は WH 期間中にアルバイトをしたかについて尋ねた結果を表したものである。「しなかった」と回答したのは 1 名のみである。

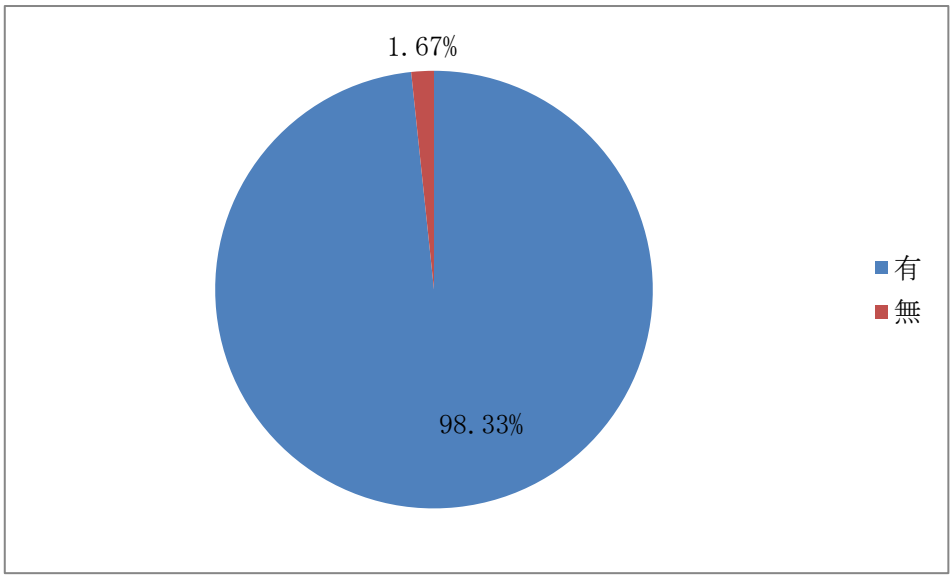
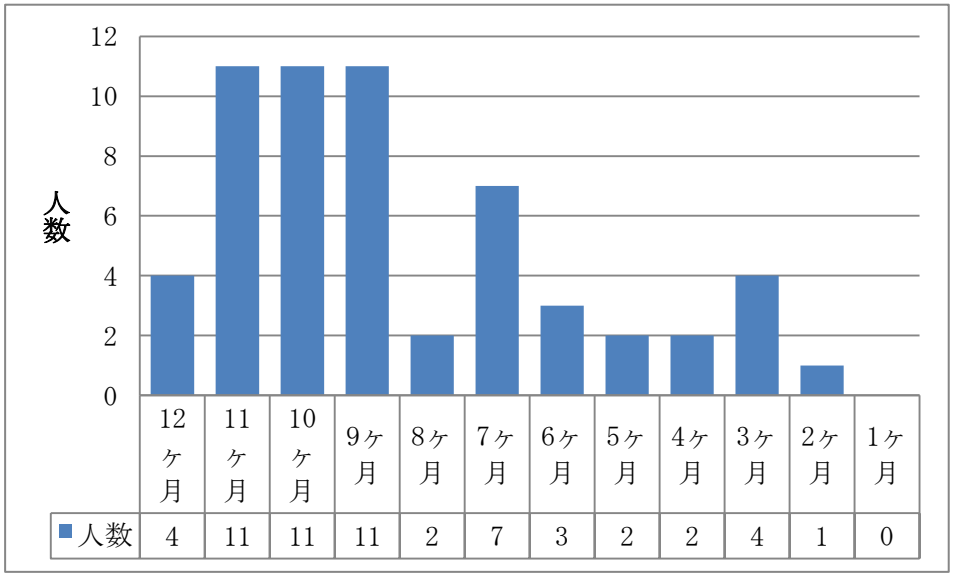



図 3.22　WH 期間中、アルバイトの有無（n＝60）

活動期間中にアルバイトをした回答者に対し、どのぐらい働いたかについて質問し、その結果を図 3.23 に示した。回答者数が最も多いのは「9 ヶ月」、「10 ヶ月」と「11 ヶ月」（共に 11 名／18.97%）であり、その次に「7 ヶ月（7 名／12.07%）」となっている。この結果から、1 年のうち 4 分の 3 以上の月にアルバイトがあり、安定して長く働く傾向が見られる。




平均値＝8.50 ヶ月

最頻値＝9、10、11 ヶ月

中央値＝9 ヶ月

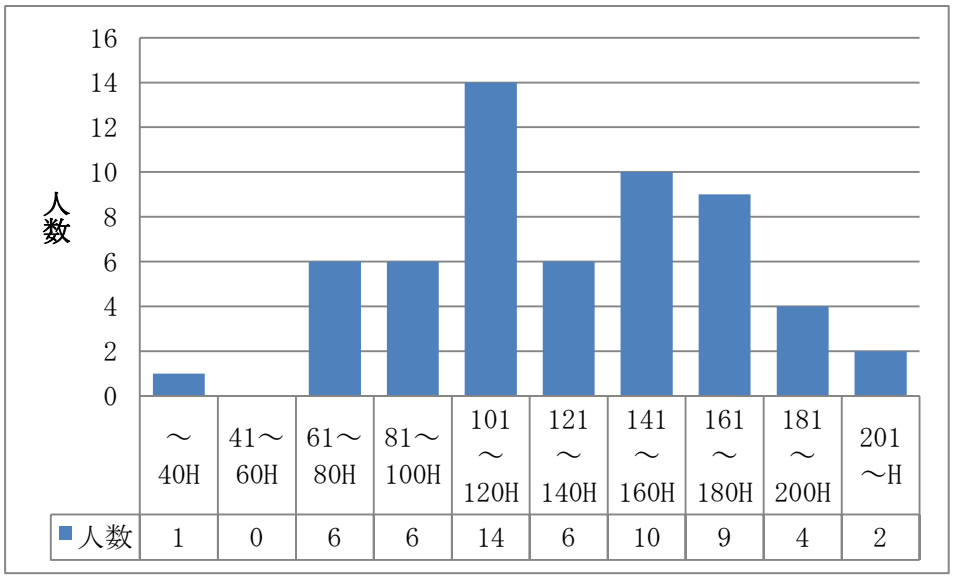
第一四分位数＝7 ヶ月

第三四分位数＝10.75 ヶ月

図 3.23　アルバイト期間（n＝58）

1 ヶ月に何時間アルバイトしたかの設問に対し、図 3.24 に示された結果を得た。「101 時間～120 時間（14 名／24.14%）」の回答者数が最も多く、それに次いで「141 時間～160 時

間（10 名／17.24%）」、「161 時間～180 時間（9 名／15.52%）」の順となっている。この結果を 1 ヶ月のアルバイト日数を 20 日間と見て換算すると、1 日の勤務時間は 5 時間～6 時間、または 7 時間～9 時間となる。つまり、一般の会社員と同じぐらいか、それより少し少なめの結果となった。




平均値＝138.02H

最頻値＝120H

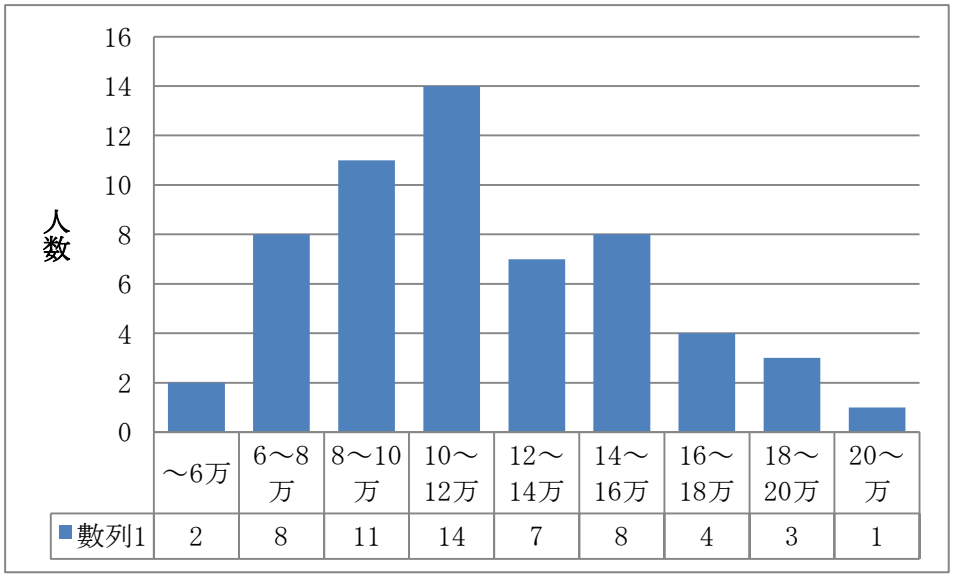
中央値＝140H

第一四分位数＝110H

第三四分位数＝166H

図 3.24　アルバイト時間数／月（n＝58）

1 ヶ月のアルバイト時間数は図 3.24 で分かったが、それによって得られた収入はどのぐらいあるだろうか。図 3.25 はそれを表したものである。回答者数の多い順で見ていくと、「10 万～12 万（14 名／24.14%）」、「8 万～10 万（11 名／18.97%）」、そして「6 万～8 万」と「14 万～16 万（共に 8 名／13.79%）」の四つの層が上位になっている。単純計算で本設問の最上位「10 万～12 万」を時間数の最上位「10 時間～12 時間」で割ると、時給は約千円であるという結果が得られた。




平均値＝12.27 万

最頻値＝12 万

中央値＝12 万

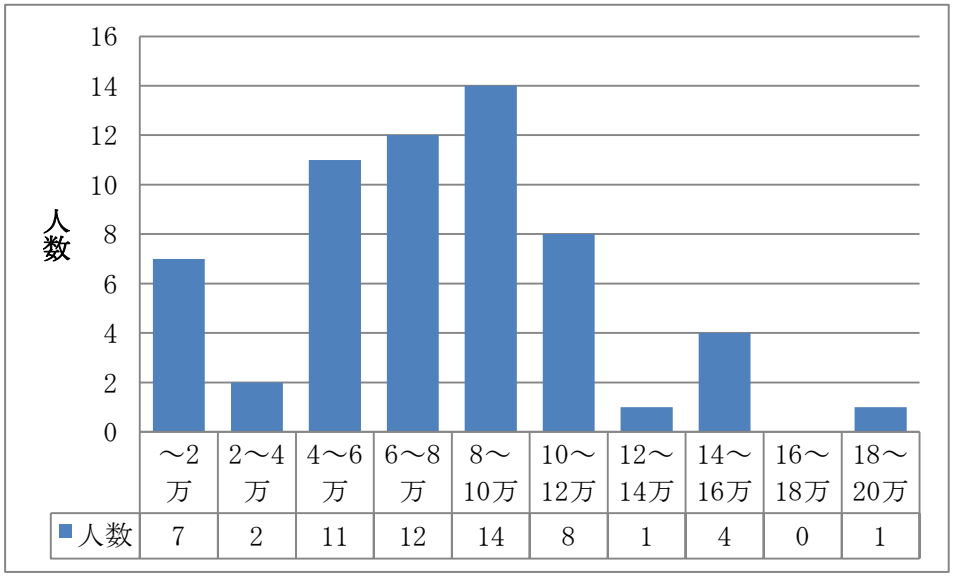
第一四分位数＝9.25 万

第三四分位数＝15 万

図 3.25　アルバイトによる収入／月（n＝58）

（2）全体の生活費用及び各支出項目が占める比率

アルバイトの収入に対し、1ヶ月の生活に必要な支出はどのぐらいあるかについて尋ねたところ、図 3.26 に示された結果を得た。「8 万～10 万（14 名／23.33%）」が回答数の最も多い回答であり、次に多いのが「6 万～8 万（12 名／20%）」、更に次は「4 万～6 万（11 名／18.33%）」という結果となった。ここも単純計算でアルバイトによる収入の最上位「10 万～12 万」から本設問の最上位「8 万～10 万」を引くと、月 2 万円ほどの残金が出ることが分かる。なお、ここでもう一つ注目すべきなのは「2 万円以下」との回答も少なくないことである。




平均値＝8.23 万

最頻値＝10 万

中央値＝8 万

第一四分位数＝5.88 万

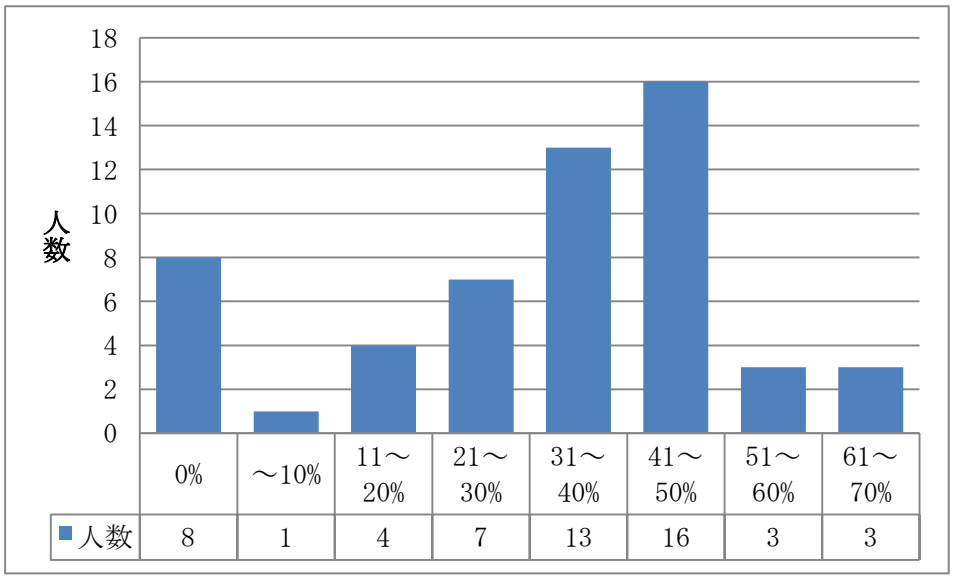
第三四分位数＝10 万

図 3.26　全体の生活費用／月（n＝60）

図 3.26 で 1ヶ月の全体の生活費用の総額がいくらぐらいなのかをおおよそ把握できたが、それを家賃や維持費、生活費、旅行費、学習費、体験費、交際費、雑費[43]などの項目に細かく分けた場合、各項目が占める比率はそれぞれどのぐらいになるだろうか。図 3.27～図 3.34 は支出項目毎の調査結果をまとめたものであり、順番に見ていきたい。

図 3.27 で表した結果を見て分かるように、家賃は 8 つの項目において全体の生活費用に占める比率が最も高いものとなっている。回答数の多い順から見ていくと、上位 3 位は「41%～50%（16 名／29.09%）」、「31%～40%（13 名／23.64%）」と「0%（8 名／14.55%）」である。全体的に見たら「0%」の回答を除き、「41%～50%」の回答から比率が下がっていくに連れ、回答者数が減っていく傾向が見受けられる。

[43] アンケートでは維持費を水道代、光熱費、通話・通信料など、生活費を食事代、洋服代、交通費など、旅行費を移動、宿泊、遊興、お土産などの費用、学習費を日本語などの語学に利用する費用、体験費を茶道、花道などの伝統芸能に費やす費用、交際費を友人との食事会などにかける費用、雑費をその他費用として定義している。




平均値＝34.97%

最頻値＝50%

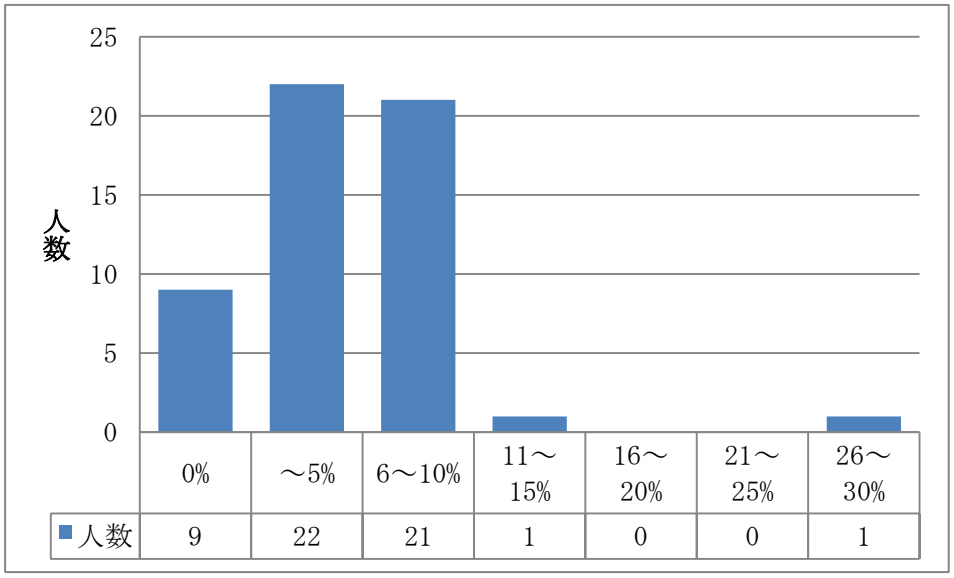
中央値＝40%

第一四分位数＝25%

第三四分位数＝50%

図 3.27　家賃が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

維持費に関しては、水道代や光熱費など家賃に含まれる可能性もあるため、占める比重はそれほど多くないと想定される。図 3.28 で見られるように一部「0%（9 名／16.36%）」との回答もあるが、「～5%（22 名／40.00%）」と「6%～10%／38.18%」の層に回答が集中していることが分かる。




平均値＝6.73%

最頻値＝10%

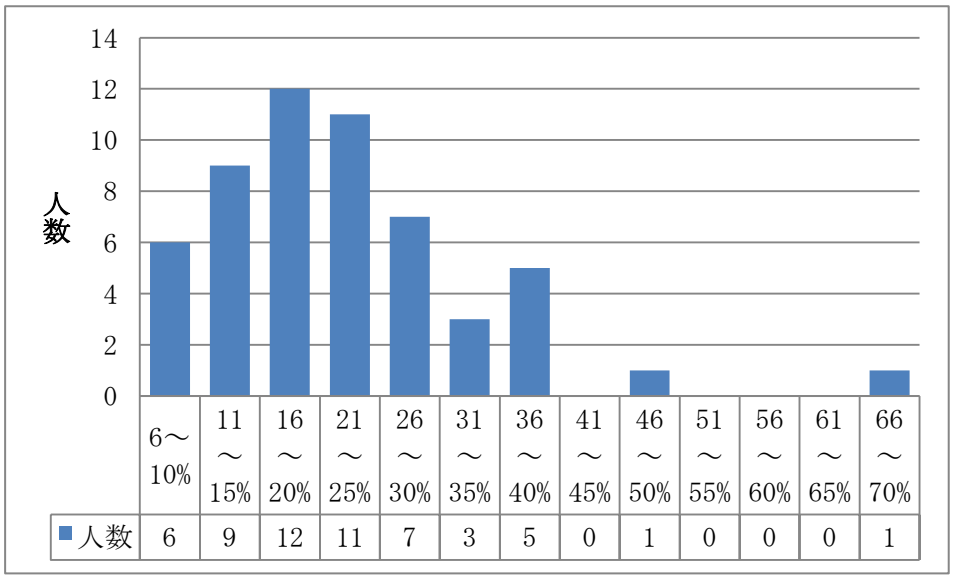
中央値＝5%

第一四分位数＝3.5%

第三四分位数＝10%

図 3.28　維持費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

続いて家賃や維持費など毎月の固定支出とも言える項目を除いた部分を見てみよう。生活費、いわゆる普段の食事や買物、移動に使う費用だが、全体の生活費用に占める比率は図 3.29 に示された通りである。「16%～20%（12 名／21.82%）」の回答者数が最も多く、それに「21%～25%（11 名／20.00%）」と「11%～15%（9 名／16.36%）」が続き、20%前後の層が全体の 4 割強を占める結果となった。




平均値＝24.24%

最頻値＝20%

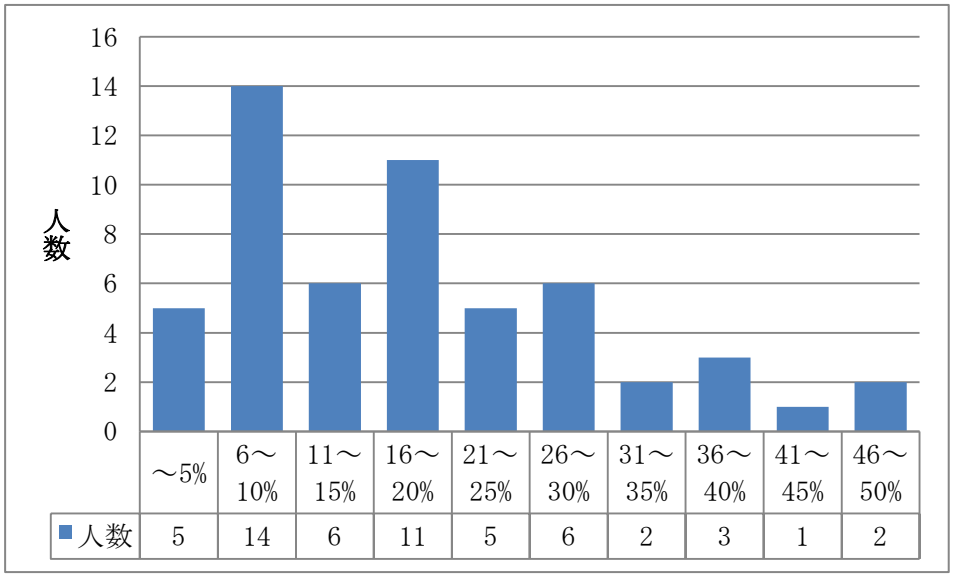
中央値＝21%

第一四分位数＝15%

第三四分位数＝30%

図 3.29　生活費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

図 3.30 は WH 活動期間中の諸活動の中で最もホリデーに近い旅行の部分にどのぐらいの費用をかけたかを示したものである。「6%～10%（14 名／25.45%）」と「16%～20%（11 名／20.00%）」の二つの層にだけ回答が集中している傾向が見られる。反対に、それ以外の層の回答者数は全てこの二つの層の約半数である 6 名以下とそれほど変わらない。




平均値＝20.10%

最頻値＝10%

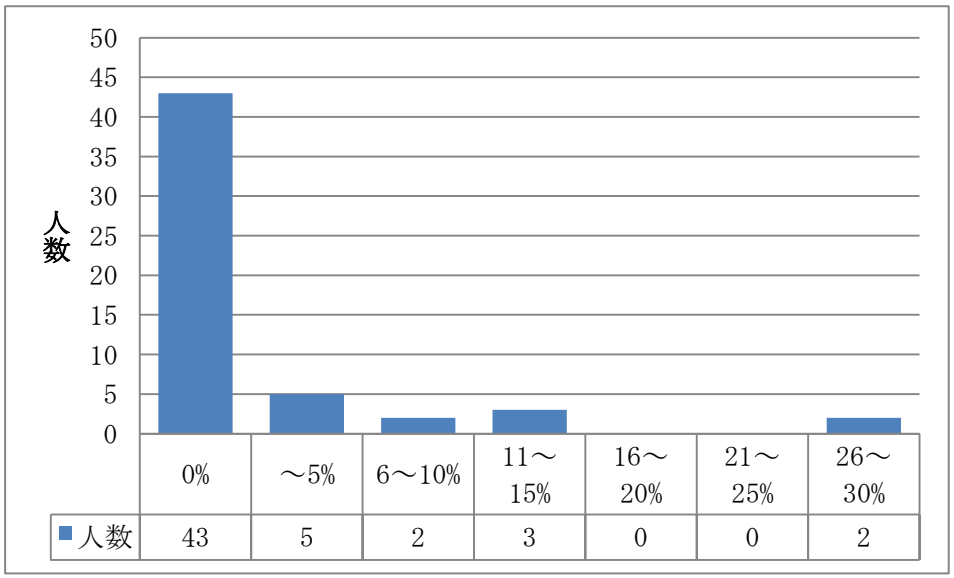
中央値＝20%

第一四分位数＝10%

第三四分位数＝27.50%

図 3.30　旅行費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

前節で日本への台湾人 WHM は言語学習や各種体験を好んで日本へ WH に来たと述べたが、実際彼らが言語学習と伝統芸能を中心とした文化体験に費やした費用はどのぐらいあるのだろうか。図 3.31 と図 3.32 にその結果を表している。学習費の部分は前節の語学学校に関する設問で 78.33%が「語学学校に通わなかった」という結果に関連し、「0%（43 名／78.18%）」の回答が他の回答と大きく離れている結果が得られた。一方、体験費の部分も学習費と同様、「0%（43 名／78.18%）」が最も高い比率を占める結果となった。




平均値＝2.49%

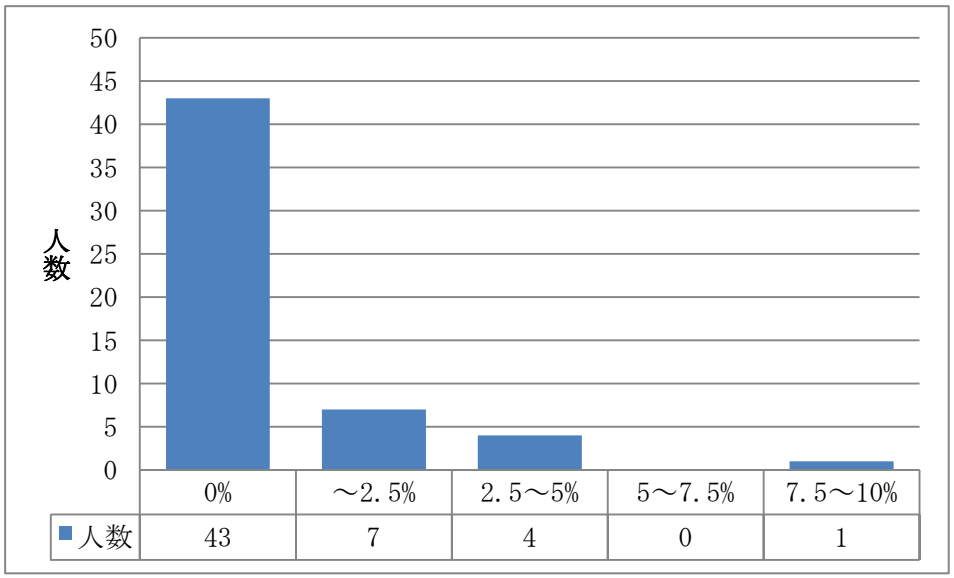
最頻値＝0%

中央値＝0%

第一四分位数＝0%

第三四分位数＝0%

図 3.31　学習費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）




平均値＝0.76%

最頻値＝0%

中央値＝0%

第一四分位数＝0%

第三四分位数＝0%

図 3.32　体験費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

次に現地で友達と食事会や飲み会など、交流にかけた費用について尋ねたところ、図 3.33 で見られるように、半数以上が「～5%（33 名／60.00%）」と回答し、更に 3 割近くが「6%～10%（15 名／27.27%）」と回答した。それ以外の回答は合わせても 12.73%（7 名）に過ぎないため、交際費が全体の生活費用の 1 割以下を占めるのが通常であると言える。

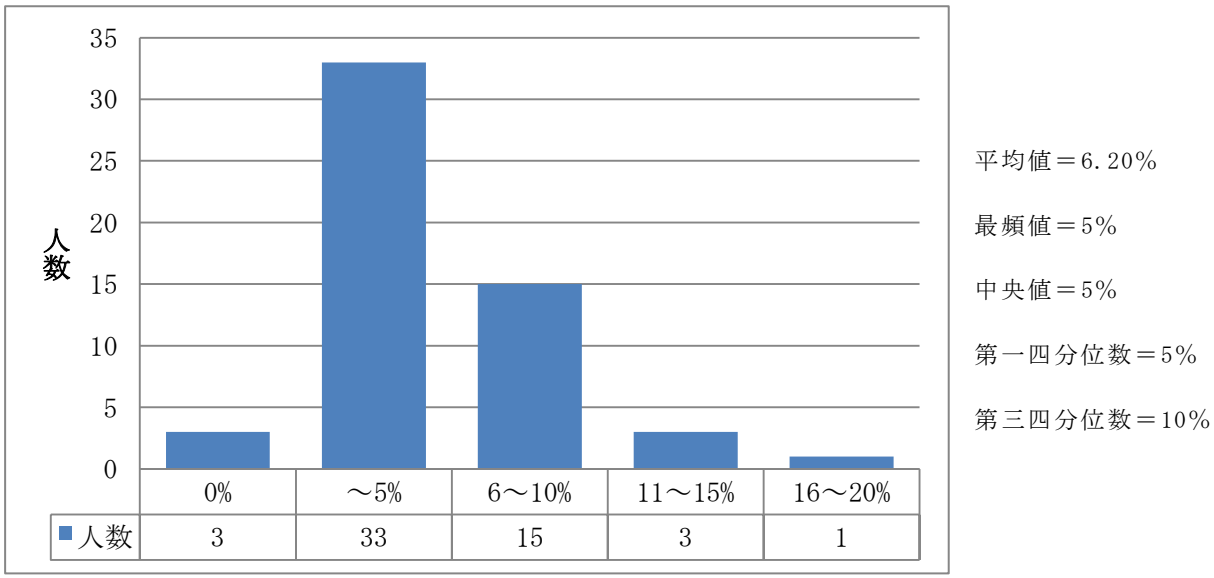



図 3.33　交際費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

最後に、雑費が全体の生活費用に占める比率を見てみよう。元々上記のどの項目にも属さない支出のため、占める比率が低いと想定される。図 3.34 の結果を見ると、「0%（18 名／32.73%）」から「2.5%～5%（19 名／34.55%）」までの回答者数だけを見ても、全体の 8 割以上を占めている。この結果は、雑費が全体の生活費用に占める比率が低いことを物語っているとも言える。

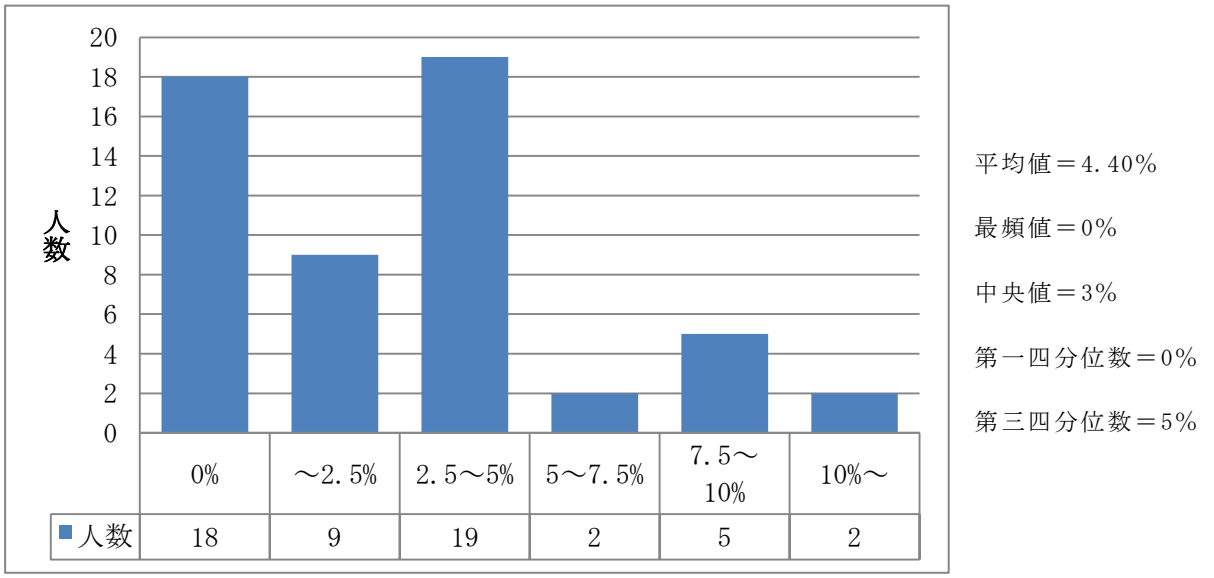
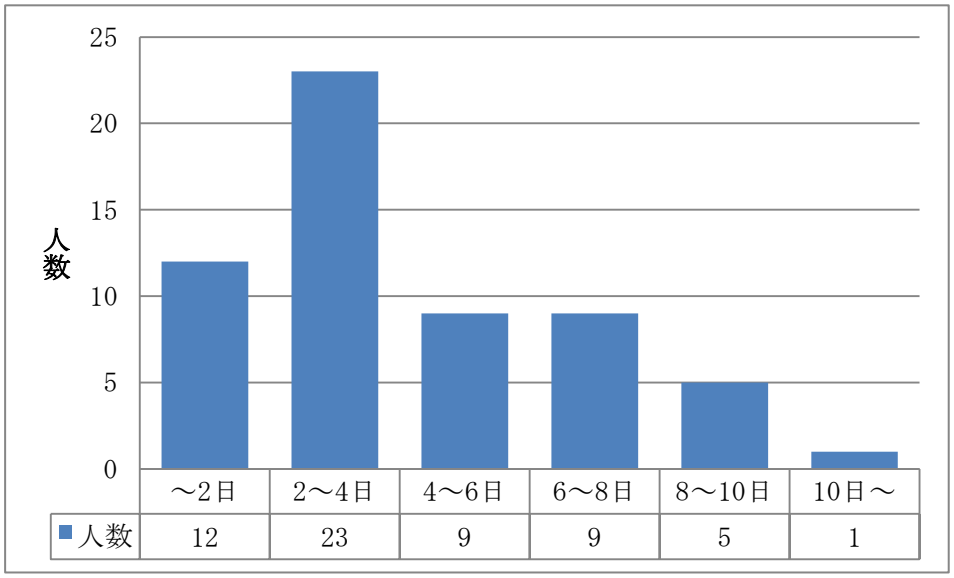



図 3.34　雑費が全体の生活費用／月に占める比率（n＝55）

（3）旅行日数及び訪れた都道府県数

日本への台湾人 WHM が活動期間中に実際どのぐらい旅行しているかを把握するために、1 ヶ月の旅行日数について質問し、その結果を図 3.35 に示した。回答者数の多い順から見ていくと、4 割弱を占める「2 日～4 日（23 名／38.98%）」と 2 割近くを占める「～2 日（12 名／20.34%）」が上位となっている。1 ヶ月を 4 週間と捉えて換算すると、1 週間に 1 日か

それ以下しか旅行していないため、ワーキングよりホリデー重視という志向としては少ない印象を受ける。その理由として、家賃などの固定支出が生活費に占める比率が高く、旅行にかけられる費用が抑えられてしまったなどのことが考えられよう。




平均値＝4.64 日

最頻値＝3 日

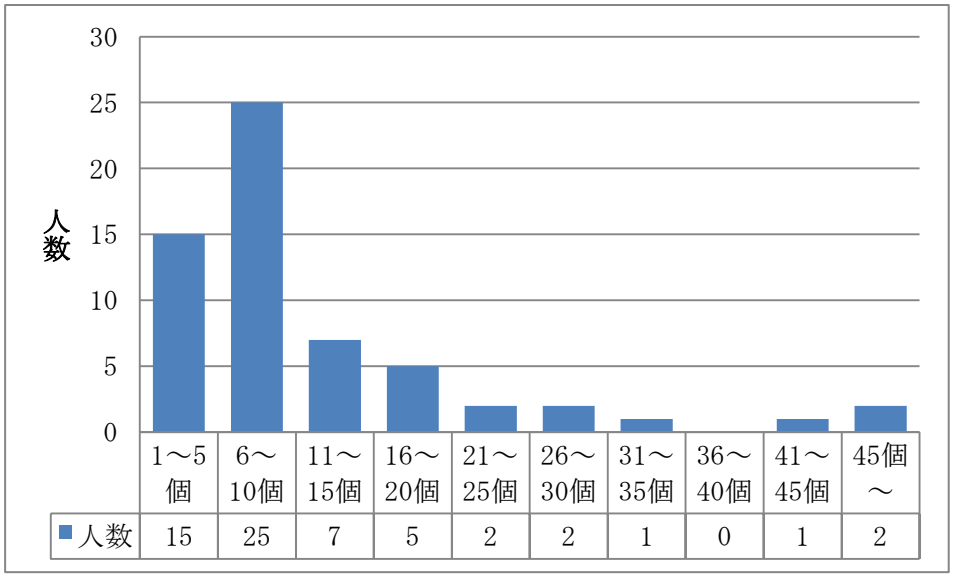
中央値＝4 日

第一四分位数＝3 日

第三四分位数＝6.5 日

図 3.35　旅行日数／月（n＝59）

1 ヶ月の旅行日数と別に、WH 期間中に訪れた都道府県数についても尋ねた。図 3.36 に示したのはその結果である。1 ヶ月の旅行日数と関連しているためか、訪れた都道府県数も「6 個～10 個（25 名／41.67%）」と「1 個～5 個（15 名／25.00%）」の二つの回答に集中し、少なめの結果となった。




平均値＝11.88 個

最頻値＝5 個

中央値＝8.5 個

第一四分位数＝5.75 個

第三四分位数＝15 個

図 3.36　WH 期間中に訪れた都道府県数（n＝60）

（4）集会回数及び集会場所

アルバイトや旅行以外の時間に、友人などと交流する機会があると想定し、1 ヶ月にどのぐらいの頻度で集会しているかを質問したところ、図 3.37 のような結果を得た。「～1 回」

と「1 回～2 回」（共に 16 名／27.12%）の回答者数が最も多く、合わせて半数以上を占めている。また、2 番目と 3 番目に多い「2 回～3 回（13 名／22.03%）」と「3 回～4 回（10 名／16.95%）」の回答者数を合わせると 4 割弱を占めることになる。まとめてみると、集会は 1 週間に 1 回～1 ヶ月に 1 回の頻度で行われていることが分かる。

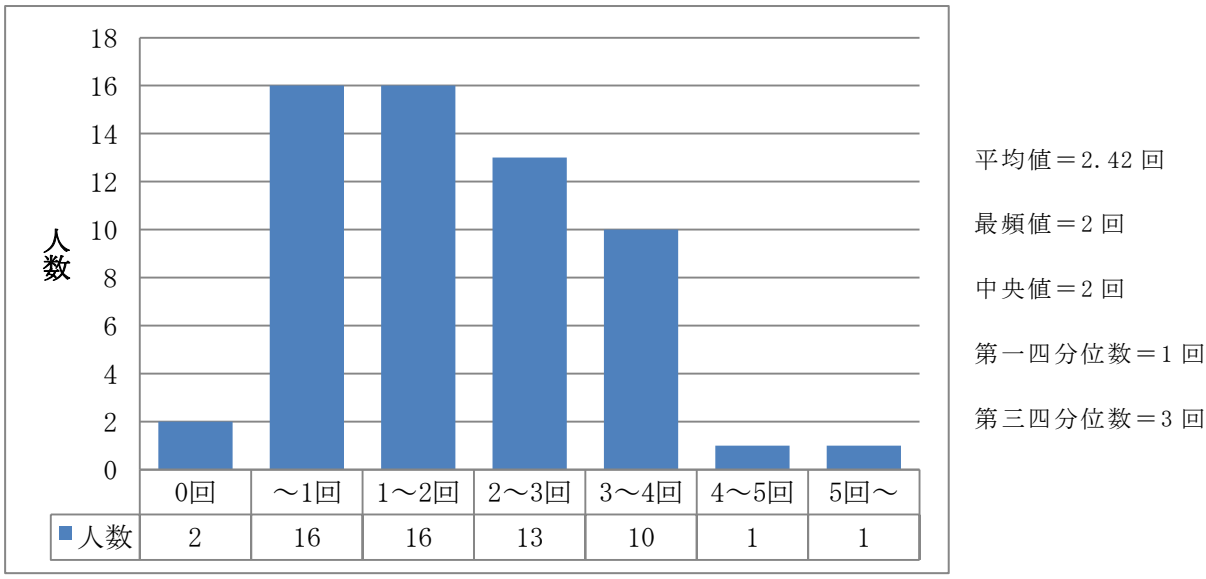



図 3.37　集会回数／月（n＝59）

集会回数の他に開催する場所についても複数回答可能の形式で尋ねてみた。図 3.38 の結果を見ると、「友人宅（23 名／38.33%）」や「自宅（21 名／35.00%）」との回答も少なくないが、友人を互いに自分の家に呼ぶ／訪ねるより、外出して「レストラン（43 名／71.67%）」や「居酒屋（34 名／56.67%）」で食事会や飲み会を楽しむ方が多い。なお、その他の回答として挙げられたのは「ファーストフード店（2 名）」、「旅行」と「カラオケ館」（共に 1 名）である。

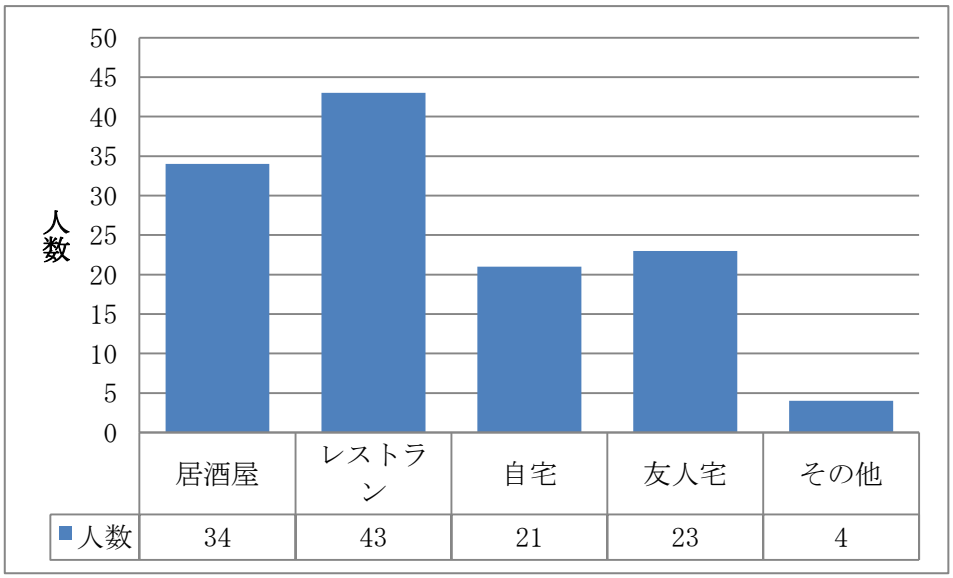



図 3.38　集会場所

（5）情報発信

日本への台湾人 WHM が情報発信を通して周囲に与えた影響を把握するための基礎として、本節では WH 期間中、次節では WH 終了後の情報発信状況について尋ねた。図 3.39 は WH 期間中に WH に関する情報を発信していたかの設問に対する回答を示したものである。9 割以上が「有（55 名／91.67%）」と回答し、「無（5 名／8.33%）」が占める比率は 1 割に満たない。

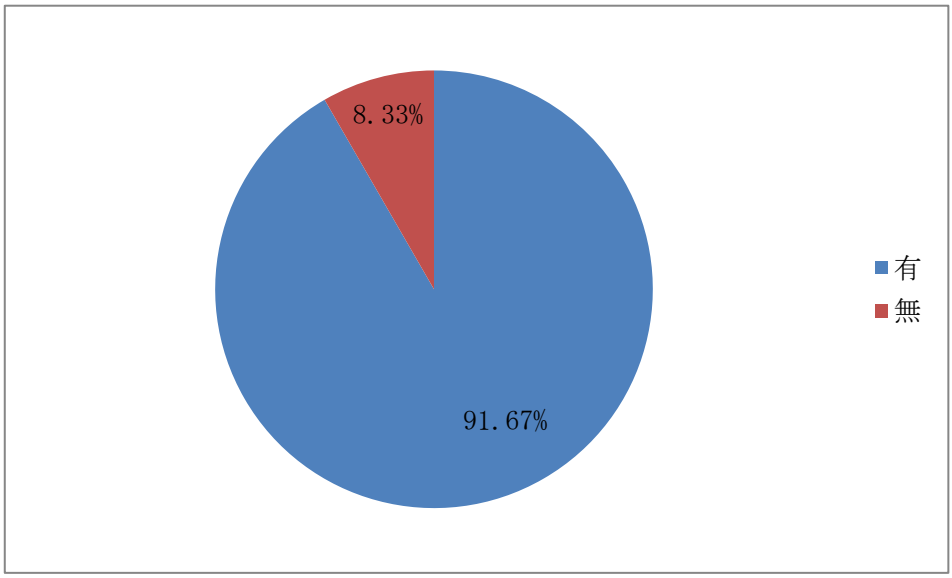



図 3.39　WH 期間中、情報発信の有無（n＝60）

WH 期間中に WH に関する情報を発信していたと回答した 55 名に行動の詳細について更に深く質問した。まず、情報発信の手段について複数回答可能の形式で尋ねたところ、図 3.40 のような結果を得た。最もよく利用される手段として選択されたのは「個人フェイスブックページ（47 名／85.45%）」であり、回答者数はそれに次ぐ「個人ブログ（22 名／40.00%）」の約 2 倍となっている。なお、その他の回答として挙げられているのは、ミニブログの「Plurk[44]（4 名）」である。

[44] Plurk 台湾のサイト情報「關於噗浪」（download at 2013.12.6）によると、Plurk は「2008 に創立されたミニブログサービスであり、当時の字数制限は 140 字だったが、その後は日常会話や交流用ソーシャルネットワークサイトとなった。2012 年、Plurk は字数制限を 210 字に改定し、正式に対話型ソーシャルネットワークサイトに変身した。Plurk は特殊な時間軸設計で類似した他のミニブログサービスと差別化を図った結果、北米、台湾、東南アジア、香港などにおいて多数のアジア使用者から支持を得ている（筆者訳）」とされている。

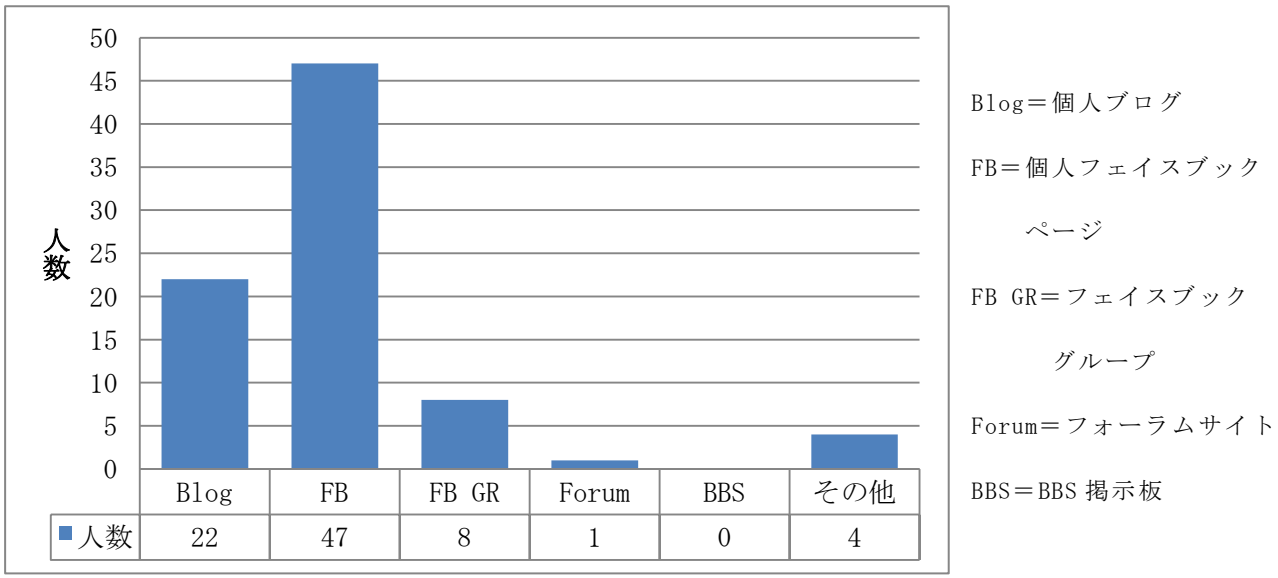



図 3.40　WH 期間中、情報発信の手段（n＝55）

次に発信した内容についても複数回答可能の形式で質問した。図 3.41 にその結果を表しているが、よく発信された内容として「写真（51 名／92.73%）」、「気持ち（37 名／67.27%）」、「感想（33 名／60.00%）」の 3 種類が選択されている。なお、その他の回答として挙げられたのは「他の人からの質問に答える（1 名）」である。

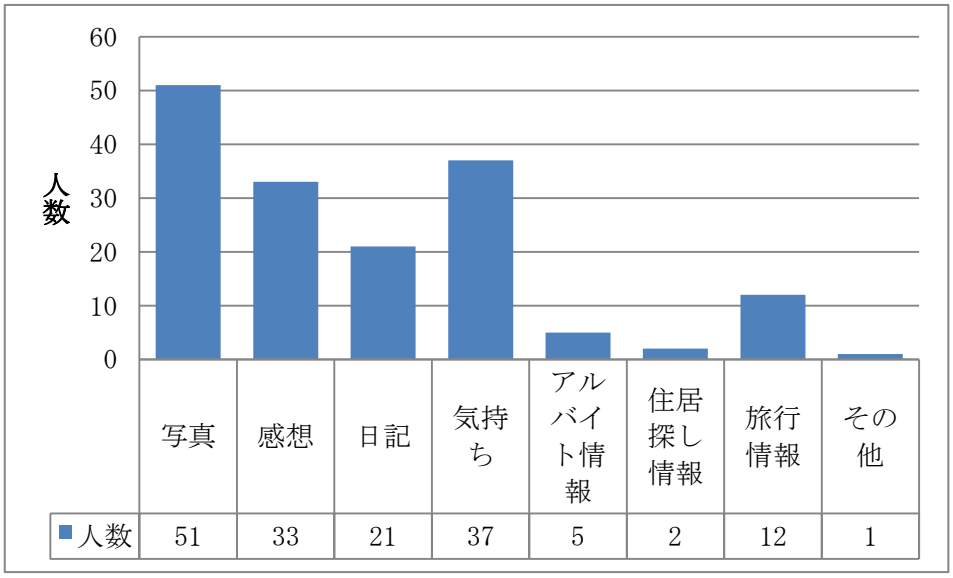



図 3.41　WH 期間中、情報発信の内容（n＝55）

そしてどのぐらいの頻度で情報を発信していたかについて、図 3.42 にその結果を示した。「2 日～3 日に 1 回（18 名／32.73%）」を選択した回答者が最も多く、それに次ぐのは「1 週間に 1 回（10 名／18.18%）」である。その他の回答については、「思いついた時（3 名）」、「2 週間に 1 回（2 名）」や「旅行やライブに行く時」、「3 ヶ月に 1 回」、「最初の 2 ヶ月は毎日だったが、その後しなくなった」（共に 1 名）などが記入されている。

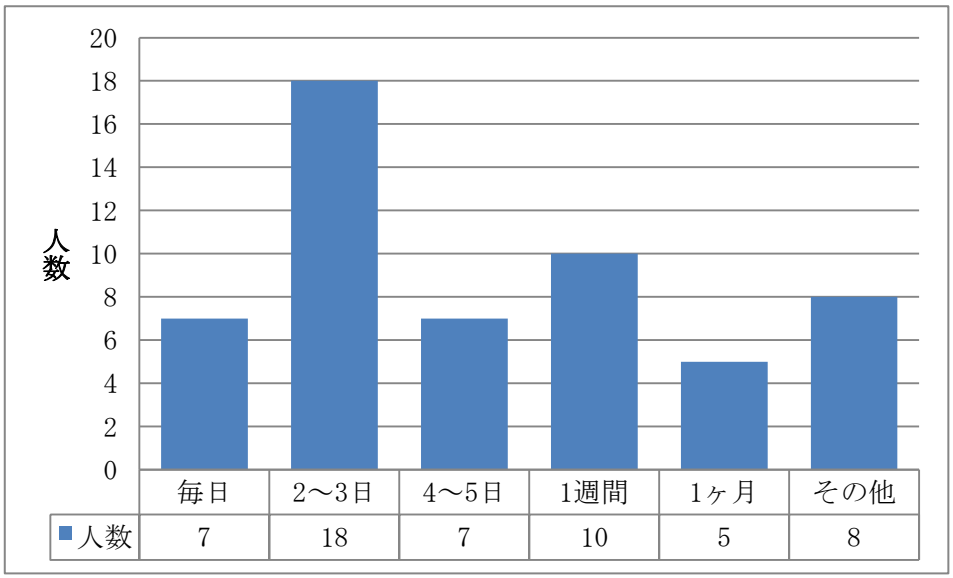



図 3.42　WH 期間中、情報発信の頻度（n＝55）

（6）活動期間中への考察

WH 期間中の活動に関する以上の結果をアルバイト、生活費用、旅行、集会と情報発信の五つのパートにまとめ直して考察を行いたい。まずアルバイトについて見てみよう。WHM にとってアルバイトは現地での生活及び旅行を支える重要な収入源のため、60 名の回答者のほぼ全員がアルバイトしていた。しなかったと回答した 1 名に関して、インタビュー調査に応じてくれなかったため、実情を本人に確認できなかったが、恐らく経済的に余裕を持っていたのではないかと思われる。それに対してアルバイトしていた大多数の回答者は、9 ヶ月～11 ヶ月の長期に亘って安定した勤務形態を取っているが、これは経済的な理由によってそうせずにはいられなかったのではないかと想定される。

アルバイトの平均時間数、平均収入、全体の生活費用の三つの項目で最上位の回答を取り、1 ヶ月に 20 日間勤務と仮定して計算する場合、1 日少なくとも 5 時間～6 時間働き、時給約千円で毎月の残金は約 2 万円という結果となる。居住地を東京や大阪と仮定してこの結果を見ると、時給は平均水準レベル[45]だが、自由に利用できる時間は少ない。また、約 2 万円の残金をアルバイト月数に掛けたら 18 万～22 万となるが、アルバイトしなかった月の生活費や帰国旅費などに当てるのに適当な金額となろう。

続いて生活費用を見ていきたい。全体の生活費用を最も選択された回答である 8 万～10 万で取る場合、家賃はその約半分の 4 万～5 万だが、居住地を同じく東京や大阪と仮定する

[45] ジョブズリサーチセンター（2013）2013 年 11 月度アルバイト・パート募集時平均時給調査（download at 2013.12.6）によると、首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の平均時給は 993 円、関西圏（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県）の平均時給は 909 円である。

と、やや足りない金額[46]となる。また、日本への台湾人 WHM が準備した資金額がそれほど多くないことと、ビザが有効期限 1 年間のものであることから、一般の賃貸住宅を借りるのは難しく、敷金、礼金、仲介手数料が無料で、且つ保証人も要らないシェアハウスやゲストハウス[47]を借りることが多いのではないかと想定される。なお、家賃で 0%との回答も少なくないが、アルバイト先に社員寮が用意されているためではないかと思われる。一方、学習費と体験費の 2 項目とも 0%との回答が圧倒的に多いが、学習費は語学学校に通わなかった回答者が多いためであるのに対し、体験費は旅行に様々な体験が含まれている、或いは無料の体験プログラムがあるなどの理由が考えられよう。

上記で言及した項目以外のものについても見てみよう。生活費に関しては 20%前後に固まっている結果となったため、全体の生活費用の約 20%を占めていると見て良いだろう。そして、一つの回答に集中せず、ばらつきが大きい項目として旅行費と雑費がある。旅行費の場合、比較的旅行に出かける回答者とそうでない回答者がある程度分かれていると考えられよう。雑費の場合、元々他の項目の補足として捉えられているため、5%と見る回答者もいれば、細かく計算せずに 0%とする回答者もいると理解して良いだろう。

生活費用を全体的に見て更に各支出項目で最も選択された回答をピックアップし、または回答者数が近い回答との中間値を取ると、家賃が 41%～50%、維持費が 7.5%（～5%と 6%～10%の中間）、生活費が 16%～20%、旅行費が 15%（6%～10%と 16%～20%の中間）、学習費と体験費が共に 0%、交際費が～5%、雑費が 2.5%（0%と 2.5%～5%の中間）との結果になる。家賃、維持費と雑費を合わせて計 60%を毎月の固定支出として捉える場合、学習費と体験費が共に 0%であるため、残りの 40%が自由に利用できる部分であり、生活費と旅行費、交際費に充てる。そうすると旅行費はそのうちの 37.5%を占めることになり、比重が少ないとは言えないだろう。

更に旅行について考察したい。1 ヶ月に 2 日～4 日、つまり 1 週間に 1 日かそれ以下しか旅行に出かけていないという回答が最も多い結果となったが、これはアルバイトの形態に関連していると考えられる。前述した通り、日本への台湾人 WHM は長期的で安定した勤務形態

---

[46] 全国家賃動向調査全国賃貸管理ビジネス協会（2013）2013 年 11 月全国家賃動向調査（download at 2013.12.6）において、1 部屋の家賃として東京都は 68,930 円、大阪府は 48,964 円である。

[47] 一般社団法人日本シェアハウス・ゲストハウス連盟ホームページ（download at 2013.12.6）によれば、「現在国内では『ゲストハウス』『シェアハウス』両方の呼び方が一般的となっており、当連盟では同意義と捉えている」とされているため、ここでは同連盟の定義に従い、(1) 最短の契約期間を 1 ヶ月以上とする中～長期型滞在向け賃貸物件であること (2) 入居者同士の共有スペースがあり、交流が図れること (3) 国籍を問わず、入居できることの三つの要件を満たすものをゲストハウス／シェアハウスと呼ぶ。

を取っている傾向があるため、1 箇所に長く滞在し、アルバイトの合間を縫って旅行に行っているのではないかと想定される。それなら、1 週間で取得できる休暇日数を 2 日と仮定する場合、1 日を旅行、1 日を用事や休養に利用するという過ごし方も考えられよう。たとえ 2 日とも旅行に充てたとしても、行ける範囲は居住地周辺に限られてしまうので、訪ねる都道府県数が少ないのも頷ける結果だと言える。また、収入と旅行費が占める比率から見てみると、1 ヶ月 10 万円の収入があると仮定する場合、旅行費がそれの約 15%で計算すると 1 万 5 千円になる。この金額を日本人の国内旅行平均単価[48]と対照して見ると、日帰り旅行の平均単価に相当する金額ではあるが、宿泊旅行の平均単価の半額にも及ばない水準であることが分かる。このようなことから、1 ヶ月の平均旅行日数及び訪れた都道府県数の設問において少なめの回答を得たのも理解し難くない。日本への台湾人 WHM は、時間的にも金銭的にも旅行に行きやすい環境に恵まれていないと言えよう。

次に集会に関する結果を見ていきたい。集会の開催場所としてレストランや居酒屋が多く回答されたが、友人宅や自宅の回答も少なくないとの結果を得た。これは、シェアハウスやゲストハウスに入居している回答者が多いのではないかと、以前に述べたことに関連していると考えて良いだろう。シェアハウスやゲストハウスで仲間と集まって何かをするのであれば、自宅或いは友人宅の部類に入ると考えられる。他方、レストランと居酒屋を見てみると、後者より前者の方が比較的選択される結果となったが、その理由は消費額の違い[49]にあると思われる。

最後に情報発信について、WH 期間中にほとんどの WHM は 2 日～3 日に 1 回のペースで WH に関する情報を自分のフェイスブックページやブログを通して写真や気持ち、感想を発信している。この結果を渡日前の情報獲得手段と対照して見ると、情報収集はフォーラムサイトなど公開的な空間で行うのに対し、情報発信はフェイスブックページやブログなど比較的個人的な空間で行っていることが窺える。このような違いが生じた理由について、フェイスブックページとブログでの発信内容の違いなどと合わせ、第 4 章のインタビュー調査で更に追究していきたい。

---

[48] 国土交通省観光庁（2013）旅行・観光に関する調査研究報告書（download at 2013.12.7）P.25 によれば、2011 年国内旅行平均単価において、観光・レクリエーションの部では宿泊旅行が 53,166 円、日帰り旅行が 16,314 円である。

[49] 一般社団法人日本フードサービス協会(2009)外食企業経営および関連データ(download at 2013.12.7)を参照すると、客単価においてパブ・居酒屋は 2,408 円、ファミリーレストランは 1,249 円である。

### 3.4　活動終了後

（1）情報発信

前節に引き続き、WH 終了後の情報発信状況について尋ねた。図 3.43 は WH 終了後に WH に関する情報を発信していたかどうかの設問に対する回答を示したものである。WH 期間中より減少したとは言え、6 割以上が「有（38 名／63.33%）」と回答した。

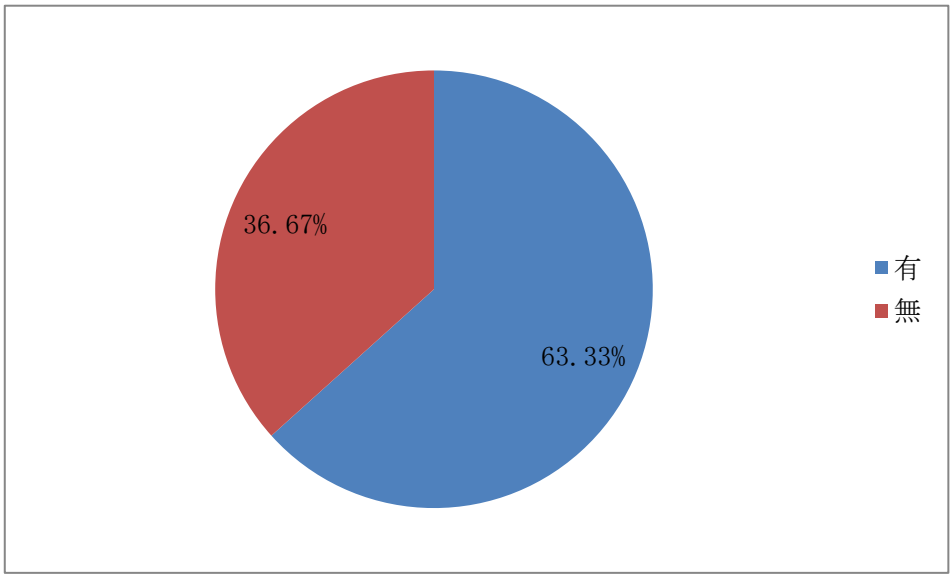



図 3.43　WH 終了後、情報発信の有無（n＝60）

WH 終了後に WH に関する情報を発信していたと回答した 38 名に、行動の詳細について更に深く質問した。まず、情報発信の手段について複数回答可能の形式で尋ねたところ、図 3.44 のような結果を得た。WH 期間中の結果と同様、最もよく利用される手段として選択されたのは「個人フェイスブックページ（31 名／81.58%）」であり、回答者数はそれに次ぐ「個人ブログ（13 名／34.21%）」の約 2 倍となっている。その他の回答内容も WH 期間中の結果と同様、ミニブログの「Plurk（4 名）」である。

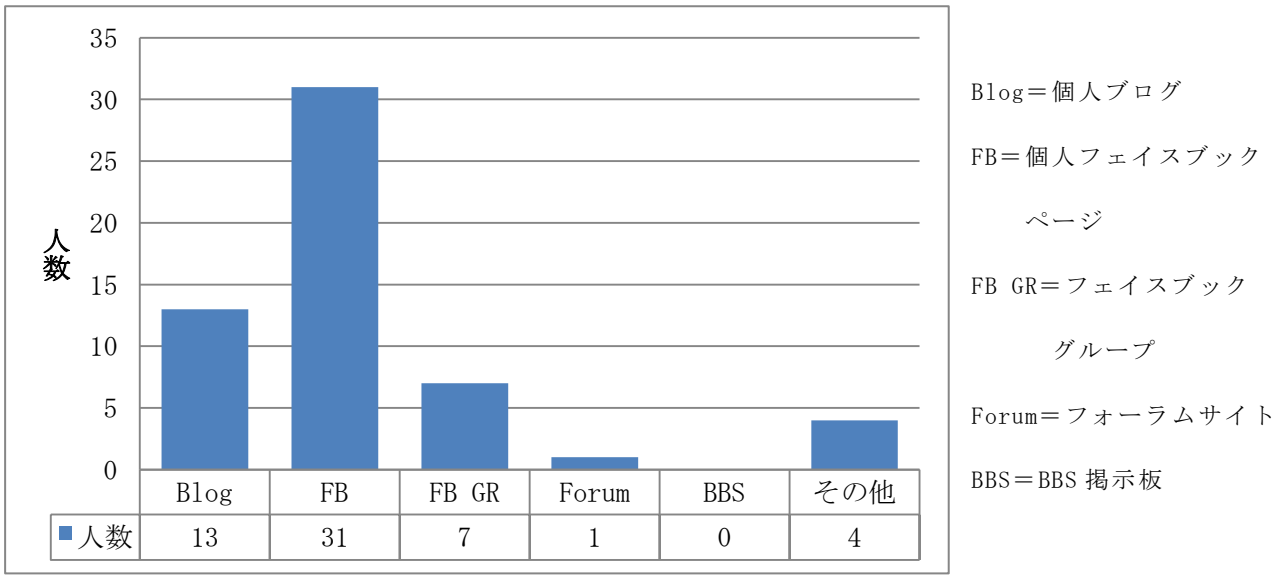



図 3.44　WH 終了後、情報発信の手段（n＝38）

次に発信した内容についても複数回答可能の形式で質問した。図 3.45 にその結果を表しているが、よく発信された内容として「写真（32 名／84.21%）」、「感想（25 名／65.79%）」、「気持ち（22 名／57.89%）」の 3 種類が選択されている。これを WH 期間中の結果と対照して見ると、同様の 3 種類であることは変わらないが、元 2 位の「気持ち」と元 3 位の「感想」の順位が逆転したことが分かる。なお、その他の回答内容は WH 期間中のと違い、「日本語の豆知識（1 名）」である。

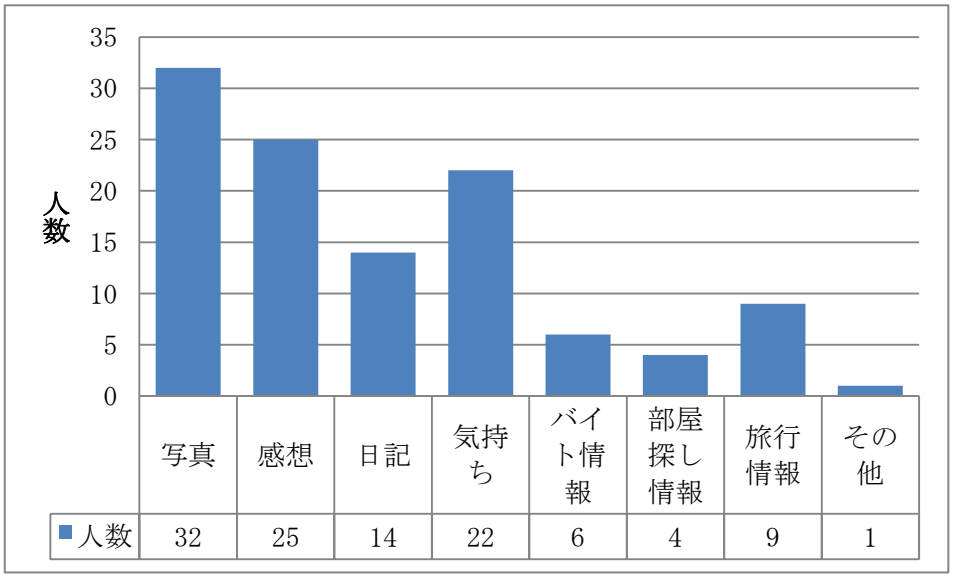



図 3.45　WH 終了後、情報発信の内容（n＝38）

そしてどのぐらいの頻度で情報を発信していたかについて、図 3.46 にその結果が示されている。最も選択された回答は WH 期間中の「2 日～3 日に 1 回」から「1 ヶ月に 1 回（11 名／28.95%）」に移り、発信頻度が低くなったことが分かる。その他の回答については、「思いついた時（5 名）」や「旅行に行く時だけ」、「約 4 ヶ月に 1 回」、「1 回」（共に 1 名）など

が記入されている。

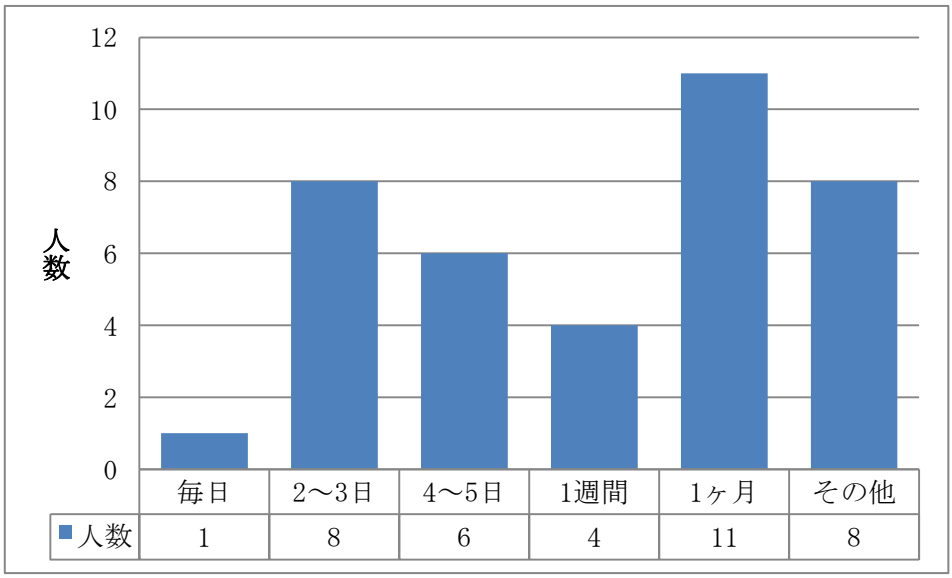



図 3.46　WH 終了後、情報発信の頻度（n＝38）

（2）WH への満足度

WH の 1 年間を振り返って満足したと思うかとの設問に対し、図 3.47 のような結果を得た。プラス評価に当たる「満足した（38 名／63.33%）」と「まあまあ満足した（17 名／28.33%）」の 2 つの回答は合わせて 9 割以上を占めている。それに対して「普通（3 名／5.00%）」とマイナス評価の「あまり満足しなかった（2 名／3.33%）」の 2 つの回答は合わせても 1 割に及ばず、「満足しなかった」と回答した回答者はいない。

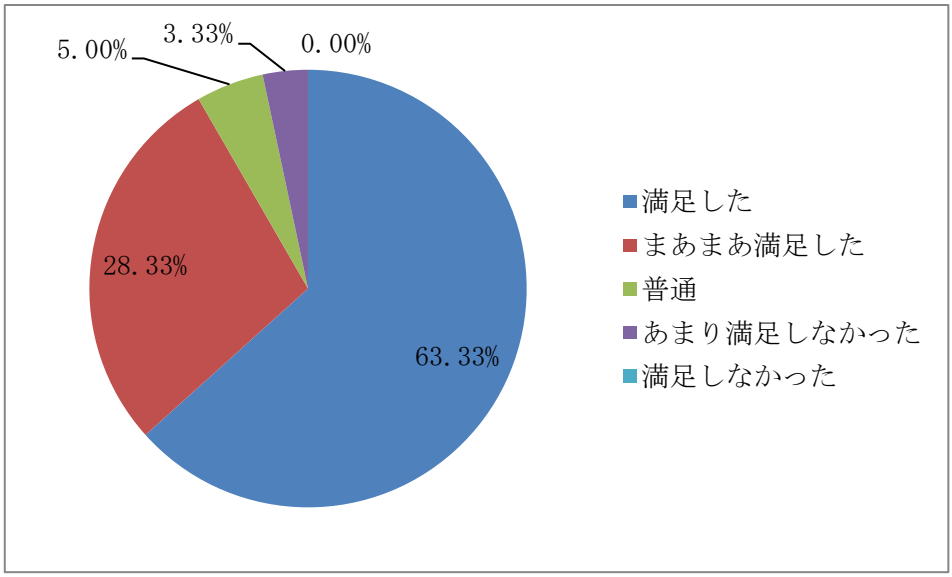



図 3.47　WH への満足度（n＝60）

そして、満足度の理由について記入してもらい、満足度別に分けてまとめてみた。その結果、「満足した」グループでよく出てくる理由として、「現地の生活や文化などを体験できたため」、「旅行で色々な所へ行けたため」、「楽しかったため」、「友達が多くできたため」など

がある。「まあまあ満足した」グループでは、「時間が短すぎて遊び足りなかったため」、「日本の生活や文化を体験できたため」、「友達が多くできたため」など、満足なところもありながら不足点を惜しむ気持ちが見られる。

一方、「普通」グループでは「アルバイトは大変だったが、遊びに関しては楽しかったため」、「日本語力が足りなかったため」、「東京での生活費用は高かったため」の理由が、「あまり満足しなかった」グループでは「3.11 東日本大震災に遭ったため」、「1 期生なので情報が少なく、アルバイト探しも生活も大変だったため」の理由が記された。

（3）日本／日本人への印象

図 3.48 は WH の経験を経て日本或いは日本人に対する印象が変わったかについて質問した結果を表している。「変わっていない（28 名／46.67%）」と回答した回答者が半数近くを占めており、それに「良くなった（21 名／35.00%）」と「悪くなった（11 名／18.33%）」が続く結果となった。それぞれの回答に対する理由について、「変わっていない」理由として「思っていたのとそれほど変わらないため」、「良い人も悪い人もいるのは世界共通のことのため」、「元々良い印象だったため」などが挙げられている。「良くなった」理由について、「良い人に多く出会ったため」、「想像していたより親切で人情味があるため」など、現地で日本人が親切に接してくれたと考えられるものが多い。そして「悪くなった」理由として、「裏表があって気をつけないといけないため」、「想像していたほどマナーが良くない／制度がないため」など、認識していたイメージとのギャップを中心とした内容が書かれている。

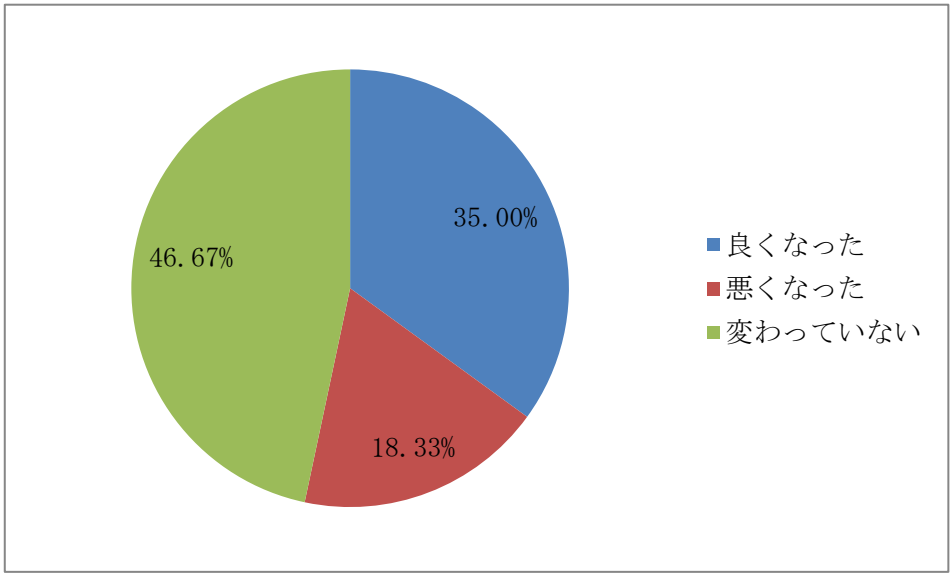



図 3.48　日本／日本人への印象（n＝60）

（4）日本への再訪意欲及び親戚友人への推薦意向

今後日本を再訪したいと思うかについて尋ねたところ、図 3.49 に示されたように、WH へ

の満足度や日本或いは日本人に対する印象と関係なく、60 名の回答者が全員再訪意欲「有」と回答した。

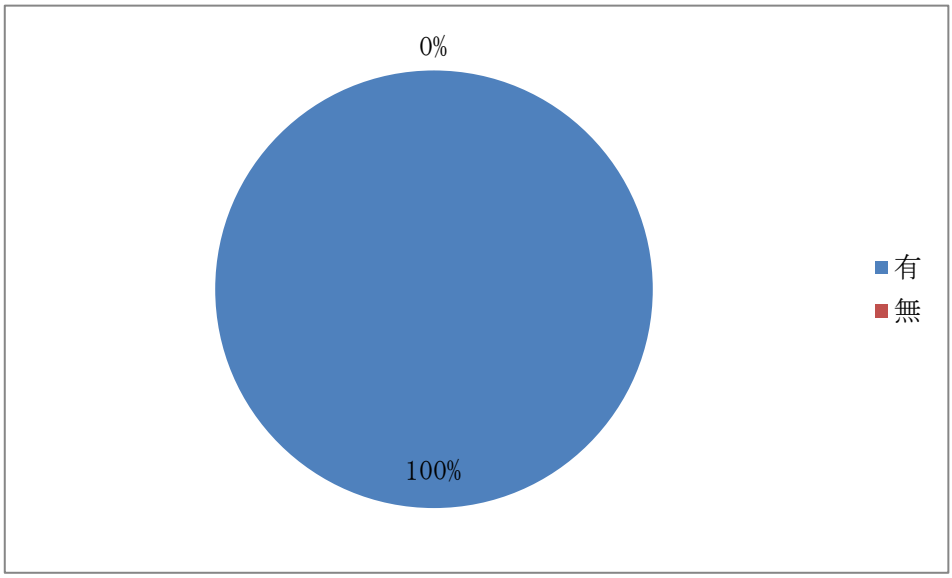



図 3.49　日本への再訪意欲（n＝60）

自分が行きたいかと別に、周りの親戚友人に旅行や WH などで日本に行くことを推薦するかについて質問し、その結果を図 3.50 に表した。9 割以上の回答者が「推薦する（57 名／95.00%）」と回答し、「推薦しない（3 名／5.00%）」と回答した回答者は僅か 5%しかいない。その中で、「推薦しない」理由として「ある程度の日本語力が必要のため」、「特に推薦したいとは思わないため」がある。それに対し、「推薦する」理由としてあるのは「日本は良いところだから」、「滅多にない体験のため」、「見聞を広め、自立性を育てられるため」などである。なお、どちらの回答にも「旅行には良いが、仕事には推薦しない」という理由が挙げられている。

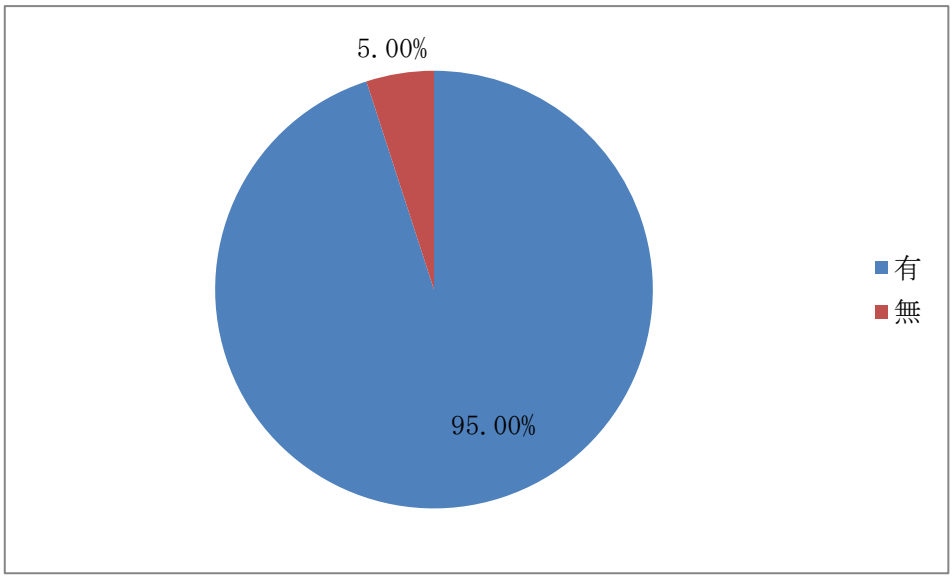



図 3.50　親戚友人への推薦意向（n＝60）

（5）大変だったこと及びあれば良いと思うこと

台湾人の日本へのWHの現状を把握し、その観光的価値を示した上で受け入れ体制の改善に方向性を提示するために、これまでの設問に加え、WHで大変だったことやあれば良いと思うことについて自由に記述してもらった。回答者が記入した内容を整理すると、大枠アルバイト探し、住居探し、手続き及び規定、日本語及び人間関係の四つのパートに分けられるが、以下にそれぞれについて簡潔に説明する。

アルバイト探しに関して大変だったことでは、「ある程度の日本語力がないとなかなか難しい」、「WHビザを知らないお店が多いので探しにくい」という意見があり、それに対してあれば良いと思うことでは「公式機関によるアルバイト紹介サイト」が挙げられている。

住居探しで大変だったこととして「契約時に保証人が必要なので困った」という意見が挙げられ、それに対してあれば良いと思うこととして「先輩達が住んでいた住居の紹介サイト」が書かれている。

手続き及び規定について大変だったことに、「携帯もインターネットも2年契約なので、1年で解約したら違約金を支払わないといけない」や「WHビザは観光が主のはずだが、中長期滞在ビザに分類されているので、観光ビザで購入できるお得な切符を買えず、旅行するのに膨大な交通費がかかる」などの意見があり、それに対してあれば良いと思うこととして、「携帯やインターネットの1年プラン」や「WHM向けのお得な切符」などが記入されている。

日本語及び人間関係において「日本語を流暢に喋れないので、コミュニケーションを取るのに大変だった」、「日本人の友達をなかなか作れない」などの意見が挙げられているが、それに対してあれば良いと思うことに「日本語勉強会」、「日本人と交流できるイベントや集会」などの意見がある。

（6）活動終了後への考察

本節では主にWH活動終了後の情報発信行動とWH全体を振り返って見た際の感想や意見について述べた。WH終了後の情報発信行動をWH期間中のそれと対照して見ると、同じ傾向が見られる部分もあるが、幾つか異なる点も窺える。

情報を発信する手段は、期間中と終了後とも個人フェイスブックページと個人ブログがメインだが、発信する内容では「感想」と「気持ち」の順位が逆転し、そして発信する頻度も「2日～3日に1回」から「1ヶ月に1回」と頻度が低くなったなどの変化が起きた。これは、活動終了後は活動期間中のように、その時に思っていることや体験していることをリアルタイムに近い形式で更新するのではなく、当時自分が経験したことを思い出して感想文と

して発信することに切り替えたと見て良いだろう。また、頻度についても、当時の環境から離れることによって書ける「ネタ」が少なくなり、何かのきっかけを以て再び日本にいた頃のことを思い出し、書き込むことに繋がったのではないかと考えられる。どちらの変化も想定されることだと言えよう。

続いて感想や意見に関して、大多数の回答者は日本への WH に満足しており、日本或いは日本人に対する印象の変化は人によって違うが、日本を再訪したい、周りの親戚友人に日本へ旅行や WH で行くことを推薦する意向が高いという思いは同様である。日本への WH に満足した理由を見てみると、日本を選定して WH に参加した理由と関連していることが窺えよう。そして日本或いは日本人に対する印象の変化について、変わっていないという回答が最も多いが、理由は良くなった理由と悪くなった理由と同様、「想像していたより…」という記述が多いので、実際はどのように変化したかを知るには、元々どのような印象を抱いていたかを究明する必要があるだろう。

一方、回答者自身の再訪意欲と周りの親戚友人に推薦する意向に関しては、満足度や印象の変化に関係なく高い結果となっている。これは日本への台湾人 WHM が日本旅行に抱いていた好印象が変わっておらず、加えて WH を貴重な経験として捉えているため、自ら再訪したいだけでなく、周りの親戚友人にも日本に行くことを推薦できるようになったのではないかと考えられる。そして最後に、大変だったこと及びあれば良いことについて尋ねたところ、アルバイト探し、住居探し、手続き及び規定、日本語及び人間関係の四つのカテゴリーに関する意見が出たが、この部分については、具体的に何を指しているかを第 4 章インタビュー調査の結果で更に詳述したい。

### 3.5　まとめ

本章は、日本への台湾人 WH 経験者を対象に実施したアンケート調査の結果及びそれに対する考察を、基本情報、活動開始前、活動期間中及び活動終了後の四つのパートに分けて述べた。基本情報においては、日本への台湾人 WHM は女性が多く、20 代後半が占める比率が高い特性、そしてほとんどの人は日本に 1 年間滞在し、大阪や東京、北海道を主な居住地とする傾向をも記した。また、他国への WH 経験或いは予定がなく、日本語の学習や日本での生活／自然／文化体験に興味を持って日本への WH に参加したのが分かる。

活動開始前の事前準備について、現地でアルバイトすることを想定したからか、用意した準備資金は少なめの 20 万～30 万円に抑えられている。具体的な準備活動に関しては、フォ

ーラムサイトやブログなどのインターネット空間や親戚友人を主な情報獲得手段としており、航空券の購入や住居探し、アルバイト探しなどにおいては、自力で解決する傾向が見られ、語学学校の場合はほとんどの人が通わなかったとの結果が出た。

活動期間中に対しては、収入と支出、旅行や集会活動、情報発信行動の幾つかの面から考察した。日本への台湾人 WHM は 9 ヶ月～11 ヶ月の長期に亘る安定的なアルバイトに就く傾向があり、1 ヶ月に少なくとも 100 時間～120 時間勤務し、10 万～12 万の収入を得た上で 8 万～10 万を生活費用、約 2 万円の残金をアルバイトしなかった月の支出などに当てると考えられる。支出の内訳を見てみると、約 6 割が固定支出に当たり、残り 4 割の自由に運用できる資金のうち､旅行費が 4 割弱を占めることとなる(全体の中では 15～16%:40%×40%)。

旅行や集会活動に関しては、勤務形態や収入の影響を受け、想定していたより少ない結果となった。旅行日数及び訪れた都道府県数では、1 ヶ月に 2 日～4 日の頻度で、1 年間で 6 個～10 個の都道府県を訪れ、集会活動ではレストランと居酒屋を中心に、1 週間に 1 回～1 ヶ月に 1 回の頻度で行われている。そして情報発信については、9 割以上が発信していると回答し、主に個人フェイスブックページと個人ブログを通し、2 日～3 日の頻度で写真や気持ち、感想を中心に発信していたことが分かる。

最後に、活動終了後の情報発信行動と感想や意見についての結果をまとめた。活動終了後の情報発信行動は活動期間中のそれと同じく、主に個人フェイスブックページと個人ブログを通しての発信だが、頻度は 1 ヶ月に 1 回に変化し、内容も写真、感想や気持ちの 3 種類で同様だが､感想の比重が気持ちを超えて 2 番目に多い回答となった｡感想や意見に関しては、日本への台湾人 WHM の大多数は WH に満足しており、日本或いは日本人に対する印象に変化が起きた人もいるが、全体的に日本を再訪したい、且つ周りの親戚友人に推薦する意向があるとの結果が見られる。WH 期間中に大変だったことやあれば良いと思うことについては、アルバイト探しや住居探し、手続き及び規定、日本語及び人間関係の四つのカテゴリーに関する意見が出ている。

本章はアンケート調査の結果を基に日本への台湾人 WHM の特性や行動などの大枠を把握したが､次章ではその詳細を更に追究していくために行ったインタビュー調査の結果と考察を中心に述べていきたい。

# 4　インタビュー調査結果の整理・分析

前章ではアンケート調査の結果に基づき、日本への台湾人 WHM の特性や行動などの大枠を把握した。しかし、彼らが具体的にどのようなきっかけで日本へ WH に行き、どのように行き先を選定したのか、また、活動期間中のアルバイト（ワーキング）、旅行や集会（ホリデー）などの実態、情報発信行動の実状及び周囲に及ぼす影響、そして 1 年間の経験を経ての感想や意見などについては、まだ詳細に明らかにされていない。WH の観光的価値を示し、現行の受け入れ体制の改善へ方向性を提示するには、上記内容を更に深く追究していく必要があるため、インタビュー調査を実施した。

本調査はアンケート調査に基づいて質問項目を策定し、台湾と日本で直接対面形式または Skype、LINE などの通信ソフトの通話／チャット機能を利用した形式、メールで質問一覧を送る形式の三つの方法で実施した。調査対象者はアンケート調査回答者のうち、インタビュー調査に応じてくれると回答した 26 名であり、調査期間は 10 月末～11 月上旬の約 2 週間とした。インタビューイー26 名の基本情報一覧は表 4.1 にまとめており、以下にそれについて簡潔に説明する。

表 4.1-A に示された通り、本調査では対面で 15 名、Skype で 6 名（うちビデオ通話 1 名、通話 4 名、チャット 1 名）、LINE で 2 名（うち通話 1 名、トーク 1 名）、メールで 3 名に対してインタビュー調査を実施した。表 4.1-B～表 4.1-C、表 4.1-E～表 4.1-I を見て分かるように、インタビューイーの性別や年齢などの特性、渡日時期、滞在期間と主な居住地、WH への満足度及び日本／日本人に対する印象などの分布は、いずれも前章のアンケート調査で得た結果と傾向が一致している。また、表 4.1-D に記されている WH に申請する時期を表 4.1-E と対照して見ると、申請した年の翌年に日本に渡航する傾向が見られる。

続いて本章の構成について説明する。本章は、インタビュー調査の結果及びそれに対する考察を示したものであり、冒頭で述べたように、主に WH に対する考え、ワーキングとホリデー、情報発信及び意見感想の詳細を究明することを目的としている。従って、本章はこの四つのパートに沿って考察を行い、各節において調査結果を簡潔に述べた後、インタビューイーからの代表的なコメントを幾つか例示する形式を取って記述する。なお、本論文に掲載する全てのコメントは筆者によって日本語訳されたものである。

表 4.1　インタビューイー基本情報一覧表

| | インタビュー方式 | 性別 | 現在 | 当時 | 申請時期 | 渡日時期 | 滞在期間 | 主な居住地 | 満足度 | 印象 | 日本語学科 | 日本語力（前） | 日本語力（後） | 註 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 対面 | 女 | 33 歳 | 29 歳 | 2009 前期 | 2009.08 | 12 ヶ月 | 北海道 | 5 | × | Yes | N1 | N1 | |
| B | 対面 | 女 | 27 歳 | 24 歳 | 2010 前期 | 2011.01 | 12 ヶ月 | 静岡 | 4 | ○ | Yes | N1 | N1 | Agency |
| C | 対面 | 女 | 32 歳 | 30 歳 | 2011 前期 | 2011.12 | 11 ヶ月 | 北海道<br>京都<br>富山 | 5 | × | Yes | N1 | N1 | |
| D | 対面 | 女 | 28 歳 | 26 歳 | 2010 前期 | 2011.05 | 12 ヶ月 | 北海道 | 5 | ○ | No | N1 | N1 | |
| E | 対面 | 女 | 33 歳 | 31 歳 | 2010 後期 | 2011.07 | 12 ヶ月 | 東京 | 5 | △ | No | N2 | N2 | |
| F | 対面 | 女 | 31 歳 | 29 歳 | 2011 前期 | 2012.03 | 12 ヶ月 | 東京 | 5 | △ | No | N2 | N2 | |
| G | 対面 | 女 | 30 歳 | 29 歳 | 2011 前期 | 2012.06 | 12 ヶ月 | 滋賀<br>神奈川 | 5 | ○ | No | N2 | N2～N1 | Agency |
| H | 対面 | 女 | 26 歳 | 25 歳 | 2011 後期 | 2012.03 | 12 ヶ月 | 大阪<br>長野 | 3 | △ | No | N4 | N1 | |
| I | 対面 | 女 | 24 歳 | 23 歳 | 2011 後期 | 2012.05 | 12 ヶ月 | 千葉<br>東京 | 3 | △ | No | N4 | N3 | 不推薦 |
| J | 対面 | 女 | 32 歳 | 31 歳 | 2011 後期 | 2012.09 | 12 ヶ月 | 京都 | 5 | ○ | No | N3 | N3 | |
| K | 対面 | 男 | 34 歳 | 31 歳 | 2009 前期 | 2010.06 | 12 ヶ月 | 東京 | 5 | △ | No | ― | ― | 語学学校 |
| L | 対面 | 男 | 33 歳 | 30 歳 | 2009 前期 | 2010.06 | 8 ヶ月 | 東京 | 2 | × | No | N2 | N2～N1 | 豪経験 |
| M | 対面 | 男 | 30 歳 | 28 歳 | 2010 後期 | 2011.04 | 11 ヶ月 | 大阪<br>北海道 | 5 | △ | No | N4～N3 | N2～N1 | |

表 4.1　インタビューイー基本情報一覧表（続）

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| N | 対面 | 男 | 25 歳 | 24 歳 | 2011 後期 | 2012.02 | 12 ヶ月 | 大阪<br>北海道<br>東京 | 4 | × | No | N3 | N2 | |
| O | 対面 | 男 | 29 歳 | 28 歳 | 2011 前期 | 2012.05 | 12 ヶ月 | 大阪 | 5 | △ | No | N3～N2 | N2 | 豪予定 |
| P | Skype ビデオ通話 | 女 | 31 歳 | 30 歳 | 2011 後期 | 2012.08 | 12 ヶ月 | 大阪 | 5 | △ | No | N2 | N2 | |
| Q | Skype 通話 | 女 | 32 歳 | 29 歳 | 2009 後期 | 2010.03 | 12 ヶ月 | 埼玉 | 5 | △ | Yes | N1 | N1 | |
| R | Skype 通話 | 女 | 31 歳 | 28 歳 | 2009 後期 | 2010.07 | 12 ヶ月 | 大阪 | 2 | × | No | N5～N4 | N2 | |
| S | Skype 通話 | 女 | 31 歳 | 29 歳 | 2010 後期 | 2011.10 | 12 ヶ月 | 神奈川 | 4 | △ | No | N3 | N2 | 語学学校 |
| T | Skype 通話 | 女 | 29 歳 | 28 歳 | 2012 前期 | 2012.09 | 12 ヶ月 | 大阪 | 5 | ○ | No | N2 | N2～N1 | |
| U | Skype チャット | 女 | 27 歳 | 26 歳 | 2011 前期 | 2011.09 | 12 ヶ月 | 東京 | 5 | △ | Yes | N1 | N1 | |
| V | Line 通話 | 女 | 33 歳 | 30 歳 | 2009 後期 | 2010.11 | 12 ヶ月 | 大阪 | 5 | ○ | No | N4 | N3 | |
| W | Line トーク | 女 | 28 歳 | 26 歳 | 2009 後期 | 2010.12 | 12 ヶ月 | 大阪 | 5 | △ | Yes | N3～N2 | N2 | 加予定 |
| X | メール | 女 | 25 歳 | 23 歳 | 2009 後期 | 2010.10 | 9 ヶ月 | 大阪 | 5 | ○ | Yes | N1 | N1 | |
| Y | メール | 女 | 24 歳 | 23 歳 | 2011 後期 | 2012.07 | 12 ヶ月 | 石川 | 5 | △ | Yes | N2 | N1 | Agency |
| Z | メール | 女 | 25 歳 | 24 歳 | 2012 前期 | 2012.07 | 12 ヶ月 | 三重<br>大阪<br>群馬 | 4 | × | No | N2 | N2～N1 | 欧予定<br>Agency<br>不推薦 |

※　満足度：満足した＝5、まあまあ満足した＝4、普通＝3、あまり満足しなかった＝2、満足しなかった＝1

※　印象：○＝良くなった、△＝変わっていない、×＝悪くなった

※　経験＝経験者、予定＝予定者　不推薦＝親戚友人に推薦しない　語学学校＝活動期間中に語学学校に通っていた　Agency＝活動開始前の準備作業をエージェンシーに依頼した

表 4.1-A　インタビュー方式

| 方式 | 対面 | Skype | | | LINE | | メール |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 15 | ビデオ通話 | 通話 | チャット | 通話 | トーク | 3 |
| | | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | |

表 4.1-B　男女比

| 性別 | 男性 | 女性 |
|---|---|---|
| 人数 | 5 | 21 |

表 4.1-C　当時年齢

| 当時年齢 | 25 歳以下 | | | 26 歳以上 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 23 歳 | 24 歳 | 25 歳 | 26 歳 | 28 歳 | 29 歳 | 30 歳 | 31 歳 |
| 人数 | 3 | 3 | 1 | 3 | 4 | 5 | 4 | 3 |

表 4.1-D　申請時期

| 年度 | 2009 年 | | 2010 年 | | 2011 年 | | 2012 年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前／後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 人数 | 3 | 5 | 2 | 3 | 5 | 6 | 2 | ― |

表 4.1-E　渡日時期

| 年度 | 2009 年 | 2010 年 | 2011 年 | 2012 年 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 1 | 7 | 7 | 11 |

表 4.1-F　滞在期間

| 滞在期間 | 12 ヶ月 | 11 ヶ月 | 9 ヶ月 | 8 ヶ月 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 24 | 2 | 1 | 1 |

表 4.1-G　主な居住地

| 地方名 | 近畿 | | | | 関東 | | | | | 中部 | | | | 北海道 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 都道府県名 | 大阪 | 京都 | 滋賀 | 三重 | 東京 | 神奈川 | 埼玉 | 千葉 | 群馬 | 富山 | 静岡 | 長野 | 石川 | |
| 人数 | 12 | 2 | 1 | 1 | 7 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |

表 4.1-H　WH への満足度

| 満足度 | 満足した | まあまあ満足した | 普通 | あまり満足しなかった |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 18 | 4 | 2 | 2 |

表 4.1-I　日本／日本人に対する印象

| 印象 | 良くなった | 変わっていない | 悪くなった |
|---|---|---|---|
| 人数 | 7 | 13 | 6 |

### 4.1　WHに対する考え

（1）日本へWHに行くきっかけ

アンケート調査ではWHに参加した理由と日本を選定した理由について質問し、それぞれ異国の生活／自然／文化体験及び外国語の学習ができる、そして日本語や日本の伝統／流行／食文化と自然景観に興味があるという一致性のある結果が出た。また、日本への台湾人WHMはWHにおいてワーキングよりホリデーを重視し、卒業、兵役満了や転職などの人生の節目にWHに身を投じる傾向も指摘した。では、実際彼らはどういうきっかけで日本へWHに行くことを決めたのだろうか。インタビュー調査で尋ねたところ、「日本が好きなため」、「ちょうど転職したい時期のため」、「年齢制限が近づいてきたため」などが最も挙げられている理由となった。

Bさん　「その時は卒業して仕事を探し始めた頃だったけど、どういう仕事が良いか、自分の好きなものが見つからなくて…そこで友達が「WHがあるけど、試してみない？」と言われて、台湾にいても何をすれば良いか分からないんだったら、1年行って自分はどこまでできるかを試してみようと思って申請した。」

Gさん　「日本が好きなので、30歳までにチャンスがあれば申請してみようと思った。また、当時は仕事においてちょうど転勤となって、自分が志望していたことじゃないので、仕事を辞めてWHに行くことを決めた。」

Mさん　「昔から日本のアニメやゲームが好きで、その中に出てくる街並みや風景に親近感を覚えた。そういう生活を体験してみたくて日本語も少しできるので、兵役が終わってまだ仕事を探し始めていないブランクを利用して、WHで外に行ってみようと思った。」

（2）「WH」で日本に行く理由

日本への台湾人WHMは日本を好み、年齢制限の上限である30歳までに仕事や学業、兵役が一段落したところで日本へWHに行くことは上記設問から分かったが、なぜ観光や就労、留学ビザのいずれでもなく、「WH」ビザで日本に行ったのだろうか。また、ワーキングよりホリデーの方を重視する傾向があることから、「WH」と一般の観光旅行との相違点についても質問した。その結果、「WH」で日本に行った理由として「（留学や長期的に観光できるほどの）お金がないため」、「日本に長期滞在できるため」、「アルバイトで生活費や旅行費を補いながら様々な体験ができるため」など、経済的理由や体験を中心とした意見が多い。そして「WH」と一般の観光旅行の相違点については、「お金の使い方が違う」、「旅行形態が違う」、

「(観光より WH の方が) 日本のことを深く体験できる」などの意見が多数述べられている。

J さん　「観光ビザは有効期間が 3 ヶ月に限られているし、お金がかかる。留学ビザは考えたことがあるけど、経済的に厳しい。就労ビザの場合はチャンスがあればチャレンジしてみたいけど、難しすぎる。そうなったら日本に長期滞在できるのは WH ビザだけになる。WH ビザだったらバイトできるので、経済的な負担は和らげるし、現地の慣習や考え方を体験を通して理解することもできる。」

M さん　「WH で行かなければ、就労ビザでは仕事が見つからないと思うし、留学ビザだったら何を勉強すれば良いか分からないので、…(中略) 日本へ留学に行くことは考えていなかった。観光ビザの場合は 3 ヶ月だけだし、…(中略) どんな仕事でも、現地で就労できることは、日本で生活を体験するのにとても重要なことだと思う。観光ビザでは就労できないけど、ボラバイトの形で旅行に行ける。しかし、当時の私が思うにはボラバイトでもお金を使うし…たくさん貯金して、比較的遅いスピードで無くなるまで使うだけなので、バイトして自分の旅費や生活費を稼ぎながら日本での生活を体験したいと思って WH を選んだ。」

E さん　「観光は日程調整が難しいのに対して WH は自由度が高い。例えば桜の花見をしたい場合、満開の時期が早まろうが遅れようが、そこに住んでいるから時期に合わせて休暇を取れば良いけど、観光客はそうはいかない。また、お金の使い方も違う。WHM だったら、旅行に行っても格安ホテルに泊まるけど、(基本的に年に 1 度しか行けない) 観光客だったら、高級なホテルに泊まる。そのような違いがあると思う。」

T さん　「WH は合法的なバイトを通して日本を深く体験できるし、旅行の形態も観光と違う。観光客は限られた日数の中でできるだけ多くのスポットを詰め込むようにしているけど、私達は比較的時間に余裕があるので、ゆっくり回って深く見れるし、見るところも観光客と違う。(こんな生活は) 時々友達に羨ましがられるけど、経済的プレッシャーもあるので、旅行に行くために普段は一日中働いていることを知って欲しいのは本音だけど…(笑)」

(3) WH に対する期待或いは目標

上記二つの設問から、日本への台湾人 WHM は日本が好きだが、経済的理由によって滞在可能時間の長い、且つアルバイトしながら生活体験や旅行のできる「WH」で日本に行ったのが分かった。では、実際彼らは「WH」に対してどのような期待や目標を持っていたかを見てみよう。意見として多いのは、「日本語を上達させたい」、「旅行で行ったことのないところに多く行きたい」、「日本人の友達を作りたい」、「できるだけ多くのイベントやライブに参加し

たい」などである。これらの意見からも、彼らはワーキングよりホリデーの方にウェイトを置き、休暇を過ごすことを主な目的とし、就労をその付属的な活動としていることが窺える。

Sさん　「日本語を上達させて、その1年間で日本の生活、文化や現地の伝統行事などをきちんと体験したいと考えていた。それともう一つの目的はライブを見に行くことだった。」

Xさん　「日本語が上手になりかったけど、周りの友達は台湾人が多いので、あまりうまくできなかった。日本人は細かいところを気にするので、付き合うのに注意すべきところが多すぎて疲れるので、周りの友達はやはり台湾人が多かった。それと将来台湾で（日本語）塾を開きたいので、目標は他の人と違って、単に旅行するだけじゃなくて、情報や材料（有名観光地の紹介、日本語の本や教材、お寺や神社の絵馬など、本物を見せたいので、日本でしか買えないものをたくさん買った）を収集に来た。」

Yさん　「たくさんの友達を作って、限られた1年間で日本中を旅行したいと思っていた。」

（4）行き先の選定理由

日本へWHに行く理由及び「WH」で日本に行く理由と別に、日本のどこに行くか、そしてその理由は何なのかからも日本への台湾人WHMの特性が見えると思われる。アンケート調査の結果で既に指摘した通り、主な居住地の上位3位に大阪、東京と北海道がランクインしており、大阪が東京より上位であることと、北海道が二大都市圏以外に最も人気を集めている地方であることの2点に注目すべきだと記した。ここではその理由を探るべく、なぜ自分が行ったところを行き先として選定したのか、その他に候補としたところはあったかについて尋ね、その結果を以下にまとめた。

①　大阪

大阪を主な居住地に選定した理由として、「物価が（東京より）安い」、「周辺に観光資源が多い」、「人情に厚いところが比較的台湾と似ている」、「(WHの先輩が多いので、）情報を得やすい」など、暮らしやすさを連想させた意見が目立ち、「生活機能が良い」、「地震の地から離れている」などの意見もある。

Tさん　「日本に親戚友人がいないので、エージェンシーに意見を求めたところ、日本で暮らしたことがなければ、大都市を選んだ方が色んな情報が手に入れやすい。それで東京と大阪を薦められて悩んでいたけど、第一に東京は家賃など物価が高いし、地震があった。第二にWHは自分が遊びに行きたいところを選ぶべきだと思うので、東京と大阪の両方とも行った

ことがないけど、東京はお洒落できれいなイメージ、且つ高層ビルばかりでショッピングにもってこいな感じがするのに対して、大阪はお寺や京都、奈良など文化的なものが多い気がするので、大阪の方に魅かれると思って選んだ。」

② 東京

大阪の暮らしやすさに対し、東京を主な居住地に選定した理由として、「イベントが多く開催される」、「アルバイトの募集情報（チャンス）が多い」など、首都だからこそ持つ強みを中心とした意見が挙げられている。

Lさん 「日本と言えばまず頭に思い浮かぶのは東京だし、首都だからほとんどのイベントが開催される。また、外国人が受け入れられやすいし、アルバイトのチャンスも多いので、東京を選んだ。」

③ 北海道

二大都市の東京と大阪と違い、北海道を主な居住地に選定した理由として、「自然が良くてスイーツも有名」「雪が降る中で生活してみたい」、「スキーをしたい」など、自然に因んだ意見が多く見られる。

Nさん 「北海道を選んだ理由は、自然景観以外に六花亭や北菓楼など有名なスイーツにも関係があった。それと北海道の雪景色を眺めながら温泉に入りたかったし、美瑛辺りの花畑も一大要因だった。その時は山奥（層雲峡など）にあるホテルに泊まるより、民宿でボラバイトしたかったけど、残念ながら自分達で運転するので、雪が降ったら危ないと思ってまだ冬になっていないうちに北海道を離れた。」

④ その他

上位3位以外の都道府県を主な居住地として選定した人達の理由を見てみよう。京都には「日本の伝統文化を体験／学習したい」という比較的明確な理由があるのに対し、それ以外の都道府県については「エージェンシーが斡旋してくれた仕事がそこにある」、「語学学校がそこにある」、「以前交換留学で行ったことがある」や「友達がそこにいる」など、その地域の特性ではなく、何らかのきっかけとなる人や物事が主な理由となる場合が多く見受けられる。

Gさん 「当時は友達がそこにいるから神奈川の横浜に行きたかったけど、エージェンシーが紹介

してくれた仕事のうち、やりたい方が日程が合わないとの理由で他の人に取って代わられたので、滋賀の彦根に行くことになっちゃった。」

上記以外に、本人の選定理由ではないが、周囲の台湾人 WHM を観察してきた結果を教えてくれた対象者もいた。一時期フェイスブックグループ「日本打工度假互助會（日本 WH 互助会)」の管理者を務めていた 0 さんは下記のように述べた。

0 さん　「去年（2012 年）行った人ならだいたい地震に影響された人達なので、東京を離れようとする人が多い。当時東京と大阪ならどちらを選ぶかについて話していたけど、私の場合、日本の真ん中にあるので、九州に行くのも北海道に行くのもちょうど良い距離だし、どこに行こうとしても便利だという理由だった。皆さんの場合、文化体験をしたい人が多いし、台湾人が多いので先輩達が助けてくれる、そして大阪人と東京人の人情深さの違いを考慮する人もいる。こうした理由で皆さんが大阪を選んだのだが、東京に行こうとする人なら…（中略）地震からかなり経って復旧もある程度進んでいるし、（台湾で）テレビを見ていたら東京に対する印象が深く、日本と言えば東京なので、繁華街を体験したくて行く人が東京を選ぶ。…（中略）北海道の人達なら遊牧民と言っても良いだろう。どこかに WWOOF やイベントボランティアの募集があればそこに行くので、道内各地を駆け回るイメージ…一定の人数はあるけど、伸びたり減ったりすることはあまりない。彼らは時々本州の方に来たりするけど、北海道の自然に魅かれて行った人が多いので、また（WWOOF などの募集があれば北海道に）戻っていく比率が高い。…（中略）他のところなら、ホテルやスキー場で働く人が多いだろう。…（中略）大阪を選んだ人の中で一部京都が理由の人もいる。私も最初は京都に行きたかったけど、他の皆さんと意見交換しているうちに、仕事が見つかりにくく、家賃が比較的高いことに気づいた。それに大阪は京都からそんなに離れていないので、京都志望の人の多くは大阪に行くことになった。」

このように、大阪は暮らしやすさと観光に便利である点、東京は首都だからこそあるアルバイトやイベント情報の豊富さとにぎやかさが主な選定理由となっていることが分かった。それに対して北海道は自然、京都は文化、それ以外の都道府県の多くはそれほど明確な理由がないとの結果となった。

(5) WH に対する考えへの考察

本節では日本への台湾人 WHM の WH に対する様々な考えをヒヤリングした結果をまとめ、

彼らの基本特性を考察を通して把握した。まず、日本へ WH に行くきっかけと「WH」で日本に行く理由を合わせて見ると、日本が好きだがこれまでに金銭面などの制限により、留学や旅行に行くことができなかったため、日本に対する好奇心が満たされなかったという彼らの心境が窺える。そしてそれがきっかけとなり、30 歳までに卒業や兵役満了、転職などを機に、アルバイトで滞在費用を補いながら日本で 1 年間旅行や生活ができる WH に申請したと考えられる。これまでの留学や就労、観光など難易度の高い、或いはある程度経済的な余裕を持たないとできない渡航手段とは別に、それほど経済力を持たない人達に新たな渡航手段を提供したことから、「WH」は自国の生活や文化を異国の青年に理解してもらう機会を与えただけではなく、増やしたとも言えよう。

一方、日本への台湾人 WHM は、ワーキングよりホリデー重視という志向があるのに関連し、WH と観光との違いについてどのように考えているかについてもインタビュー調査を通して把握した。主な相違点は WH の趣旨にもあるように「生活や文化」に対する「理解」にあることがインタビューイーのコメントから窺える。観光ビザは最長 3 ヶ月滞在できるとは言え、比較的短期間であり、且つ就労できないため、表面的なことしか見られない。それに対して WH ビザは 1 年間滞在でき、日本で生活する感覚に近い滞在手段のため、観光より深く体験することができる。また、日本で暮らしているため、観光のように短期間且つ限定された時間の中でやりたいことを全て済ませる必要がなく、調整しながら余裕を持って物事に臨めるが、それと同時に観光にはない滞在費のやりくりが必要なため、好きなだけ行動することができない一面もある。数名のインタビューイーのコメントを借りれば、「観光客であると同時に住民でもある」というのが彼らを見る時に最も相応しい見方だと思われる。

次に日本への台湾人 WHM の WH に対する期待や目標を見てみよう。前章のアンケート調査において WH に参加した理由及び日本を選定した理由では、日本語の学習や自然／文化／生活体験が主な目的だという結果を得たが、それと対照して見ると、彼らの期待や目標も基本的にそれに対応するものとなっているのが分かる。それに上記 WH と一般の観光旅行との相違点に対する意見を合わせて見ると、彼らは WH に対して一般の観光旅行と違う期待や目標を持ち、すなわち、明確な目的意識を持って来日し、様々な体験を通して日本に対する認識を深めてきたことが分かる。

最後に行き先の選定理由について、第 4 位の京都を含め、上位にランクインした都道府県はそれぞれ WHM を惹きつける特性を有していることが分かる。他方、それ以外の都道府県、特に愛知（名古屋）や福岡などある程度の規模を有する大都市はなぜ行き先として選定され

ないのかについては、更に追究していく必要があると思われる。選定理由ではないが、数名のインタビューイーのコメントに「国内旅行で九州に行くより、台湾から直接行った方が近くて安い」、「九州にいる友達に（就労）状況があまり良くないと言われた」などの意見があるように、ワーキングにおいてもホリデーにおいても厳しい条件にあることが窺える。

## 4.2　ワーキングとホリデー

### （1）アルバイト

WH という名称にあるように、ワーキングに当たるアルバイトの部分は、活動期間の資金を補うための重要手段である。前章でも日本での活動期間中にアルバイトをしたかの問いに対し、回答者 60 名のうち 59 名が「した」と回答し、アルバイト期間が 9 ヶ月～11 ヶ月、平均時間数が 101 時間～120 時間／月、平均収入が 10～12 万／月という、長期的且つ安定した勤務形態でアルバイトしていたことが分かった。では、日本への台湾人 WHM は実際どのようなアルバイトをし、その間の休暇制度はどのようなものだったのだろうか。

インタビュー調査で尋ねた結果、アルバイト先として最も多いのはホテルや飲食店であり、倉庫や工場で作業する人も少なくない。そして休暇について、ほとんどの人はシフト自己申告制で、1 ヶ月に 8 日間或いは 1 週間に 2 日間ぐらいの休暇がもらえるが、ホテルなどオン／オフシーズンの差が激しいところでは休暇日数の差も激しくなる。

N さん　「大阪に滞在していた 6 ヶ月間は 3 つのバイトをした。その中で最も安定してやっていたのはハローワークで見つかったテーマパークホテルの客室清掃だったけど、残りの二つはフェイスブックグループで見つかった短期のもので、一つは関西空港でのアンケート調査員、一つは神戸港のフェリー販売員だった。それともう一つは、東京に滞在していた際に在日中国人向けのポータルサイトで見つかったお歳暮ギフトの包装だった。…（中略）勤務時間が長くて朝 9 時～夕方 6 時までで、最初と最後は夜 10 時まで残業したことがあるし、1 週間に 5 日間勤務していたけど、その 1 ヶ月が終わった後にまた遊びに出かけた。…（中略）ホテルはオン／オフシーズンが激しいので、ゴールデンウィークの時は 15 日間休まずに働いていたし、オフシーズンの時は 13、14 日間しか働かなかった。基本的に出勤日の決定は渡された 1 枚の紙にシフトを入れない日を記入した後、ホテル側が決めてくれる。」

Q さん　「私は牛丼チェーン店で 8 ヶ月間働いていた。1 日の勤務時間はかなり長かった。…（中

略）遊びに行く場合はだいたい 3 日かかるので、いつも 3 日連続で休みを取っていた。」

U さん　「バイトは友達が先に見つかって、その後に私に同じ方法で応募するよう薦めてくれた。10 ヶ月間古本買取＆ネット販売のバイトをしていたけど、実体店舗がないので倉庫みたいなところで働いていた。主な仕事内容は梱包、査定や電話対応だった。…（中略）1 週間最低 3 日働けば良いので、私はいつも週 4、5 日しかシフトを入れなかった。」

（2）旅行形態

WH のワーキングに当たるアルバイトに関して、前項でその実態を明らかにしたが、ではホリデーに当たる旅行などの実態はどのようなものなのだろうか。前章において WH に参加した理由では、ワーキングよりホリデー重視の志向が見られたが、平均旅行日数／月では 1 ヶ月に 2 日～4 日、WH 期間中に訪れた都道府県数では 6 個～10 個という結果となり、決して多くのホリデーを楽しめたとは言えないことが判明した。

このようなギャップが生じた理由として、アルバイト以外に自由に利用できる時間と、収入から固定支出を引いた後に、旅行に当てられる資金の両方とも限られていることが挙げられる。では、実際日本への台湾人 WHM は活動期間中、どのような旅行形態を取っていたのだろうか。インタビュー調査で質問した結果を旅行する時期によって「体験型」と「分散型」、「短期集中型」、「集中型」の四つのタイプに大まかに分類した。以下にそれぞれのタイプについて説明する。

①　体験型

生活や文化体験を主な目的とし、積極的に遠方へ旅行に出かけることは比較的少なく、1 箇所に密着するタイプである。日本での生活・文化体験を楽しむことが最も重要であり、旅行は二の次だと考えているため、旅行で訪れるところは居住地周辺に限定されている。

J さん　「私は（いつも）どんなイベントがあるかを調べて、経済的にも都合上も大丈夫であれば、その日に休暇を取って旅行に行った。バイトでは始めの 2 ヶ月間は午前 10 時～午後 2、3 時なので、それ以外の時間は旅行できるけど、後半の半年間は午前 6 時～10 時と夕方 5 時以降なので、体力がある時にしか旅行に行けなかった。…（中略）旅行と言っても近くに出かけて気分転換という感じ。バイト以外の時間はほんの数時間しかないので、本当に外をぶらぶらする程度だけど、異国にいるので、それだけでも旅行だと思える。基本的に旅費の問題を考えないといけないので、当時は大阪に 2 回しか行ったことがないし、東京も友達に呼ばれたから 2 日間ぐらい行っただけ。東京が私が行った中で一番遠いところ…

それ以外は基本的に京都市内に留まっていた。…（中略）前半はまだ経済的・時間的に余裕があって、バイトもそんなに入れなかったので、空いてる時間があれば出かけるけど、後半は2ヶ月ほどバイトがなかった影響で経済的プレッシャーがあったので、（バイト以外の時間に）まだ体力があれば出かけるけど、なければ家で休んだり寝たりすることにしていた。」

② 分散型

WH期間満了まで安定的にアルバイトをし、その間に休暇などを利用して旅行に出かけるタイプである。シフトが自己申告制の場合、3泊4日～1週間程度の遠方旅行ができるが、そうでない場合は1泊2日か日帰りの近距離旅行にしか行けない。そのため、旅行で訪れるところは居住地近隣数県及び遠方にポイント的に点在する幾つかの都道府県になる。

Pさん 「バイトは下請けの仕事なので、基本的に月～金の週5日間勤務だけど、毎日の終了時間が違うし、休暇はだいたい土日だけど、オンシーズンの場合は月～日の週7日間勤務になる。休みたい時は早めに言えば調整してくれる。…（中略）旅行はほとんど日帰りでイベントを追う感じだった。例えば京都に大文字焼きの行事があればそこに行くし、奈良に山焼きや鹿の角きりなどの行事がある時にそれに合わせて行くなど、イベントや行事があれば見に行く感じだった。」

③ 短期集中型

持続的にアルバイトをし、WH期間満了前或いは1箇所から別の箇所に移動するまでの短い期間（約1ヶ月或いはそれ以下）を利用して旅行に出かけるタイプである。アルバイトをしなくても良いブランク期間のため、比較的自由に動ける。従って旅行で訪れるところは分散型より分布が広い可能性があり、居住地近隣数県だけでなく、遠方に面的に分布する幾つかの都道府県も入る。

Zさん 「旅行はバイトのない1～2月と帰国前の6～7月に集中して行った。自分一人で行ったのも友達と行ったのもあって、日帰りも数泊するのもあった。関西は（バイト先が位置する三重県を含めて）全ての県を回ったし、関東は首都圏（東京、千葉、神奈川）とバイト先が位置する群馬県、中部は富士山周辺（静岡、山梨）と名古屋（愛知）、それ以外に四国（徳島、香川）と中国（広島、鳥取）にも少し行った。」

④　集中型

集中的にアルバイトをし、それ以外の時間を全て旅行に利用するタイプであり、短期集中型より旅行時間が長い（1ヶ月以上）。アルバイトと旅行の時期をきちんと分けているため、広範囲に活動でき、旅行で訪れるところは他のタイプより遥かに多いと見込まれる。

Aさん　「ホテルでバイトしていた際は（5ヶ月間と）比較的長く働いていたので、3日間連続で休暇を取りたいと願い出れるから、（毎月）道内の遠いところへ旅行に行けた。富良野（1ヶ月間余り）の場合は夏が繁忙期で連休は取れないので、1日休んで近郊の旭川や山登りに行くぐらいだった。（バイト期間外の旅行は）全て私一人で行った。バイトのない時は次にどこに行こうかを考えて、ボラバイトを探していた。…（中略）ボラバイトを実際数えてみたら4回（最初に北海道に行った時、京都、熊本、鹿児島）経験した。時間は私の設定ではそんなに長くなくて、約2週間ぐらいだった。ボラバイトがない時は自分の貯金を使って旅行に行っていた。…（中略）北海道を離れてまず東京に行って、京都に着いた後は南に向かって移動した。大阪を出て熊本に行ったけど、1ヶ月間ほど九州を回って、途中屋久島にも行った。九州を一周した後は、また東京へ友達に会いに行って、北海道に戻ったという感じだった。そして富良野でのバイトが終わってから、東北から下って行ってまた東京に戻った。最後は大阪にいる友達に会って、大阪から（台湾に）帰ることにした。」

なお、上記4分類はあくまでも最も顕著な特性に基づいてまとめた代表的なものであり、どれにも属さないWHMも存在していることを忘れてはいけない。また、短期集中型や集中型の人がアルバイト期間中に必ず旅行に行っていないとは限らない。むしろアルバイト期間中に短距離旅行を、アルバイト期間外に遠方旅行をする人の方が多い。

更に、上記旅行する時期による分類の他に、個人行動か団体行動か、ツアーに参加するか自分で計画するかについても尋ねた。その結果、「基本的に自分一人」、「自分一人の場合が多いが、時々友達と出かけることもある」と個人行動が多く、「自分（達）で計画する」、「回数は少ないが、ツアーに参加したこともある」と自ら計画する傾向が強い回答を得た。そして、旅行情報の入手手段について、「インターネットで検索する」、「ガイドブックを読む」、「駅に置いてあるパンフレットを参考にする」などが最も多い回答となった。

（3）交流状況

日本への台湾人WHMが活動期間中の観光及び消費行動の実態を明らかにするために、毎月

の各種支出の比率と実際の旅行実行状況の他に、食事会や飲み会、交流会などの消費行動に繋がる、周りの人々との交流状況を把握することも必要且つ有効な手段だと思われる。そこで、インタビュー調査において彼らが普段どういった人達とどのような交流をしていたのかを尋ねたところ、「台湾人とも日本人や他国の人々とも食事や旅行に出かける」と回答した人は少数派であり、「台湾人の友達と出かけることはあるが、日本人やそれ以外の国々の人とは食事を一緒にすることに止まっている」との回答が最も多い結果となった。

Cさん　「(交流していたのは) ほとんど台湾人だけだと思う。シェアハウスにはいるけど香港人だし、バイト先で欧米系外国人に会うことがあっても極く僅かなので、普段はやはり台湾人と一緒に行動することが多かった。同じシェアハウスに住んでいる人もいれば、『どこどこでイベントがあるけど、一緒に参加しないか』というフェイスブックグループ上の書き込みを見て、ちょうど自分もシフトがないなら行くし、それ以外だったら、北海道にいた頃は、私の他にWHで北海道に行っている人も友達もそこにいるので、一緒に出かけたことはある。日本人の場合、富山（の山小屋）にいた時は時々一緒にどこかへ散策に行かないかと声を掛け合ったりするけど、京都にいた時はたまに同僚と食事するぐらいなので、一緒に旅行に出かけることはなかった。」

Fさん　「同じ時期にWHに申請した同期や台湾人の同僚とよく一緒に活動していたけど、日本人とは退勤時間後の交流が少なく、会社の飲み会に限る感じだった。」

Xさん　「基本的に周りの日本人友達を台湾人友達に紹介するなど、紹介し合うことが多かった。日本人友達とはだいたいある学習機構による日本語カフェを通して知り合ったことが多かったけど、それらの友達からまた紹介してもらって交際範囲を広げていった。なので、私が知り合った日本人友達は基本的にお互い知り合っているし、台湾か香港が好きなのが共通点だった。普段は日本人友達の家に集まったり、私達台湾人が台湾料理会を開催する時にしか会わないけど、比較的仲の良い何人かとだけ旅行で出かけたりした。日本人と出かける回数は多いとは言えないけど、台湾人とならよく一緒に出かけた。」

(4) 時間の使い方

前項までは、日本への台湾人WHMの活動期間中のアルバイト、旅行や交流状況などの実態に対する特性を示したが、それ以外の時間を彼らはどのように過ごしていたのか、また、仮に1年間で十分だと思えず、もう少し時間があればどのように時間を活用したいかを、インタビュー調査で質問した。その結果、アルバイトや旅行、交流活動以外の時間の利用状況に

ついて「(サイクリングや散策で) 近隣を楽しむ」、「(趣味の) イベントに参加する」などの回答が多く見られる。一方、もう少し時間があれば何に利用するかという仮の質問に対し、「行ったことのないところへ更に旅行に行きたい」、「アルバイトしながら旅行に行きたい／生活を体験したい」など、実際経験した旅行や生活体験に物足りなさを感じていることが窺える回答が多い結果となった。

D さん　「バーゲンの時に (友達と) 一緒にショッピングに行ったり、ライブを見に行ったりした。…(中略) 台湾でライブを見に行くチャンスはそんなにないけど、日本の場合はどの歌手もほぼ毎年ツアーを行っている。北海道はそれほど多くなくて、どの歌手も行うわけでもないし、行うとしても東京や大阪のように連続 2 日間というのがないので、そこに住んでいたからには、せっかくのチャンスを逃すわけにはいかないと思って見に行った。」

M さん　「旅行に行かなくても町中をぶらぶらしていた。私の中ではそれも旅行の一種。(大阪の中心部から) 少し離れたところに住んでいたけど、自転車を持っているので、中心部の他に家の近辺を自転車で回ったり、どこか心地良い場所がないかを探しに行ったりして、特にこれといった目的もなく見て回ったりしていた。」

C さん　「旅行に使うと思う。お金があれば旅行に行く、無くなったらまたバイトに行く…つまり日常の支出を控除して残りの分は全部旅行に使って、無くなったらまたバイトするという感じかな…」

U さん　「延長できればもちろんそのまま日本にいたいし、オーストラリアみたいに 2 年まで延長できれば、別の業種のバイトをやってみたいし、もっと色んなところへ旅行に行きたい。」

(5) ワーキングとホリデーへの考察

本節では WH の中核部分となるワーキングとホリデーの実態を明らかにした。ワーキングに当たるアルバイトについて、前章のアンケート調査結果と合わせて見ると、日本への台湾人 WHM は長期的且つ安定した勤務形態でホテルや飲食店、倉庫や工場など、体力が必要とされる仕事に就いていたことが分かった。また、休暇制度についてはシフト自己申告制で 1 週間に 1 日～2 日または 1 ヶ月に 8 日～9 日と回答した人が多く、オン／オフシーズンが激しい或いは派遣形式で働く場合は不定休となるが、基本的に旅行やその他の活動に自由に利用できる時間は限られている勤務形態となっている。

続いてホリデーに当たる旅行や交流活動、その他の活動に対して考察を行いたい。旅行に関してここでは「体験型」、「分散型」、「短期集中型」と「集中型」の 4 種類に分類したが、

「体験型」と「分散型」は近距離で限定された範囲、「短期集中型」と「集中型」は遠距離で比較的広い範囲で旅行していたと言えよう。なお、「体験型」と「分散型」は行動日数も限定されているため、居住地及びその近隣の地元行事やイベントのスケジュールに合わせて行動する傾向が「短期集中型」と「集中型」より強いと思われる。このように、日本への台湾人 WHM を、旅行時期という異なる特性によって大まかに分類できると同時に、共通性も見られる。インターネットやガイドブック、旅行パンフレットなどから情報を収集している特性の他、団体より自己行動が多く、自ら旅行を計画する傾向が強いなど、バックパッカーに似た特性も見受けられる。

一方、交流活動について日本人より台湾人との共同行動が多いという結果を得た。これは数名のインタビューイーからのコメントを見て分かるように、フォーラムサイトやフェイスブックグループなどのインターネット空間を通して、または同じシェアハウスやゲストハウスに入居していることで知り合ったことが多いと考えられる。同じく WH で日本に来ている可能性もあるため、行動パターンが似ている、或いは共通の趣味や話題を持っていることにより、共同行動に繋がったと思われる。それに対して日本人との交流が食事に限定されることが多いのは、共に行動することが難しいのではないかと想定される。「始めは誘ってみたけど、後にお互いがやりたいことが違うのに気づき、それから台湾人とよく一緒に行動するようになった」や、「なぜ台湾人がそこまで写真を撮るのと旅行するのが好きなのか理解できないと、交流会などで日本人によく言われ、あまり旅行に興味を示してくれなかったので、最終的に台湾人と出かけることになった」などの意見もあり、お互いの認識や希望が食い違い、WH の趣旨、更に言えば WH 自体が広く認知されていないことでこのような結果に導いたとも言えるだろう。WHM と交流する機会が比較的多い日本人の若者に、WH のことを更に理解してもらえれば、このような事態は多少改善されるのではないだろうか。

それから、その他の活動ともう少し時間があればやりたいことを合わせて見ていきたい。その他の活動について、前述した内容と共に例示したコメントの他に、近隣の商店街やスーパー、ショッピングモールへ日用品の買い物やウインドーショッピングに行くなど、同じくアルバイトや旅行時にできないことが中心となっている。ここから、日本への台湾人 WHM はアルバイトや旅行以外の時間を、このように比較的のんびりと過ごしていたのが窺える。他方、もう少し時間があればやりたいことは何なのかという設問に対する回答を見ると、更に旅行や生活体験したかったが、アルバイトで時間的にも金銭的にも余裕がなかったという傾向が見られる。

## 4.3　情報発信

（1）発信目的、形式及び頻度

前章では活動期間中及び活動終了後にWHに関する情報の発信手段、内容と頻度についてアンケート調査の結果を示し、終了後の内容及び頻度が期間中の内容及び頻度と多少の違いが見られたものの、大まかな傾向は変わっていないことが分かった。では、日本への台湾人WHMは具体的にどのような情報発信行動を取っていたのか、発信の目的や形式などを含めてインタビュー調査で尋ねた。

その結果、発信の目的については、「友達と共有したいため」や「自分の記録として残したいため」との回答が多く、「家族を安心させるため」や「後輩のWHMの参考にしたいため」との意見も少なくない。

形式に関しては、「写真／アルバムに簡潔な説明を書き加える」と「日記」と回答した人が最も多く、それ以外に「写真／アルバム」、「気持ちや感想を文字に綴る」、「行ったところの観光情報」、「チェックイン」などの回答もある。

更に、活動終了後に発信頻度が低くなった人にその理由を尋ねたところ、「帰国後は日本にいた頃より発信できる材料がなくなったため」と述べた人がほとんどであり、「現実に戻されて仕事探しなどをしないといけないことで忙しくなったため」といった理由も挙げられている。

Rさん　「(後輩の) 皆さんがせっかく来たんだから、私みたいに残念に思うことがたくさんあったりしないで、楽しく過ごして欲しいし、無駄な道を歩いたらもったいないと思ったから…」

Yさん　「自分が行ったところを記録に残したいし、美しい景色や感動を友達と共有したかった。そうすることで、そこに行こうと計画している友達に、私に情報を聞いて良いよと、きっかけを作ってあげることにもなるし、みんなに私は元気で無事だということを伝えることにもなると思った。」

Qさん　「当時は旅行やグルメ紀行、気持ちの綴りやバイトの状況などを日記に書いていたけど、今は気持ちを少し書いて台湾の生活に切り替える感じ。バイト情報に関して、当時はどのようにバイトを探していたか、つまり自分の経験談を書いたことがある。旅行情報なら、どこへ遊びに行ったか、どういうイベントなのか、それと交通手段などその場所に関する色んな情報を書いた。住居探しだったら、これから行こうとする友達もいるので、彼らに

自分が住んでいたところを薦めてあげる感じで書いた。」

Nさん　「その時は何か美味しいものや面白いことがあれば写真を貼って数行の簡単な説明を付け加える感じだった。（例えば）自分で作った料理の写真を貼って、自分で作った方が節約になるとか、或いは今日どこへ行って何をしたかなど、旅行に関する情報だったり…感想なら今日バイトで悪質な客に遭ったとか、文字中心のものは家に帰った後に書いていた。写真の場合は撮ってその場ですぐアップロードできるので、チェックインみたいなものだった。活動終了後の住居探し情報だったら、最初はやはり台湾人の多いところを選んだ方が助け合いやすいし、どこで比較的安い買い物ができるとか、誰かが引越しするので、その人の物を引き受けられたり、誰かが台湾に帰るので、バイト先の人手が足りないなどの情報が手に入ることで順調にやっていけると思うので、それをフェイスブックページに書き込んだ。…（中略）活動期間中は何かあれば発信できるけど、活動終了後は何かを思い出したり、誰かに聞かれたりする時にしか…例えば（PTTの投稿や新聞記事で）何かのタイトルを見かけると、自分も去年経験したことがあると思い出し、写真を見つけ出してフェイスブックページに書き込むような感じだった。」

（2）個人フェイスブックページと個人ブログ

アンケート調査の結果によると、WHに関する情報を発信する手段として多く回答されたのは個人フェイスブックページと個人ブログであった。どちらも比較的個人的なインターネット空間だとされる情報媒体である。日本への台湾人WHMはこの二つをどのように使い分けているかについて、どちらにも情報を発信しているインタビューイーに質問したところ、「フェイスブックページは写真と説明という簡潔な内容に対し、ブログは文章などより詳しい内容」が主な違いとして述べられている。また、使い勝手（フェイスブックページの方が便利で使いやすい）や内容の実用性（ブログの方が参考できる情報が求められている）などの意見もある。

Bさん　「ブログは写真が少なくて文字が多い。フェイスブックページは書き込む回数が比較的少なかったし、何かあったらすぐチェックインするようなことはしなかった。写真をアップデートする時はアルバムではなく、近況アップデートのところに写真１枚を貼って簡単な説明を入れる感じだった。」

Cさん　「個人的なものはフェイスブックページに載せていた。フェイスブックページを非公開に設定しているのに対して、ブログにはあまり周りの人が現れない。つまり個人と公開に分

けていて、フェイスブックページは友達しか見れないのに対して、ブログは誰でも見れるようになっているので、公開的で隠密性がない。どちらかというとフェイスブックページをメインにしていた。携帯を使う場合、写真を撮ったらすぐアップデートできるフェイスブックページの方が家に帰らないと文章を書けないブログより便利なので、ほとんどフェイスブックページでやっていた。」

Fさん　「ブログの方が内容が詳しいので、旅行やグルメ紀行などの生活体験を書いていた。フェイスブックページの場合は主に写真に簡単な説明を付け加えるシンプルな感じだった。」

（3）フェイスブックグループとフォーラムサイト

個人フェイスブックページ及び個人ブログへの情報発信はどのようなものなのかを前項の内容を通して把握したが、本項ではフォーラムサイトにフェイスブックグループを加え、それぞれの利用実態を究明したい。そのために、ここでは両者を閲覧しているか、そこに自ら投稿する、または書き込まれた質問に返答するかについて質問した。また、閲覧しているが投稿或いは返答しないと回答した人に対し、その理由を尋ねた。

その結果、ほとんどの人はフェイスブックグループとフォーラムサイトを閲覧しており、自ら投稿することはあまりしないが、書き込まれた質問には返答するとの回答を得た。その理由について、「投稿するには一定の文章力が必要だと思うため」、「自分より詳しい人が既に回答しているため」など、敷居の高さが原因だと感じられる意見が挙げられている。

一方、投稿すると回答した人のコメントを見てみると、発信した情報は基本的に他の WHM が「興味ありそうなこと」や、彼らに「役に立ちそうなこと」であることが分かる。更に、両者の主な利用時期がそれぞれ活動開始前と活動終了後（フォーラムサイト）、活動期間中（フェイスブックグループ）であることも、数名のインタビューイーのコメントから窺える。なお、活動終了後の場合は WH に関連するものから日本旅行全般に関連するものに移行する傾向が見受けられる。

Hさん　「私はあまり（フェイスブックグループやフォーラムサイトで情報を発信）しなかった。自分は文章力がそんなに良くないし、もっとすごい人がそこで回答しているので…友達が個人的に質問してきたら必ず回答するけど、公開的な空間の場合はあまり発言しないようにしていた。何かの間違った情報を言っちゃったりして良くない評価を残したくないし、誰かの気に障りたくもない…少し物怖じするところがあるかもしれない。例えば PTT で発言する時はちゃんと論理的に述べないといけないし、誰かに自分の言ったことが間違って

いると言われても、自分の方が正しいと強く言い返せないし、言い合いにもなっちゃいけないのであまり好きじゃない。何でもストレートにいう性格なので、婉曲的に物事をいうのは私にとって至難の業…なので友達或いは知り合いが個人的に聞いてきたら快く回答するけど、公開的な場だったら責任を感じるので、遠慮して他の人に任せれば良いと思った。」

Jさん　「フォーラムサイトは（日本に）行く前にしか見ていなかった。フェイスブックグループができてからほとんどこちらしか見ないので、そちらは見なくなった。フォーラムサイトは私にとって情報収集のところだし、フェイスブックグループの方が実際のニーズに合う気がした。例えば、バイトや旅行など現地ですぐ使える情報…（中略）など、私達の生活に密着しているものが多かった。フォーラムサイトは終了後の感想文または渡日前の情報の方が多いけど、（規模が）大きすぎて必要な情報を見つけるのに大変だったし、書き込みが多すぎて不便だった。…（中略）（フェイスブックグループには）情報を書き込んだことがあるけど、京都に関するものが多かった。皆さんも京都が観光地だと知っているので、その時は皆さんが興味ありそうなものがあれば書き込んでいた。例えば、皆さんが必ず興味を持ってくれる大規模な祭がある場合、見に来るならどのぐらい前から席取りに来た方が良いとか、暑いのでお水を多めに持って来た方が良いなど、あまり多くないけど書き込みはしていた。そして状況によるけど（書き込まれた）質問には回答していた。特に京都に関する質問の場合、東京と大阪に比べたら情報が少ないので、1年間滞在していたから、後輩の役に立てれば手伝いたいと思った。それから今自分の中ではこれから京都へWHに来たい人向けに何かを書こうという計画を立てている。」

0さん　「フェイスブックグループにはバイトなど（皆さんの役に立ちそうな情報）に関するもののみ発信していたけど、今は（管理人を）やっていないので、あまり書き込まないようになった。基本的に皆さんの投稿を見ているだけ…（それとは別に自分でまた作った）フェイスブックページには皆さんが興味ありそうなもの、またはあまり知らないことを書き込んでいる。今でもやり続けているけど、まだ整理できていないものがたくさんあるので、これから少しずつやっていきたい。…（中略）（今フェイスブックグループに書き込まれた）質問には基本的に回答しないけど、個人的に質問されたら回答する。今は皆さんの投稿を見るだけで管理はしていない…人が多すぎたので…」

（4）周囲への影響

日本への台湾人 WHM は各々の手段を通してそれぞれ違う内容、形式と頻度で WH に関する情報を発信していることは前章及び本節の前述各項を通して分かった。しかし、このような行動は彼らの周囲の人々に影響を与えたのか、与えたとしたらその影響はどのようものなのかについてはまだ明らかにされていない。それを解明するために、インタビュー調査では自分が発信した情報に対して周囲はどういう反応を取ったか、またその情報は周囲に影響を与えたと思うかについて質問した。

その結果、「それを見ただけで行こうとまでは思わない」との回答を得た一方、「自分自身の WH に対する考え方や旅行に関する詳細を質問するきっかけとなった」、「次回の旅行の参考になっている」や「理解を深めて印象が良くなった」など、間接的に日本へ旅行や WH に行く可能性と、日本に対する好意を高めたと感じられる回答をも得た。

B さん　「（周りの人は）私にメッセージで『日本へ WH に行きたいけど、どう申請すれば良い？』或いは『日本へ旅行に行きたいけど、どこが良い／安い？』などを聞いてくるので、答えたり調べてあげたりするし、大多数の人は（日本に対する）印象が（以前より）更に良くなった気がする。基本的に自分と共に深く日本を見てきたので、昔のように旅行の段階にだけ止まることはない。例えば、（私が）バイトに関することや日本にいる気持ちなどを書いたついでに、自分の目から見た日本はどういう国なのかを書いたら、周りの人がそれを読んでなるほどと思ってくれたりするので、単純な旅行と違う気持ちになると思う。」

S さん　「日本へ WH に行きたい人だったら、実際そこで私と接したことのある人達で、それがきっかけとなって WH の存在を知って良いと思い始めたようだ。個人フェイスブックページの場合は元からの友達で、私が日本にいると知って元々日本にも興味があるので、私に会いに行こう、または皆で遊びに行こうと考えてくれたのだと思う。或いは（私が投稿したものを見て）きれいだと思って行きたいと思ったら、次回行く時に行こうと思ってくれる。例えば桜だったら、私が東北へ見に行ったのを見て、初めて東北のどこどこの桜もきれいだと知って、次回桜の季節で日本に行く時はそこを行き先の候補リストに入れると、コメントをしてくれたこともある。それからもう一つあるのは、私が元々誰々が何が好きだと知っているので、たまたまそれを見かけたら、撮った写真を載せて彼女をタグ付けして、『こういうものがあるよ～見に来たら？』とコメントを入れたこともある。」

V さん　「あるところに行って景色がきれいだったら（写真を見た）周りの人はそこはどこなのか

を知りたがるし、おいしいものを食べたらそれがいくらなのか、限定なのかどうかなどを聞いてくる。…（中略）彼らが旅行を考える際の参考になっていると思う。」

（5）情報発信への考察

本節は、日本への台湾人 WHM の WH に関する情報の発信行動の実態をインタビュー調査を通して深く追究し、その全体像を掴めた。情報発信の目的において最も多く回答されたのが「友達と共有したいため」、それに「自分の記録として残したいため」、「家族を安心させるため」と「後輩の WHM の参考にして欲しいため」との回答が続いている。「自分の記録として残したいため」を除き、全て周囲に向けるものであることから、彼らは自分が WH 経験を通して何らかの影響を受けただけでなく、周囲の人にも情報発信を通して影響を与えている可能性が潜んでいると言っても過言ではないだろう。

更に情報発信の形式について見てみると、様々な回答があるが、基本的にアンケート調査で得た結果で上位になっている写真、気持ちと感想の 3 種類、及びそれらに次ぐ日記と旅行情報を逸脱することはない。また、活動終了後に発信する頻度が低くなった理由について、WH の状態から離れて帰国後の現実に直面するという、環境及び心境的な変化によるものだと思われる。

続いて日本への台湾人 WHM が情報発信によく利用する手段である個人ブログと個人フェイスブックページに対する考察を述べたい。前述した情報発信の形式をインタビューイーがコメントで述べた両者の相違点と合わせて見ると、個人フェイスブックページの方は写真に簡潔な説明をつける形式やチェックインなど、気楽に投稿できる仕組みとなっている。

それに対してブログは文章となっている日記形式である場合が多く、投稿するのにかなりの時間を要する。このような違いに加え、個人フェイスブックページはある程度限定された人しか閲覧できないのに対し、個人ブログの方は基本的に制限されていない。

以上の特性により、情報発信する手段として、個人ブログより個人フェイスブックページの方が利用されることになったのではないかと思われる。また、内容がまとまっている、且つインターネットで検索すれば誰でも閲覧できるという個人ブログの特性から、渡日前の情報獲得手段において 3 位にランクインした結果も理解し難くないだろう。

他方、個人フェイスブックページで発信された情報はシンプルであり、閲覧できるのも比較的親しい人に限定されているため、情報発信には利用されるが、情報収集に利用されるのは難しいのではないかと考えられる。

次に個人ブログと個人フェイスブックページと対照になるフォーラムサイトとフェイスブックグループの考察に入りたい。アンケート調査の結果においてこの両者は情報発信手段より情報獲得手段とされるが、実際多くのインタビューイーが書き込まれた質問に返答するとコメントしたように、閲覧して情報を獲得する以外に発信もしているが自発的ではなく、受動的であると言えよう。このような受動的な情報発信者の他に、少数派ではあるが、自ら投稿する自発的な情報発信者も存在している。そしてその影響を受けているのは、自分と同様に WH に高い関心を持っている人達であり、実生活における親戚友人ではないと想定される。

一方、閲覧だけに止まって投稿しない人もいるが、その理由に、論理性や文章力が必要とされるフェイスブックグループやフォーラムサイトへの投稿に敷居の高さを感じ、個人フェイスブックページなどのように気楽にできないという意見が目立っている。ここからも、WH に関する情報発信はなぜ個人フェイスブックページが主な手段とされるかが分かる。

上記の他に、情報獲得手段としてフォーラムサイトとフェイスブックグループを見る際にその相違点が見えてくる。前者は WH をトピックとしたフォーラムより、世界各地への個人旅行をトピックとしたフォーラムの方が多く、後者は WH に特定したグループである。また、数名のインタビューイーのコメントから、前者は事前情報文や事後感想文などを中心とするのに対し、後者は期間中にも利用できる情報を多く載せている。そのため、渡日前の情報獲得手段として、完成度の高い文章が豊富なフォーラムサイトが多く利用されるが、活動期間中となると、リアルタイム且つ実用性の高い情報が多く載せられているフェイスブックグループの方が重宝される。そして活動終了後は、フォーラムサイトに個人旅行をトピックとしたフォーラムがあることにより、そこに移行する傾向も見られる。

最後に発信した情報はどのように周囲の人に影響を与えているかを見ていきたい。インタビュー調査の結果を見ると、周囲の人は発信された情報を見ただけで日本へ WH や旅行に行きたくなるといった直接的な影響があるとは断言できないが、日本への好意や理解が高められた、或いは次回の旅行の参考にしたなどの意見から、間接的な影響があると言えよう。それに加え、WH や旅行に行こうとする際に、情報発信源である日本への台湾人 WHM の元へ意見やアドバイスを求めに来る傾向も見られる。これが情報獲得手段で「親戚友人」が 2 位にランクインした理由になるのではないかと思われる。

このように、発信された情報はそれだけで大きな影響力を持つわけではなく、周囲の人に日本のことを更に深く認識してもらい、彼らが今後これまでと違う日本を旅行し始めるきっ

かけとなっているのではないかと考えられる。つまり、日本の観光関連事業に携わっている行政や民間事業者が行っているプロモーション活動を、日本への台湾人 WHM が自発的に且つ無償で行ってくれているとも言えよう。

### 4.4　感想及び意見

（1）満足度

前章のアンケート調査結果において満足度でプラス評価（満足した、まあまあ満足した）に当たる回答が 9 割以上を占め、それ以外（普通、あまり満足しなかった）の回答が 1 割にも及ばない結果となったが、実際日本への台湾人 WHM は自分の WH 経験に対してどのように評価しているかを具体的に把握するために、インタビュー調査で日本での 1 年は自分の期待に合ったものだったのかについて質問した。また、その経験の中から最も得たものは何なのかについても尋ねたところ、アンケート調査でプラス評価の回答をしたインタビューイーの評価理由及び収穫については、「旅行で多くのところに行けた」、「友達が多くできた」の他に、「日本語が上達した」、「日本への理解を深められた」、「視野を広げられた」、「より自立した」などの意見が挙げられている。反対に、多少の例外はあるものの、アンケート調査でプラス評価以外の回答をしたインタビューイーの方に、「あまり多くのところへ旅行に行けなかった」、「やり直せるなら更によく過ごせる」など、自分の WH 経験に物足りなさを感じているというようなコメントが見受けられる。

K さん　「元々1 年間でできるだけ多くの建築を見たいと思っていたので、それが達成できて満足した。そして収穫と言えば、住んでいたゲストハウスに日本人はもちろん、色んな国から来た人達が多いので、交流していくうちに国際観が養われたと思う。」

W さん　「より自立して生活できるようになったし、好きなだけライブを見に行って、そのついでに旅行もするという目標も達成できたので、当初自分が望んでいた過ごし方に合っていると思う。」

H さん　「大変だったことも楽しかったこともあるので、（満足度は）普通だと思う。…（中略）その時は目標を定めるべきだと思って 1 級を取りたいと言い出したけど、最後は達成できて嬉しかった。しかし、最初は色んなところを転々と回りたかったけど、行ったら 1 年間のビザは日本人から見ると非常に短いということを知って…（中略）なので多くのお店は WHM を雇ってくれないし、WH ビザは何なのか、バイトできるかも知らないお店もあった。1 年

でさえ難しいから、基本的にビザの有効期限が半年を切ったら、雇ってくれるお店はほとんどないに等しいので、最後は大阪と長野の2箇所にしか行けなかった。…（中略）居酒屋でのバイト経験は良かったと思う。ドリンクやサラダ、揚げ物などの料理作りをたくさん学べたし、炒め物は学べなかったけどだいたい把握できた。ドリンクは100種類もあるところはとにかく面白かった。」

Iさん　「だいたいは（期待に）合っていると思うけど、旅行でたくさんのところへ行けなかったのは残念だった。行けなかったのはやはりお金が足りないからだと思う。休暇はかなり多かったけど、お金が無いので…お金があれば、行ったことのない東北に行ってみたかった。…（中略）（最も得たものは）色んな人に出会えたことかな…しかも一人一人違う経歴を持っていて、彼らの経験談は私の帰国後の就職にも役立つような気がする。それにWHに行った人達はポジティブな考え方の持ち主がほとんどなので、その影響を受けて自分も以前より前向きになったと思う。」

Lさん　「(あまり満足しなかったことは）311大震災に遭った影響が大きかった。それとオーストラリアから帰ってきた直後に行ったので、大自然とゆったりした生活スタイルに慣れちゃったことで、申請時に（日本に行ったら）ライブを見に行こうとワクワクしていた気持ちがなくなったし、どうしても比べちゃうのでなかなか日本の生活に溶け込めなかった。今思い返すとせっかくのチャンスなのに楽しめなかったのは残念だったと思う。」

Rさん　「最大の収穫は以前より自立して大人になったことかな…海外で暮らし始めると、今まで気付かなかった台湾の良さが見えてきて、視野も広げられたと思う。…（中略）（自分の期待に）合わなかったけど、面白いのは今まだここにいるので、逆に今の暮らし方の方が当初私が考えていたWHのあるべき姿だと思う。…（中略）当初は1ヶ月バイトして旅行に出かけ、また1ヶ月バイトして旅行に出かけるというやり方の繰り返しと計画していたけど…（中略）当初は正式な社員みたいな働き方だったので、時間的に余裕がなくて旅行に出かけることがなかなかできなかった。派遣会社の存在を知っていれば、自分で時間を調節できたはずなので、残念だった。」

（2）日本／日本人への印象

日本または日本人に対する印象について、アンケート調査の結果では、変わっていない、良くなった、悪くなったの順で回答者数が多い結果となっている。その理由を考察するために、元々の印象はどのようなものだったのかを究明する必要がある。ここではインタビュー

調査を通してその元々の印象と、それに変化が生じた、或いは変化がない理由は何なのかを追究した。インタビュー調査の結果、元々の印象については「礼儀正しい」、「親切」、「控えめ」などのキーワードが多く挙げられている他、「曖昧」、「慎重」、「制度やルールに厳しい」、「裏表ある」、「個人より団体」などの意見もあり、悪い印象より良い印象の方が多い傾向が見られる。

続いて、元々の印象に変化が生じた、或いは変化がない理由について、アンケート調査の結果とそれほど変わらない結果となった。良くなった理由として「親切な人に出会って教わったことが多かった」など、現地で出会った日本人が親切であることで印象が良くなったと考えられるものが多い。反対に、悪くなった理由に関して「想像していたより制度やルールに緩い」など、アルバイトなどで元々の印象と違う面を見たことで印象が悪くなったと思われるものが中心となっている。そして変わっていない理由について、「元々印象が良かった」、「良い人も悪い人もいるのは当たり前のこと」など、プラス評価のままの意見もありながら、客観的に全体を見る意見も少なくない。

A さん　「アルバイトし始めると、日本人は想像していたほど制度に厳しくないことに気づいた。例えば指示がはっきりしていなくて、何をして欲しいか分からないとか、台湾人の場合は何をして欲しいかをストレートに言うけど、日本人の場合は色々喋ったけど、明確な指示がないという感じ。私達の先入観の中で、日本はきちんとした制度を持っている国のイメージが強いけど、それはあくまでも思い込みであって、もちろんそうした会社もあるかもしれないけど、たまたま私が行ったところはそうじゃなかったので、行って印象が悪くなったと思った。…（中略）旅行の場合は東京や大阪などの大都市に行くので、礼儀正しい一面ばかり見てきて、どこに行っても秩序があると思っていたけど、田舎に行ったらそうじゃないと気づいて、たまに適当な生活を送ったりするので、元々の先入観と違うイメージ。…（中略）（日本語を）勉強してきた中で、或いはテレビを見て、または私自身が WH までの旅行経験において、日本はきちんとした秩序と制度のある国だという風に教わったり、報道されたり、感じたりするけど、実際バイトしに行ったらそうじゃないと気づいて…（ただそれは）私が経験したことに過ぎないので、制度のあるところを体験したことがないだけかもしれない。」

E さん　「昔から旅行に行く度に良い人にばかり出会ってきたので、…（中略）日本人は冷たくて（いくらスーツケースが重たくても）持っているのを傍で見ているだけで相手にしてくれ

ないとよく言われるけど、私はいつも良い人に出会ってきた。（電車に乗り間違えた時、空港まで案内してくれた）お爺さんは私に『どこから来たの？』と聞いてきて、私が台湾だと言ったら『台湾に行ったことがあるし、大好きだよ』と言って片言の中国語を喋ってくれたりして、とにかく印象はずっと良かった。」

Kさん　「元々良い人も悪い人も、良い点も悪い点もあるので、印象は変わっていないと思う。」

Vさん　「日本で何人かの年配の方に出会って、日本語だけじゃなく、日本の色んな考え方などを教えてくれた。それで得たものが多かったし、しかもポジティブなエネルギーだと感じた。最初は日本人は不誠実だというイメージだったけど、行ってみたら人によるんだと思えるようになった。それに私に親切に接してくれたり、色々教えてくれたりする人にたくさん出会ったので、印象が良くなった。」

（3）日本への再訪意欲及び親戚友人への推薦意向

アンケート調査ではWHへの満足度及び日本または日本人への印象が変化したかどうかに係わらず、日本への台湾人WHMは全員日本を再訪したい、そして3名を除いて全て周りの親戚友人に形式を問わず日本に行くことを推薦する意向があるとの結果を得た。

では、実際彼らの日本への旅行行動に変化は生じたか、生じた場合はどのような変化なのか。それを明らかにするために、インタビュー調査ではWHに行く前と行った後の日本旅行経験について尋ねた。また、周りの親戚友人への推薦意向及びその理由に関し、アンケート調査で概ね把握できたため、ここでは推薦しないと回答したインタビューイーに焦点を当て、理由への更なる説明を求めた。

インタビュー調査の結果、日本への旅行行動において、帰国したばかりの人を中心にまだ再訪していない人も何人かいるが、ほとんどの人は既に1回以上再訪していた。そしてWHに行く前に日本に行ったことがなかった人は、WHに行った後に再訪するようになり、WHに行く前に既に1回以上の訪日経験があった人は、WHに行った後に、訪日回数や期間或いは深さが増した傾向が見られる。なお、まだ再訪していない人に関して「今後WHで行けなかったところに行きたい」とのコメントが最も多く見られる。一方、周りの親戚友人に形式を問わず日本に行くことを推薦しないと回答したインタビューイーに詳細を尋ねたところ、「一人一人の状況が違うため」、「旅行とWHとは違うものだから」との結果を得た。

Dさん　「正直に言うと、（WHに）行く前は1年に1回のペースだったけど、行った後は今年6月に社員旅行で北海道、そして8月に出張で沖縄に行ったのを入れて全部で4回…ちょっと

行きすぎな気がする。…（中略）これは恐ろしい現象だと思う。（その理由として日本へ旅行に行くのは）もう怖くないと思えるようになったのがあって、昔なら時間をかけて計画を立てようと思ったりするけど、今は北海道はもちろん、行ったことのあるところであれば計画しなくても良いと思っちゃう。（昔より）もっと行きたくなったし、北海道を第二の故郷と思っているので、きっと来年もまた行きたくなるだろう。今のところは 2～3 ヶ月に 1 回のペースで日本に行っているけど、周りの人に頭がおかしいんじゃないかと思われているけど、9 月に一度行って、近くまた行くかもしれない。つまり行く頻度とかけたお金からすると、1 年間行ったから少し（行きたい気持ちが）収まるだろうと思っていたけど、そんなことはなくて、逆にもっと行きたくなった。」

O さん　「（WH から帰って来た後、）3 ヶ月間自転車で日本を横断する旅に行った。…（中略）これからオーストラリア（へ WH）に行く予定なので、次回（日本に）行くのは 1 年後になると思うけど、行くとしたらもちろんツアーじゃなくて個人旅行で行くし、ただ次回はまず今回（3 ヶ月間の自転車）横断の旅で行けなかった九州を終わらせたいと思う。他だったら自分の知っている或いは比較的興味のあるところにまた行きたい。」

P さん　「8 月初旬に WH が終わって、9 月中旬に 16 日間の個人旅行で来たことがある。今回（ボラバイト）が終わったら暫く（仕事探しで日本に）来ることはないと思うけど、少なくとも 1 年に 1 回のペースで旅行で来たい。」

W さん　「（WH に行く前は日本に行ったことがなかったけど、）行った後は個人旅行で 2 回行った。これからも頻繁に行くと思う。」

Y さん　「これからの計画として WH で行けなかった都道府県を全部回りたいと思っている。」

I さん　「私の今までの経験とその人のこれからの経験はきっと違うので、私が何かのやり方をオススメすると言ったら、その人が自分でやってみてそうじゃないとなった時に、余計悪い印象を与えちゃうと思う（から、推薦しないと選んだ）。」

Z さん　「（旅行は薦めるけど、WH は薦めないと答えたのは、）単純な旅行と WH とでは心構えが違うからだ。後者の場合は日本の職場に入ることなので、自分の中で上手く調整していこうという心の準備がなければ、あまりオススメできない（と思って推薦しないと選んだ）。」

（4）大変だったこと及びあれば良いと思うこと

大変だったこと及びあれば良いと思うことについて、アンケート調査で既に開放型質問で自由に記入してもらったが、その内容について更に具体的に把握するため、インタビュー調

査で困難や不便に思うこと及び改善できることと合わせて再度質問した。

その結果、アンケート調査で得た回答と概ね同様な傾向が見られた。困難や不便に思うことで多く挙げられているのは、「WH に対する認知度が低いため、アルバイトを探すのに大変だった」、「住居探しの際に敷金や礼金、仲介手数料や保証人、更に契約期間制限など、規定がありすぎた」、「手続きなどが繁雑で矛盾し合うものも多数あった」、「日本語を流暢に喋れないので、コミュニケーションするのに大変だった」や「日本人と友達になるのが難しい」などである。それに対して改善できることで多数の意見として、「アルバイトや住居に関する情報提供」、「携帯などの 1 年プラン」、「WHM 向けインフォメーションセンター」、「お得な乗車券などの提供販売」、「WH に対する認知度の向上」や「セカンドビザ」などが挙げられている。

E さん　「自分の国じゃないから困難は避けられない。言葉だって困難であって、日本で旅行する時はお客様だから親切に接してもらえるけど、従業員となると何かのミスを犯しちゃったら、上司は親切に接してくれない。ただ時々不本意でそうなっちゃって、どう釈明しても理解してもらえない時は落ち込む…これが一つ。それと日本で住居を探す際は敷金や保証人など色々面倒なことがあるので、その時はゲストハウスの方が良いんじゃないかと考えていた。ゲストハウスなら保証人が要らないし、外国人の場合は 1 年か何ヶ月だけ契約しても良いし、日本の一般賃貸住宅のように 2 年契約じゃないとダメというのもない。保証人がいなくても 2 年貸してくれる人はいないだろうし、この 2 点は台湾と違うところ。」

H さん　「ちょっと溶け込みづらいところがある。…（中略）性格が違うことも関係あると思う。日本の若い女性は洋服などを買うのが好きだけど、私は似たような洋服を着ないし、（彼女達は）髪が長くて髪飾りが要ったり化粧とかもするけど、私はそうしないので、共通の話題があまりなかった。それに私は別にアイドルが好きなわけでもないので、いつも趣味や最近何をしているかなどの話をするだけで、あまり深く付き合えなかった。」

N さん　「口座を作るのに携帯が要るけど、口座がなければ携帯を買えない。口座を作って 2 週間でやっとキャッシュカードがもらえるけど、半年経たないと振り込みができないし、バイトのためでも直接振り込めない。その時は外国人登録証を作らないといけないけど、もらうまで 1 ヶ月もかかっちゃった。北海道に移動したら、大阪で転出届を出せなかったせいで、時間かけて郵送で申請することになっちゃったけど、北海道では 1 ヶ月しか滞在しなかったので、転入証明がないまま東京に移動して、その後もずっと転入せずにいた。」

Dさん　「日本へ体験に行くので、何でも合わせてくれるなら本来の意味がなくなるけど、外国人だから始めは住居探しや税金など、日本人でさえ理解し切れていない複雑なことを処理しないといけない。WHMを受け入れた以上、どこにもあるとは要求しないけど、私達以外に韓国とかの国からも来ているので、関連の質問などに対応できる専門の機関を設けたり、対応策を考えた方が彼ら自身のためにもなると思う。」

Pさん　「携帯やインターネット、賃貸住宅の2年契約などの問題は解決する必要があると思う。お金があれば何でも解決できると言われているけど、お金をそれほど持って行かなかった人もいるし、…（中略）（1年の滞在期限が迫ってきたら携帯を）譲渡しないといけないけど、帰国前は色んなことがありすぎて、これをしたらあれを忘れるなど、とにかく面倒くさかった。（携帯を）解約して他の人に譲渡したりするけど、今私が遭った問題は（当時）他の人から携帯を受け継いで、その人の携帯契約は10月までだったけど、私のWHビザは8月まで有効だったので、帰国した時点で在留カードに穴を開けられた。日本の規定に従ってもうすぐで2年になるこの時期に解約に行くべきだと思って、数日前ショップに行ったけど、解約したいと言ったら在留カードを見せてくださいと言われて、（見せたら）穴が開けられていたから（無効になって）解約できないと言われた。…（中略）日本のルールに従うべきだと思って色々やったら余計面倒なことになっちゃった。」

Uさん　「アルバイト情報を提供して欲しい。それと日本の民間はまだWHという制度を理解できていないので、不動産業者を通して住居を探していた時に、この（特定活動）ビザでは契約できないと言われて、結局一緒に住む友達（留学ビザ所持）の名前で契約することになっちゃった。なので、もう少しWHという制度を宣伝してくれたり、或いは住居情報を提供してくれた方が、これから行く人達の役に立つと思う。」

（5）感想及び意見への考察

本節では日本への台湾人WHMに自分のWH経験を振り返ってもらい、全体に対する感想や意見を述べてもらった結果をまとめた。WHへの満足度について、アンケート調査でプラス評価と回答したインタビューイーのコメントを見てみると、WHへの期待や目標、そしてWHに参加した理由と一致していることが分かる。すなわち、当初日本へWHに行くと決定した理由と、渡日前に抱く期待や目標に近い体験をしていればいるほど満足度が高いと考えられる。反対に、アンケート調査で普通またはマイナス評価と回答したインタビューイーは、自分のWH経験に何らかの物足りなさを感じている。その中でも特に旅行や生活に不満足に思

っていることから、ワーキングよりホリデー重視の志向が再び確認されたと言えよう。

次に、日本または日本人に対する印象について考察していきたい。日本への台湾人 WHM が WH に行く前に日本人に抱く印象をキーワードで示したが、マイナス評価よりプラス評価の方が多く、「礼儀正しい」や「親切」など主なものは日本人自身が自覚している性格（長所）[50]と一致していることが分かる。WH に行った後の変化について、良くなった人は親切に接してくれた人に出会い、それによって印象がより一層良くなったというパターンが多い。その反面、悪くなった人は自らの経験の中で、元々の印象と違った一面を見たことによって印象が悪くなったが、それでも高い再訪意欲を示している。これは、「そこまで悪くなったとも言えず、90 点から 85 点になった程度」という、インタビューイーのコメントに表現されたように、先入観と違った印象を受けただけであり、嫌になったわけではないという意味で捉えて良いだろう。他方、変わっていない人は好印象のままでいる人以外に、客観的に全体を見る人もいると述べたが、後者には元々曖昧なイメージしかなかったが、WH によって日本または日本人を深く認識でき、印象は変わったが良し悪しをつけられないという人も含まれている。

続いて再訪意欲及び推薦意向を見てみよう。再訪意欲に関してアンケート調査では「意識」を調査したが、本章のインタビュー調査では「実際の行動」を明らかにした。インタビューイーのほとんどは帰国後既に 1 回以上日本を再訪したことがあり、その回数や期間或いは深さが WH に行く前より増したとの結果を得たことから、WH 経験によって彼らの日本への愛着が深められたと思われる。つまり、WH は日本のディープなファン作りの手段の一種だとも言えよう。他方、周りの親戚友人への推薦意向について、ここでは推薦しない理由に注目して追究したが、インタビューイーのコメントからすると、印象が悪くなったために推薦しないというわけではないことが分かった。なお、前章でも言及したが、推薦する理由としても、推薦しない理由としても「旅行は推薦するが WH は推薦しない」との意見があることから、日本は旅行には相応しいが仕事に厳しい国だというイメージが見られるだろう。

最後に、大変だったこと及びあれば良いことについて、インタビュー調査ではアンケート調査と概ね同様の傾向の結果が得られた。日本への台湾人 WHM が主に困難に感じたことは、前章でまとめた「アルバイト探し」、「住居探し」、「手続き及び規定」、「日本語及び人間関係」の四つのカテゴリーであることが再び確認された。それに対して主に改善して欲しいことも、基本的にこれらに対応する内容となっている。それに加え、WH 全体に係わる認知度とセカ

[50] 統計数理研究所（2008）日本人の国民性調査（download at 2013.12.17）による。

ンドビザ、そして活動期間中の観光行動に影響を与えると思われるお得な乗車券などが挙げられている。前述したように、満足度で普通またはマイナス評価の理由として旅行や生活に不足を感じていることがあることから、これらの困難を改善できるようなサポート体制を構築できれば、満足度が上がり、更なるファン作りに繋がるのではないかと思われる。

### 4.5　まとめ

本章は、アンケート調査の補足として行ったインタビュー調査の結果、及びそれに対する考察を、WH に対する考え、ワーキングとホリデー、情報発信及び意見感想の 4 パートに分けて述べた。

WH に対する考えにおいては、日本への台湾人 WHM が WH を選択して日本に行ったきっかけ及び理由、WH に対する期待や目標、WH と観光旅行との違いや行き先の選定理由など、それぞれに対する考え方を考察した。

そのまとめとして、彼らは以前から日本に興味を持っていたが、経済的理由によって理解を深める機会がなく、30 歳までに人生の転換期を機に、敷居が比較的低い WH を利用して日本に行き、日本語の学習、生活や各種文化の体験、旅行などを主な期待や目標とし、観光だけでは体験できない生活感を味わいながら暮らしていたことが分かった。居住地を選定した理由についてのまとめとしては、大阪は暮らしやすさと観光に便利である点、東京は首都だからこその情報量の豊富さとにぎやかさ、北海道は自然、京都は文化、それ以外の都道府県はそれほど明確な理由がないという結果となった。

次にワーキング（＝アルバイト）とホリデー（＝旅行とその他の活動）を合わせて見ていきたい。まずアルバイトに関して、アルバイト先として多いのはホテルや飲食店、倉庫や工場など体力が必要とされるところが多い。期間中に取れる休暇日数については 1 週間に 1 日～2 日或いは 1 ヶ月に 8 日～9 日のシフト自己申告制の場合が多く、自由に利用できる時間は限られている。

ホリデーに当たる部分は旅行と交流活動、その他に分けて考察を行う。旅行形態では旅行時期によって体験型と分散型、短期集中型、集中型の 4 種類に分けられる。更に、個人行動が多く、インターネットやガイドブック、パンフレットを通して情報を収集し、自分で計画する傾向が強い行動特性も見られる。

交流活動において見られる傾向として、日本への台湾人 WHM は主にシェアハウスやゲストハウス、インターネット空間を通して台湾人と知り合い、アルバイトや交流会、ボランティ

ア教室を通して日本人と知り合ったのが見られる。また、日本人との交流より台湾人との交流の方が深く、台湾人とは旅行などで共同行動が多いのに対し、日本人とは食事会などに止まるのがほとんどである。一方、その他の活動について、アルバイトや旅行、交流活動以外の時間は趣味や日常生活に必要な買い物などに充てることが多いが、一般の観光旅行との相違点はここから窺えると言えよう。

続いて WH に関する情報の発信に対する考察に入りたい。日本への台湾人 WHM は WH 経験を個人記録として残したい他、周囲と共有したいことも重要な目的の一つであるため、WHM の周囲に与える影響という点では、この情報発信行動で最も顕著に現れていると考えられる。情報の発信目的の他に発信の形式を見てみると、アンケート調査で得た発信手段や発信内容の結果と一致していることが分かる。他方、活動期間中より活動終了後に発信頻度が低くなった理由について、WH という非日常の体験から本来の生活という日常に戻ったことにより、発信できる内容も余裕もなくなったと理解して良いだろう。

WH に関する情報を発信する手段として多用されているのは、個人フェイスブックページと個人ブログだが、両者の主な違いは一般に公開される度合いと投稿される形式である。個人フェイスブックページは公開度が低く、投稿形式はシンプルであるのに対し、個人ブログは公開度が高く、投稿形式は比較的緻密である。このような特性により、前者は情報発信手段にのみ多用され、後者はそれと並行し、情報獲得手段としても利用されると思われる。

上記に対し、情報獲得手段として多用されるフォーラムサイトとフェイスブックグループを見てみよう。インタビュー調査の結果、日本への台湾人 WHM は両者において積極的に発信するのではなく、受動的に発信していることが分かる。また、その影響を受けたのは WH に高い関心を持っている人達であり、個人フェイスブックページや個人ブログの影響範囲より限定されている。そしてこの両者に発信しない理由について、不特定多数と情報や感想などを共有することに違和感または不安を感じるという意見が主である。

一方、情報獲得手段として両者を見比べる際に、掲載内容や利用時期に違いが見えてくる。フォーラムサイトは個人旅行に関するものも含まれ、感想文や情報文が多く、活動開始前と活動終了後に多用されているのに対し、フェイスブックグループはリアルタイムの情報が多く、活動期間中に重宝されていることが分かる。

そして発信された情報はどのように周囲に影響を与えたかについて、インタビュー調査で得たコメントからすると、それだけでは直接的な影響力がないが、日本に WH に行かせる、またはこれまで行ったことのないところへ旅行に行かせる、文化などに更に興味を持たせる

きっかけにはなる。つまり、間接的に影響を与えていると言える。

最後に、WHを振り返って見る際の意見及び感想に対して考察を行う。満足度においてはWHで日本に行くと決めた理由及び期待や目標に合致すればするほど高い満足度が得られる傾向が見られる。なお、満足度がそれほど高くない理由として旅行や生活に何らかの不足を感じていることが挙げられている。

満足度の他に、日本及び日本人に対する印象を見てみると、変わっていないとの回答が最も多く、その理由としてプラス評価のまま、或いは客観的に全体を見て良し悪しをつけない意見が多い。次に多いのは良くなったとの回答だが、親切に接してくれた人に出会ったのが主な理由となっている。そして悪くなったとの回答について、元々の印象と違ったという意味合いで捉えた方が、回答者の本意に近いと思われる。

WHへの満足度と日本または日本人への印象と別に、日本への台湾人WHMは再訪意欲及び推薦意向において日本への好意を示している。再訪意欲については意識だけではなく、実際の行動にも出ており、WHに行く前より回数や期間或いは深さが増している傾向が見られ、WH経験を通して、より積極的なリピーターになったWHMの姿が窺える。推薦意向について、推薦しないとの回答もあるが、その理由を深く追究したところ、中立の立場に近い、或いは旅行だけ推薦するとのコメントを得たため、全体的に彼らはやはり日本に対して好意を持っていると言えよう。また同時に、日本でのワーキングに関しては厳しい現実認識が窺える。

WHで大変だったこと及びあれば良いことについて、アンケート調査と同様にアルバイト探しや住居探し、手続き及び規定、日本語及び人間関係の四つのカテゴリーに関する意見が出ている。それに加え、WHに対する日本の中での認知度の向上やセカンドビザの発給などの意見も挙げられているが、日本の生活や文化などを体験しながら、日本の魅力を発信してもらうために、どのようなサポート体制が要るかを考慮し、それに対応していく必要があると思われる。

前章のアンケート調査に引き続き、本章ではインタビュー調査を通して日本への台湾人WHMの考え方や行動などを更に深く追究したが、次章では本研究の研究目的に従い、全体のまとめ及び提言を中心に述べていきたい。

# 5　おわりに

## 5.1　結論

本論文は、WH の観光的側面に焦点を当て、WHM を観光客、生活者、エバンジェリストとして捉え、彼らが長期滞在及びそれに関する情報の発信を通して、潜在的な観光的価値を発揮しているという仮説を踏まえ、日本での活動中に起こした観光行動や消費行動のパターン、活動期間中と活動終了後に WH に関する情報をどのように発信し、それが周囲にどのような影響を与えたかを検証した。

第 2 章では、WH に関する国内外の先行研究と関連資料を収集整理し、これまでの研究の傾向を掴んだ上で、台湾における WH、特に日本への WH の現状を把握した。考察の結果、これまでの研究は、労働の側面に近い視点（就業への影響や現地での就労実態など)、または WHM の心理面（参加動機、体験内容、異文化適応、性格特性、満足度や自己成長など）を中心とした研究が大半を占めていることが分かった。最近の台湾での動きに関しては、WH は国際交流政策の一環として政府によって推進され、メディアに取り上げられたことによって更に注目されるようになり、加えて日本に対して親近感を抱いていることから、台湾から日本への WH を含め、WH の台湾における人気が上昇していることも知った。

第 3 章では、インターネットアンケート調査を実施し、その結果及びそれに対する考察について述べ、日本への台湾人 WHM の基本特性や行動などの大枠を把握した。その結果として、まず基本特性については、日本への台湾人 WHM は 20 代後半の女性が多く、大阪や東京、北海道を主な居住地として 1 年間滞在する傾向があり、基本的に他国への WH 経験または予定がなく、日本語の学習や日本での生活／自然／文化体験を目的に渡日したのが分かった。次に活動開始前の事前準備について、準備した資金は 20 万～30 万円に抑え、主な情報獲得手段はフォーラムサイトやブログ、親戚友人であり、航空券の購入や住居／アルバイト探しは自力で解決し、語学学校にはほとんど通わなかったとの結果を得た。

続いて活動期間中の各種行動について、アルバイトに関しては、9 ヶ月～11 ヶ月に亘って 1 ヶ月 100 時間～120 時間以上勤務するアルバイトに就き、10 万～12 万円の収入を得て 8 万～10 万円を生活費用に充て、そのうち 6 割が固定支出で 4 割が自由運用資金であるのが一般的であった。旅行や集会活動に関しては、旅行は 1 ヶ月に 2 日～4 日の頻度で 1 年間で 6 個～10 個の都道府県を訪れ、集会はレストランと居酒屋を中心に 1 週間に 1 回～1 ヶ月に 1 回の頻度で行われたのが平均であった。情報発信行動に関しては、9 割以上が WH に関する

情報を個人フェイスブックページと個人ブログを通して、2 日～3 日に 1 回の頻度で写真や気持ち、感想を発信していたことを判明した。

また、活動終了後の行動や感想、意見について、情報発信行動に関しては、6 割以上が引き続き WH に関する情報を個人フェイスブックページと個人ブログを通して、1 ヶ月に 1 回の頻度で写真や感想、気持ちを発信していたことが確認できた。感想や意見に関しては、全体的に満足度が高く、日本或いは日本人に対する印象に一部変化があるものの、日本への再訪意欲及び周囲への推薦意向は依然として高いとの結果を得た。なお、大変だったこと及びあれば良いと思うことに関しては、アルバイト探しや住居探し、手続き及び規定、日本語及び人間関係の四つのカテゴリーに関する意見が挙げられた。

第 4 章では、インタビュー調査の結果及びそれに対する考察を記し、日本への台湾人 WHM の考え方や行動パターンなどを更に深く追究した。その結果としてまず WH に対する考えについて、日本への台湾人 WHM は、日本が好きで 30 歳までに仕事などの転換期を利用し、経済的負担が比較的小さい WH で日本へ生活や旅行体験に行ったのが分かった。そして、一般の観光旅行との相違点に関しては、旅行形態やお金の使い方、各種体験の深さなどが多く挙げられ、WH に対する期待や目標としては、日本語の学習、生活や各種文化の体験、旅行などが主であった。行き先の選定理由に関して、大阪は暮らしやすさと周囲の観光資源、東京は情報量の豊富さとにぎやかさ、北海道は自然、京都は文化、それ以外の都道府県はそれほど明確な理由がないとの結果を得た。

次にワーキングとホリデーについて、ワーキングに関しては、アルバイト先として多いのは、体力が必要とされるホテルや飲食店、倉庫や工場であり、休暇は 1 週間に 1 日～2 日または 1 ヶ月に 8 日～9 日のシフト自己申告制が多い。ホリデーに関しては、旅行は自らインターネットやガイドブック、パンフレットを通して収集した情報を基に計画する個人行動が多く、旅行時期によって体験型と分散型、短期集中型、集中型の 4 種類に分けられる。交流は台湾人と旅行などで共同行動することが少なくないが、日本人との場合、食事会などに限定されることがほとんどであった。そして、上記諸活動以外の時間は、趣味や日常生活に必要な買物などに充てることが多いとの結果となった。

続いて WH に関する情報の発信について、個人記録として残すことと周囲と共有することを主要な目的として、WHM は個人フェイスブックページや個人ブログを通して、写真／アルバムに簡潔な説明を付け加える形式、または日記形式で情報発信していたが、活動終了後に頻度が低くなったのは、通常の日常生活に戻ることにより、発信できる内容も余裕もなくな

ったためだと思われる。情報発信手段に関しては、個人フェイスブックページと個人ブログとの主な相違点は公開度と投稿形式にあり、WHMはこの二者を使い分けている。一方、フォーラムサイトとフェイスブックグループに関しては、不特定多数と何かを共有することに抵抗を感じるなどの理由により、情報発信は積極的に自ら投稿する形式ではなく、受動的に書き込まれた質問に回答する形式になったと考えられた。発信された情報が周囲に与えた影響に関して、その情報だけで大きな影響力が発揮されたわけではないが、周囲の日本に対する好感度や日本への訪問意欲の向上に間接的に影響を与えたと分かった。

最後に感想及び意見について、満足度に関しては、基本的に経験したことがWHM自身の期待や目標とどのぐらい合致するかに比例するが、その中で旅行や生活体験が大きな比重を占めている。日本または日本人に対する印象の変化に関して、悪くなった人もいるが、大多数は日本が好きで好印象で来たため、元々の印象とは違ったが、嫌になったわけではないという意味で捉えられた。再訪意欲と推薦意向に関して、再訪意欲は意識だけではなく、行動にも表れており、推薦意向は推薦しない人もいるが、中立の立場または旅行だけ推薦するという意味であると判明した。大変だったこと及びあれば良いことに関しては、アンケート調査と同様の四つのカテゴリーに関する意見の他、WHに対する日本の中での認知度の向上やセカンドビザの発給などの意見も挙げられた。

以上の内容を整理すると、本研究では以下の結論が得られる。

1点目は、日本への台湾人WHMは以前からの親日家である人が多く、WH経験を通して、より積極的なリピーターとして日本を訪れていることである。アンケート調査の基本情報及びインタビュー調査のWHに関する考えで得た考察結果を合わせて見ると、彼らは以前から日本文化などに興味を持ち、日本語の学習や日本での各種体験を目的に、日本で長期滞在できるWHに参加したのが分かる。更に、1年間日本でアルバイトしながら旅行や生活体験するWH経験を経て、日本に対する理解がより深まり、活動終了後に日本へ旅行に行く回数や期間、深さが以前よりも増していることが再訪意欲に関する調査結果で確認できた。人数は一般の観光客とは比べようもないが、WHが日本に対するディープなファン作りに貢献していると言える。

2点目は、日本への台湾人WHMは、1箇所または数箇所に安定して滞在し、アルバイトしながらの生活の合間に、近距離並びに長距離の旅行を楽しむ傾向があることである。日本でのアルバイトの特性により、彼らは転々と居住地を変更することができない状況にあるが、WHに対する期待や目標と、WHと一般の観光旅行との相違点に関するインタビュー調査結果

から、WHの趣旨を理解し、明確な目的意識を持って日本で活動している彼らの姿が見られる。実際、彼らの活動期間中の諸行動の傾向を見れば、幾つかのパターンがあるが、基本的にアルバイトで得た収入を滞在費や余暇活動に費やしているのが分かる。この点から、彼らが観光客であると同時に住民でもある一面が窺える他、規模が小さいながらも日本経済の活性化に役立っているとも考えられる。

3点目は、日本への台湾人WHMは、積極的または受動的にWHに関する情報を発信することを通して、周囲に対する日本案内人の役割を果たしていることである。アンケート調査とインタビュー調査で情報発信に関する結果を総合的に見ると、彼らは個人フェイスブックページや個人ブログを通して、比較的親しい人達に積極的に情報発信すると共に、フォーラムサイトやフェイスブックグループにおいて、WHに高い関心を持っている人達に（質問されれば答えるという形で）受動的にWHに関する情報を発信していることが把握できた。周囲の人達は発信された情報を見ただけで日本に興味を持ってくれたわけではないが、それがきっかけとなり、彼らに日本旅行やWHについて尋ねてくることが多々ある事実は、インタビュー調査で明らかになった。これは、WHMが日本への旅行やWHに関心のある人達に対してエバンジェリスト的な役割を果たしていると言えると同時に、自発的な情報発信を通して訪日促進の一翼を担っていると言っても過言ではないだろう。

4点目は、日本への台湾人WHMは自分自身のWH経験に概ね満足しているが、可能であれば経験した以上に旅行したいと希望していることである。アンケート調査の結果において、WHMのWHに対する満足度は高いとの印象を受けるが、その理由を見てみると、旅行で更に多くのところに行きたいなどの意見が散見された。また、インタビュー調査でワーキングとホリデーの実態や、もう少し時間があればどのように活用するかについて尋ねた結果にも、経済的・時間的に余裕があれば更に旅行に行きたいとのコメントが見受けられた。これらの結果から、家賃などの固定支出が占める比率の高さやアルバイトに取られる時間の多さ、気楽に旅行に行けない高額の交通費などの制限が改善されれば、WHMの観光行動は更に活発化されると見込まれよう。

5点目は、日本への台湾人WHMがWHの日本での認知度不足によって最も苦労したことは、日本現地の諸規定や手続きの繁雑さや矛盾と日本人との交流である。アンケート調査とインタビュー調査両方の結果で同様な傾向が見られるが、アルバイトや住居探しを含め、インターネットや携帯電話の契約、銀行口座を作ることなど、日本で生活するのに必要な手続きや規定が繁雑なため、これらの問題をクリアするのに大変な思いをしたことが明確になった。

また、日本語力の問題もあるが、交流する機会が少ない、或いは交流に対するお互いの認識が食い違っている、深く付き合えないなどの意見から、日本人との交流に苦労していたことが分かる。日本への台湾人 WHM により良い WH 経験をしてもらうために、これらのことへのサポートが必要だと思われる。

## 5.2　提言

前節の結論を踏まえ、本節では WH の関係者である今後の台湾人 WHM、台湾側の行政機関及び日本側の行政機関に対する助言または提言を行いたい。

まず、今後の台湾人 WHM に対する助言について考える。本研究ではこれまでの台湾人 WHM の日本における代表的な活動パターンを幾つか示したが、これらのパターンに属さない過ごし方もあることは忘れてはいけない。どのパターンまたは過ごし方を自分が望んでいるのかをよく判断し、事前にそれに関する適切な情報を収集することが重要だと思われる。また、ビザの有効期間が短くなると採用されにくい、交通費が高いため、好きなだけ旅行できないなどのコメントから分かるように、想像していたより厳しい一面もあるので、それに対する心構えも必要となるだろう。

次に、台湾側の行政機関に対する提言を行う。台湾国内において WH の人気がますます上昇しており、協定締結国数も今後増加していくだろうが、エージェンシーなどの関連業者に対する法規制の強化や、国内青年が WH について交流できる、既存の公式サイトや掲示板を活性化させることも更に重要になってくると考えられる。また、海外青年に台湾へ WH に来てもらえるように国内環境を整備することや、プロモーション活動をかけることなども、今後の課題となろう。

最後に、日本側の行政機関に対する提言についてまとめる。台湾人 WHM が最も苦労している諸規定や手続きと日本人との交流に対してサポートが要ると思われる。規定や手続きは安易に変更することができないが、WHM の多い幾つかの都市にサポートデスクや問い合わせ窓口を設けることや、役所職員や銀行員などの WH に対する認知度の向上は、比較的実行可能な項目だろう。

実際、本研究で明らかになったように、WHM は長期に亘る観光者であると共に、短期の居住者とも考えられる存在である。WHM の存在は、受け入れ地域における経済的価値だけではなく、エバンジェリストとしての価値を、受け入れ地域の民間、行政、産業人が、理解した上で、WH の振興を図ることは一般的な観光振興を図ろうという次元と同じ、もしくはそれ

以上の活動の可能性があることを理解する必要があると考える。

アンケート調査やインタビュー調査で表明された携帯電話の 2 年間の契約期間に関する諸問題も、ある面では、1 年間を基本形とする WHM の実情を全く理解していないが故の問題とも言えよう。日本の移動通信全体のプログラムに関わる問題であるため、解決は容易ではないのかもしれないが、日本において、WH の価値を認め、これを振興することの価値がより広く認識されることになれば、WHM の身元確認、身元保証の上で、特別な配慮はあり得ると考えられる。このためには、海外から日本への WH 制度に関する日本人一般に対する行政側からの広報活動並びに啓蒙活動も重要であろう。

日本人との交流に関して、WH に対する認知度が向上されれば多少は改善されると思われるが、多くの地域に開設されている国際交流機関やボランティア教室などの情報をまとめ、交流協会のホームページに掲載するだけでも、お互いの交流に繋がっていくと考えられる。一緒に旅行に出かける機会を増やしたいのであれば、異文化交流を兼ねたモニターツアーを企画するのも一つの手段であろう。WHM の交流と旅行希望を満足させることができると同時に、WHM から外国人観光客の受け入れ環境の整備状況などに対する意見も得られる。

アンケート調査やインタビュー調査でも、多くの WHM が当初希望していたほどに旅行ができなかった例が述べられたことについては、更に配慮が必要だと考えられる。もちろん、経済的理由での限界などもあることは事実であろう。しかしながら、日本に対する愛着や、情報発信活動による自発的なプロモーション効果を重要と感じるならば、彼らの就労を単なる中長期のアルバイトと同等に見るべきではない。受け入れを狙う自治体が積極的に仲介に入り、彼らの就労に対し、一般のアルバイト以上の条件整備や、休暇の保証などの特別な配慮も考えられるかもしれない。

他方、WHM に更に旅行してもらい、より多くの地域の魅力を伝えてもらうために、お得な切符などの優待サービスの提供も重要である。観光客と同等の優待でなくても、一定の割引さえあれば、WHM の旅行意欲や行動を増やせすことが期待できる。また、オン／オフシーズンの激しいところでは閑散期限定の優待サービスなどを打ち出すのも類似した効果が得られると考えられる。

そして、WH の実施状況を把握するために、交流協会によってアンケート調査が行われているが、数名のインタビューイーに質問したところ、その存在を知らない、または査証発給時に配布されたが、帰国後どこに置いたかを忘れたというコメントが少なくない。その回収状況を改善し、台湾から日本への WH の全体像をより把握できるようにするために、活動が

終了（日本を出国、或いは台湾に帰国）した時点など、アンケートの配布と回収するタイミングや方法で工夫する必要があると思われる。

### 5.3　今後の課題

本研究は、日本への台湾人 WHM の日本における活動パターンや、WH に関する情報の発信を通してどのような観光的価値を創出しているかを、アンケート調査とインタビュー調査を中心に考察を行った。その過程とそれによって得た成果において、幾つかの課題が残されているため、今後の研究者の参考として以下に提示したい。

一つはアンケート調査の実施方法について、本研究は日本への台湾人 WHM がよくアクセスするインターネット空間でアンケート調査を実施したが、これらの空間の情報更新が早いという特性を見落としたため、サンプルを集めるのに予定以上の時間をかけてしまった。また、調査票に開放的に記入してもらう質問が多かったことは、対象者の回答意欲を低下させる恐れがある。この 2 点に関しては、今後類似した研究を行う際に留意すべき点だと考えられる。

もう一つは研究対象について、本研究は日本での WH 活動を終えた台湾人 WHM を研究対象としたが、インターネット空間で回答者を募集したため、回答者に同質性が高いという可能性が潜んでいる。また、インターネット空間を頻繁に利用しない WHM や日本で挫折などに遭って短期間で帰国した WHM などに対する調査ができなかった。本研究の目的を達成するために、これらのバイアスは避けられないが、今後台湾から日本への WH について研究する際は、考慮する必要があると思われる。

一方、本研究と関連して今後考えられる研究題材について、日本においては韓国など同じく他国からの WH との比較や、台湾においてはオーストラリアなど他国への WH との比較が挙げられる。こうした比較研究を通して、各国の WHM の行動パターンを知ることができ、欧米諸国とアジア諸国、或いはアジア諸国間の差異なども見られると想定される。また、WH の行き先として選定される理由から旅行先としての魅力を探ることなども考えられよう。

# 謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々からお力添えいただき、ここで感謝の意を表します。

まず、指導教員である臼井冬彦先生に心より感謝致します。就職活動で躓いた時、研究の進み方や論文の書き方に行き詰まった時、いつも温かく見守ってくださり、貴重な助言を多く賜りました。また、日頃からアポイントメントなしの相談に乗ってくださり、年末年始の休暇中にもかかわらず、日本語の正誤を含め、留学生である私の論文を細部まで直していただきまして、誠にありがとうございました。

そして、副指導教員である内田純一先生にも感謝を申し上げます。研究で迷いが生じた時や不安を感じた時、別の視点からのご指導並びに励ましのお言葉をくださいました。本当に感謝しております。

また、インタビュー調査に快く応じてくださった Allen さん、Viviya さん、霧島翔さん、阿薫さん、HYDE さん、Anita さん、hy さん、Mina さん、Sara さん、Sacura さん、Sixpoint さん、K さん、北極熊さん、Annie さん、小華さん、Tamako さん、Jimmy さん、Iris さん、きみかさん、Fly さん、Josh さん、Minako さん、Yu Everlina さん、魚酥さん、Lily さん、上出遙さん（調査順）の 26 名と、インタビュー調査を受けられなかったがアンケート調査に回答してくださった 38 名（合計 64 名）の方々に深く御礼申し上げます。更に、電話取材とメールによる問い合わせに答えていただいた、公益財団法人交流協会台北事務所査証室の担当者様、長期奨学金担当者の荘様にも心より感謝しております。皆様のご協力なくして本研究は成し得ることができませんでした。

それから、台湾にいる家族と友達に対しても感謝の気持ちがいっぱいです。せっかく帰省したものの、研究調査に専念するあまり、家族孝行も皆さんと集まることもできないまま、日本に戻ってしまいました。にもかかわらず、空港や駅までの送り迎えやアンケート転載への手伝いなど、私のことを支えてくれて本当にありがとうございます。

最後に、観光創造専攻 6 期生の皆さんにも感謝です。皆さんに出会い、お互い刺激し合いながら共に成長してきたこの 2 年間は、私にとってかけがえのない宝物です。皆さんに支えられ、苦しい時も楽しい時も一緒に過ごしてきたからこそ、充実した大学院生活を送ることができました。本当に感謝しています。末筆ながら、数多くのご教授をいただいた観光創造専攻の先生方々、ご支援をいただいた関係者の皆様にも、改めて御礼申し上げます。

2014 年 1 月　馮惠芸

# 謝辭

在執筆撰寫本論文的過程中，受到許多人的鼎力相助，在此表達感謝之意。

首先，由衷感謝指導教授臼井冬彥老師，在我就職活動遭受挫折的時候、在研究進行方式或論文寫作方法上遇到瓶頸的時候，給予我溫暖的關懷以及許多寶貴的建議。此外，總是寬容地接納我平時沒有預約就臨時造訪徵詢意見的失禮，即便是年底年初的新年假期間，也仔細校閱我的論文內容和當中所使用的英日文是否有誤，感激不盡。

同時，也感謝副指導教授內田純一老師，在我對研究產生疑慮或不安時，總是從不同的觀點指導我並給予我鼓勵，真的非常感謝。

另外，也要深深感謝願意接受訪談調查的 Allen 小姐、Viviya 小姐、霧島翔小姐、阿薰小姐、HYDE 小姐、Anita 小姐、hy 小姐、Mina 小姐、Sara 小姐、Sacura 小姐、Sixpoint 先生、K 先生、北極熊小姐、Annie 小姐、小華小姐、Tamako 小姐、Jimmy 先生、Iris 小姐、きみか小姐、Fly 先生、Josh 先生、Minako 小姐、Yu Everlina 小姐、魚酥小姐、Lily 小姐、上出遙小姐（依調查順序排列）26 位受訪者，以及雖然無法接受訪談調查，但仍願意花時間回答問卷的 38 位問卷回答者（共 64 位）。除此之外，也相當感謝公益財團法人交流協會台北事務處查證室負責人與長期獎學金負責人莊小姐，協助回答電話訪談與 mail 所提出的問題，沒有各位的大力協助，本研究無法順利完成。

另一方面，也非常感激在台灣的家人和朋友，難得回國一趟卻因為集中心力在研究調查上，無法充分陪伴家人也抽不出時間與大家相聚。即便如此大家還是全力幫助我，接送我到機場和車站，或是幫我轉貼網路問卷等等，感謝之情無以言表。

最後，感謝觀光創造專攻第 6 屆的同學們，和大家相知相惜、彼此相互刺激成長的這 2 年，對我來說是無可取代的寶物。因為在大家的幫助下一起度過有苦有樂的時光，我才能擁有如此充實的研究所生活，真的很謝謝大家。最後的最後，還要感謝教導我許多的觀光創造專攻諸位老師，以及在各方面給予我協助支持的學長姐、學弟妹和相關人員，僅以此論文表達我數不盡的謝意。

2014 年 1 月　馮惠芸

# 参考文献リスト

【参考文献】

張巧臆（2012）打工度假旅遊者之自我成長與能力提升，南華大學旅遊管理學系旅遊管理碩士班碩士論文

張珮萱（2010）赴日打工度假工作參與型態對文化體驗的影響之研究，國立臺灣師範大學運動與休閒管理研究所碩士論文

陳韋綾（2012）日本文化體驗及習得之研究－以度假打工為探討對象－，國立高雄第一科技大學應用日語研究所碩士論文

鄭雲月（2011）台灣赴紐西蘭打工度假者旅遊追求之研究，中國文化大學觀光休閒事業管理研究所碩士論文

Cohen, E.（1973）Nomads from Affluence：Notes on the Phenomenon of Drifter Tourism, International Journal of Comparative Sociology 14（12）, pp.89-103

藤岡伸明（2008）オーストラリアの日本人コミュニティにおけるワーキングホリデー渡航者の役割，オーストラリア研究紀要，34：pp.181-204

藤岡伸明（2012a）オーストラリア・ワーキングホリデー制度の利用者増加と動機をめぐる語りの曖昧さの背景にある諸要因，オーストラリア研究，25：pp.29-44

藤岡伸明（2012b）海外経験は役に立つのか：ワーキングホリデーの効果とリスクの検証，一橋研究，37（1）：pp.73-88

徐惠珍（2010）澳洲打工度假者人格特質、旅遊動機與旅遊滿意度之研究，國立體育大學休閒產業經營學系碩士班碩士論文

李欣倫（2012）澳洲打工度假者之文化智商、跨文化適應與工作滿意度之關係研究，國立臺北教育大學社會與區域發展學系碩士班碩士論文

林碧月（2010）海外度假打工體驗的內涵與價值，朝陽科技大學休閒事業管理系碩士班碩士論文

劉怡伶(2012)打工度假者人格特質、旅遊風險知覺與旅遊目的地決策之研究－以赴澳洲為例，銘傳大學觀光事業學系碩士班碩士論文

羅雨欣（2011）日本打工度假者後心流體驗探索，嶺東科技大學觀光與休閒管理研究所碩士論文

呂昭瑩（2009）海外打工旅遊者跨文化經驗學習動機與其影響之研究，國立高雄師範大學成人教育研究所碩士論文

盧怡君（2010）打工度假期間的工作動機、工作滿意度、休閒效益追尋與休閒參與間關係之研究，世新大學觀光學研究所碩士論文

増田正勝（2011）オーストラリアの労働事情とワーキング・ホリデー制度，広島経済大学経済研究論集，33（4）：pp.1-19

Pape, R. H.（1965）Touristry：A Type of Occupational Mobility, Social Problems, 11：pp.336-344

彭詩容（2010）從空間流動觀點探討打工度假者跨文化適應與自我認同之研究－以國人赴澳洲打工度假者為例，南台科技大學休閒事業管理系碩士論文

Tan, Yan/Richardson, Sue/Lester, Laurence/Bai, Tracy/Sun, Lulu（2009）Evaluation of Australia's Working Holiday Maker (WHM) Program, National Institute of Labour Studies, Flinders University

Uriely, N（2001）Travelling workers and working tourists：variations across the interaction between work and tourism, International Journal of Tourism Research, 3（1）：pp.1-8

Uriely, N, Reichel, A.（2000）Working tourists in Israel and their attitudes toward host, Annals of Tourism Research, 27（2）：pp.267-289

巫佳芬（2010）打工度假者經驗學習歷程之研究，國立暨南國際大學成人與繼續教育研究所碩士論文

吳家瑋（2008）澳洲打工度假客的動機與體驗之研究，國立臺灣師範大學運動與休閒管理研究所碩士論文

吉本圭一・長尾由希子（2008）高学歴女子青年におけるモラトリアム活用としてのワーキング・ホリデー，九州大学大学院教育学研究紀要，11（54）：pp.1-24

鍾尚澄（2009）台灣之澳洲工作假期參與者之動機、歷程與利益，中國文化大學觀光事業研究所碩士論文

【参考資料】

Australia Government Department of Immigration and Border Protection（2010）Working Holiday Maker and Work and Holiday visa grants：http://www.immi.gov.au/media/statistics/pdf/visitor/2005-06-to-2009-10-whm-wah-visa-grants.pdf（download at 2013.12.23）

Australia Government Department of Immigration and Border Protection (2013) Working Holiday Maker visa program report 30 June 2013：
https://www.immi.gov.au/media/statistics/pdf/working-holiday-report-jun13.pdf (download at 2013.12.23)

交通部觀光局（2013）觀光局行政資訊系統【觀光市場調查摘要】2012 年國人旅遊狀況調查：
http://admin.taiwan.net.tw/upload/statistic/20130726/56bed5af-09ea-4f51-8f4c-c3ecacdb7ec4.doc (download at 2013.12.21)

今周刊（2012）清大畢業生為何淪為澳洲屠夫 9 月 12 日 821 期記事：
http://mag.chinatimes.com/mag-cnt.aspx?artid=15797 (download at 2013.12.23)

ジョブズリサーチセンター（2013）2013 年 11 月度アルバイト・パート募集時平均時給調査：
http://www.recruitjobs.co.jp/info/pdf/pr201312191109.pdf (download at 2013.12.6)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：お知らせ：第一回台湾における対日世論調査（２００８年度）：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/902CF24F8C0C64824925759F0037CA22/$FILE/Japanese.pdf (download at 2013.12.24)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：お知らせ：第二回台湾における対日世論調査（２００９年度）：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/52F6843250D2FB0E492576EF00256445/$FILE/detail-japanese.pdf (download at 2013.12.24)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：お知らせ：第三回台湾における対日世論調査（２０１１年度）：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/29A8A6F6BA532E3349257A2800136FD5/$FILE/2011tainichi-yoroncyousa1.pdf (download at 2013.12.24)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：お知らせ：第四回台湾における対日世論調査（２０１２年度）：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/7B227FA5F660874649257B9700271600/$FILE/H24yoron.ri.pdf (download at 2013.12.24)

康文文教基金會（2012）台灣青年從事國外打工度假之動機與體驗調查：
http://www.travel934.org.tw/GoodNewsKw/Stage/SDetail.aspx?id=728 (download at 2013.12.23)

国土交通省観光庁（2003）平成 15 年度観光白書：
http://wwwwp.mlit.go.jp/hakusyo/syoListDetailAction.do?syocd=npcc200301&dtailflg=M&first_page=3&t22_id=&searchFlg=off&ass_flag=true&seldspnm=&syoclscd=all&docclscd=all&keyw1=&keyw2=&keyw3=&keyw4=&operator1=AND&operator2=AND&operator3=AND&SYOname=&gengo_from=Y&nendo_from=&gengo_to=Y&nendo_to=&dispcount=10&cur_page=1&highlight_search_flag=off&newkeyw=（download at 2013.12.20）
国土交通省観光庁（2013）訪日外国人の消費動向 平成 24 年 年次報告書：
http://www.mlit.go.jp/common/000992933.pdf（download at 2013.12.4）
国土交通省観光庁（2013）旅行・観光に関する調査研究報告書：
http://www.mlit.go.jp/common/001007090.pdf（download at 2013.12.7）
日本政策投資銀行北海道支店（2013）アジア 8 地域・訪日外国人旅行者の意向調査（平成 25 年版）：http://www.dbj.jp/pdf/investigate/etc/pdf/book1312_01.pdf（download at 2013.12.4）
日本政府観光局（JNTO）（2013）国籍別／目的別 訪日外客数（2004 年～2012 年）
http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/visitor_trends/pdf/tourists_2012_np.pdf（download at 2013.12.20）
Pollster 波仕特線上市調（2009）日本為台灣民眾最想前往打工度假的國家：
http://www.pollster.com.tw/Aboutlook/lookview_item.aspx?ms_sn=233（download at 2013.12.21）
統計数理研究所（2008）日本人の国民性調査：
http://www.ism.ac.jp/kokuminsei/table/data/html/ss9/9_1/9_1_all.htm（download at 2013.12.17）
東京外国人雇用サービスセンターー外国語サービスのあるハローワーク（全国）：
http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/naitei/dl/nihong1.pdf（download at 2013.12.5）
トラベルビジョン（2010）日本ワーキング・ホリデー協会が破産手続きを開始－会員企業や利用者減少し 8 月 17 日 オンライン記事：
http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=45829（download at 2013.12.24）
財団法人東京市町村自治調査会（2006）「島しょ地域におけるワーキングホリデー導入に関する調査研究報告書」
http://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/0000000/215/waaholi.pdf（download at

2013.12.26)
全国賃貸管理ビジネス協会（2013）2013 年 11 月全国家賃動向調査：
http://www.pbn.jp/useful/rent_trand/1311.html（download at 2013.12.6）
中時電子報（2013）赴法匈打工度假 恐得再等一等 12 月 19 日 オンライン記事：
http://www.chinatimes.com/realtimenews/20131219002883-260405（download at 2013.12.23）
中央通訊社（2010）「台加青年交流（打工度假）」名額自 100 年 1 月 10 日起增至 1000 名 12 月 7 日 オンライン記事：
http://www.cna.com.tw/postwrite/Detail/73022.aspx#.UslrGLfdPIV（download at 2013.12.23）

【参考ウェブページ】

背包客棧：http://www.backpackers.com.tw/forum/（download at 2013.12.25）
背包客棧－維基百科，自由的百科全書：
http://zh.wikipedia.org/wiki/%E8%83%8C%E5%8C%85%E5%AE%A2%E6%A3%A7（download at 2013.12.25）
BTA－Resident Visa：http://www.beltrade.org.tw/chinese/workingholiday.php（download at 2013.12.22）
『打工度假 ≠ 台勞！』－Working Holiday 實況大調查（2012）：
https://sites.google.com/site/workingholidaynotequalmoney/home（download at 2013.12.23）
德國在台協會 Deutsches Institut Taipei－打工渡假簽證申請須知：
http://www.taipei.diplo.de/Vertretung/taipei/zh-tw/01-Welcome/Visabestimmungen/C__WHP/Seite__Visa__WHP.html（download at 2013.12.22）
Embassy of Japan in Korea：日韓ワーキングホリデー：
http://www.kr.emb-japan.go.jp/people/ryouzibu/consulate_10.htm（download at 2013.12.20）
外務省：ワーキング・ホリデー制度：
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/visa/working_h.html（download at 2013.12.20）
外務省：日韓ワーキング・ホリデー制度：

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/korea/nk_wholiday.html (download at 2013.12.20)
外務省：日本・香港ワーキング・ホリデー制度に関する口上書の交換：
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/10/1196823_1108.html (download at 2013.12.20)
Google トレンド：http://www.google.co.jp/trends/ (download at 2014.1.1)
關於噗浪：http://www.plurk.com/aboutUs (download at 2013.12.6)
一般社団法人日本シェアハウス・ゲストハウス連盟:http://www.jgho.org/about/(download at 2013.12.6)
一般社団法人日本フードサービス協会（2009）外食企業経営および関連データ：
http://www.jfnet.or.jp/data/h/post_1.html (download at 2013.12.7)
一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会：http://www.jawhm.or.jp/ (download at 2013.12.24)
Irish Naturalisation and Immigration Service Working Holiday Programme Between Ireland and the Republic of China (Taiwan)：
http://www.inis.gov.ie/en/INIS/Pages/Working%20Holidays%20in%20Ireland (download at 2013.12.22)
iYouth 青少年國際交流資訊網：https://iyouth.youthhub.tw/main.php (download at 2013.12.24)
JPTIP 日本留學、遊學、打工度假、日語顧問專業機構：http://www.jptip.com.tw/ (download at 2013.12.25)
（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：アンケート調査について（お願い）：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/23097FF6EC40EA1F492575EC0011AFF7?OpenDocument (download at 2013.12.24)
（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：査証交付時の必要書類についてについて：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/1462E570D070FA6C492575AE00328E19?OpenDocument (download at 2013.12.24)
（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：査証申請書類について：
http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/ECAEEA2E30A46647492575AE00320BBB?OpenDocument (download at 2013.12.24)
（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：日台ワーキング・ホリデー査証案内：

http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/2D27D67BBE70E7AA492575AE0029F617?OpenDocument (download at 2013.12.24)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：東日本大震災のため訪日を中止したワーキング・ホリデー制度利用者の皆様へ（２０１０年後期分ＷＨ査証取得者）：http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/2A2B2BAFF16F158A49257935000B6506?OpenDocument (download at 2013.12.4)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：東日本大震災のため訪日を中止したワーキング・ホリデー制度利用者の皆様へ（２０１０年前期分ＷＨ査証取得者）：http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/99f9246a2f053fbb49256e28002a9792/b21362eb58fcfe01492578aa0017cfa4?OpenDocument (download at 2013.12.4)

（公財）交流協会 台北事務所（日本語）：査証：ワーキング・ホリデーＱ＆Ａ：http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/10/2C385BCE855FB4C8492575940031BE16?OpenDocument (download at 2013.12.24)

Migration Application Fees to Increase by 15% from 1 September 2013－Acacia－Immigration Australia：https://www.acacia-au.com/immigration-fees-increase-September-2013.php (download at 2013.12.22)

Offices and Fees finder：http://www.immigration.govt.nz/templates/Custom/OfficesAndFeesPopup.aspx?NRMODE=Published&NRNODEGUID=%7b5DACAEC6-F0FF-44D9-9C1C-0B8E1A707CE5%7d&NRORIGINALURL=%2fmigrant%2fgeneral%2fformsandfees%2fofficeandfeescalculator%2fLinkAdministration%2fToolboxLinks%2fofficeandfeescalculator%2ehtm%3flevel%3d1&NRCACHEHINT=Guest&level=1 (download at 2013.12.22)

批踢踢實業坊：bbs://ptt.cc (download at 2013.12.25)

批踢踢－維基百科，自由的百科全書：http://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B9%E8%B8%A2%E8%B8%A2 (download at 2013.12.25)

前往加拿大旅遊與工作－加拿大打工度假，專為台灣青年設計的加拿大工作和實習計畫－體驗加拿大：http://www.canada.org.tw/taiwan/experience_canada_experience/choose_your_experience-choisissez_votre_experience.aspx?lang=zho (download at 2013.12.23)

青年度假打工：http://www.taiwan.gov.tw/mp.asp?mp=1602 (download at 2013.12.23)

日本打工度假互助會：https://www.facebook.com/groups/103616929719205/ (download at 2013.12.25)

日本打工度假互助會：http://www.backpackers.com.tw/forum/showthread.php?t=443626 (download at 2013.12.25)

台灣國際打工渡假教育協會：http://www.taiwanwha.org/ (download at 2013.12.24)

台湾との窓口 公益財団法人交流協会 東京本部：お知らせ：日台双方でのワーキング・ホリデー制度導入について：http://www.koryu.or.jp/ez3_contents.nsf/Top/CD68965BBFD5B8C34925758D0004538D?OpenDocument (download at 2013.12.20)

Taiwan Working Holiday Scheme：http://www.immigration.govt.nz/migrant/stream/work/workingholiday/taiwanworkingholidayscheme.htm (download at 2013.12.22)

UK Border Agency－2013 Youth Mobility Scheme applications accepted for Taiwan from 7 March：http://www.ukba.homeoffice.gov.uk/sitecontent/newsarticles/2013/january/32-yms-taiwanese (download at 2013.12.23)

UK Border Agency－Tier 5 (Youth mobility scheme)：http://www.ukba.homeoffice.gov.uk/visas-immigration/working/tier5/youthmobilityscheme/ (download at 2013.12.22)

Working Holiday visa (subclass 417)：http://www.immi.gov.au/Visas/Pages/417.aspx (download at 2013.12.23)

Working Holidaymaker Extension Visa：http://www.immigration.govt.nz/migrant/stream/work/hortandvit/workingholidaymakerextensionvisa.htm (download at 2013.12.23)

新聞中心 中華民國外交部：我與紐西蘭簽署「台、紐打工度假計畫協議」：http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/66596cb4-55bf-4137-86b7-0b4126e7d6f7?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我與澳洲簽署「台、澳打工度假簽證瞭解備忘錄」，並自本年十一

月一日正式施行：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/1882b379-7c56-4e99-a73a-cb654838e799?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我國與日本完成台日打工度假簽證制度換函手續：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/cc5037ee-a9b3-4bd7-bfa9-2a0d4981cac3?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我國與加拿大簽署「台加青年交流瞭解備忘錄」：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/4909873b-2503-4d94-884c-87a2c37edb25?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：第五個國家總計約 13,000 個名額讓我們的年輕人自力看世界：我國與德國完成簽署青年打工度假計畫聯合聲明：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/533fb858-da23-4d37-9643-167283bff00f?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我與韓國簽署「台韓青年打工度假簽證瞭解備忘錄」：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/813a8722-5ed4-47b1-8b42-0ab633f0fc45?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我國青年赴英國交流計畫明（101）年 1 月 1 日上路，每年 1,000 個名額，最長可停留 2 年：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/1a70f1f5-ea55-40a7-80d7-ccb60c2996f0?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：我國與愛爾蘭青年互赴對方國家打工度假計畫明（102）年元旦上路：
http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/d6c9b013-0751-48c4-bda0-a80c186ab33a?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed

4806d4b (download at 2013.12.22)

新聞中心 中華民國外交部：歐洲度假打工再添一國，臺灣－比利時度假打工將於本（102）年青年節上路：

http://www.mofa.gov.tw/official/Home/Detail/ef9e8725-95bd-44cf-b55a-d390901e13ef?arfid=7f013c3f-f130-44a9-905f-84cbaba2eca6&opno=907477b5-1d95-4205-a89d-320ed4806d4b (download at 2013.12.22)

行政院（2013）江揆：「青年度假打工協定」值得肯定（行政院全球資訊網－即時新聞）

http://www.ey.gov.tw/News_Content.aspx?n=F8BAEBE9491FC830&s=DBD2DC86FD07AA36 (download at 2013.12.21)

駐台北韓國代表部：

http://taiwan.mofa.go.kr/worldlanguage/asia/taiwan/visa/download/index.jsp (download at 2013.12.22)

# 付録

## 付録１　アンケート調査票（繁体中国語版）

親愛的受訪者，您好：

首先感謝您百忙之中撥冗填寫本問卷。

這是一份以海外打工度假制度為研究對象的學術性問卷調查，目的在於了解您打工度假過程中的旅遊行為與消費行為，以及透過網路獲取資訊與發布訊息的情況，藉以分析打工度假制度潛在的觀光價值。本問卷採不記名方式填寫，所有您所提供的資料，除學術分析外絕不做其他用途，並絕對保密不對外公開，敬請安心作答。

由於研究樣本蒐集不易，您的每一筆資料對本研究的後續進行都有相當大的幫助。在您回答・送出本問卷後，即視為您了解本研究之說明事項，並同意參與此調查研究。若您在填答時對本問卷有任何疑問，歡迎來信告知。萬分感謝您的協助，敬祝您

身體健康、萬事如意！

北海道大學研究所　國際傳播媒體・觀光學院　觀光創造專攻　碩士課程
指導教授：臼井冬彦
研 究 生：馮 惠 芸　　敬上
E-mail：baileyfeng@hotmail.com

**基本資料**

性別　☐ 男 ・ ☐ 女

現在年齢 _____ 歲 （ 當時年齢 _____ 歲 ）

打工度假期間 _____ 個月 （ 例：12 個月 ）

主要居住地（停留 1 個月以上的地方，若有 2 個以上請全部寫出）

_____

參與打工度假的理由（可複選）

☐ 可以在當地長期旅行　☐ 可以體驗當地生活　☐ 可以合法在當地打工

☐ 可以深入體驗當地自然文化　☐ 可以學習該國語言　☐ 提升未來競爭力

☐ 拓展國際視野　☐ 未來計畫到當地留學　☐ 未來計畫到當地工作

☐ 受旅遊書籍影響　☐ 親友推薦　☐ 結交新朋友　☐ 暫離目前生活

☐ 其他 （ 請舉例 _____ ）

打工度假協定國中選擇日本的理由（可複選）

☐ 離台灣近　☐ 有美麗自然景觀　☐ 對傳統文化有興趣　☐ 對流行文化有興趣

☐ 對歷史有興趣　☐ 對日語有興趣　☐ 想到日本留學　☐ 想到日本工作

☐ 治安環境良好　☐ 人民和善親切　☐ 食物多樣美味　☐ 有親友在日本

☐ 其他 （ 請舉例 _____ ）

是否曾到其他國家打工度假過？

☐ 是　☐ 否

回答「是」者請簡述國名及打工度假期間 _____

是否計畫到其他國家打工度假？

☐ 是 ☐ 否

回答「是」者請簡述國名及打工度假期間 _____

**【活動開始前】**

赴日前準備旅費之金額 約 _____ 萬圓日幣

赴日前獲得資訊（含決定前往地區）的管道（可複選）

☐ 親戚朋友 ☐ 旅遊導覽書籍 ☐ 報章雜誌 ☐ 打工度假專書

☐ 網路部落格 （ 部落格名 _____ ）

☐ 臉書社團專頁 （ 社團名 _____ ）

☐ 打工度假論壇 （ 論壇名 _____ ）

☐ BBS 討論版 （ BBS 版名 _____ ）

☐ 其他 （ 具體名稱 _____ ）

赴日機票的處理

☐ 自己購買 ☐ 委託旅行社 ☐ 其他 （ _____ ）

找房子的方法

☐ 委託不動產仲介 ☐ 親友介紹 ☐ 學校介紹 ☐ 其他 （ _____ ）

找學校的方法

☐ 自己申請 ☐ 委託留學代辦 ☐ 親友介紹 ☐ 其他 （ _____ ）

找打工的方法（可複選）

☐ 登錄當地人力銀行 ☐ 前往職業介紹所 ☐ 親友介紹

☐ 臉書社團專頁 （ 社團名 _____ ）

☐ 打工度假論壇 （ 論壇名 _____ ）

☐ BBS 討論版 （ BBS 版名 _____ ）

☐ 其他 （ _____ ）

**【活動期間】**

**關於收入**

是否有打工？ ☐ 有 ☐ 無

回答「有」者，總計打了幾個月的工？ 約 _____ 個月

回答「有」者，平均 1 個月的打工時數 約 _____ 小時

回答「有」者，平均 1 個月打工賺取的收入 約 _____ 萬圓日幣

**關於支出**

平均 1 個月生活所需費用 約 _____ 萬圓日幣

細項 房租 _____ %

維持費（水電瓦斯費、通訊・通話費等） _____ %

生活費（飲食費、買衣服、交通費等） _____ %

旅行費（移動、住宿、遊玩、土產等） _____ %

學習費（日語等語學） _____ %

體驗費（茶道、花道等傳統藝能） _____ %

交際費（與朋友聚餐等） _____ %

其他（雜支） _____ %

**關於行動**

平均 1 個月旅行（含當天來回）天數 約 _____ 天

旅行造訪過的都道府縣數 約 _____ 都道府縣

平均 1 個月參加聚會或聚餐等的次數 約 _____ 次

聚會主要舉辦地點

☐ 居酒屋 ☐ 餐廳 ☐ 自己家 ☐ 朋友家 ☐ 其他 （ _____ ）

打工度假停留期間，是否有透過網路發布與打工度假相關的訊息（上傳照片、抒發心情、分享心得、撰寫網誌等）？

☐ 有 ☐ 無

回答「有」者，主要透過何種平台發布訊息？（可複選）

☐ 私人部落格

☐ 私人臉書頁面

☐ 臉書社團專頁 （ 社團名 _____ ）

☐ 打工度假論壇 （ 論壇名 _____ ）

☐ BBS 討論版 （ BBS 版名 _____ ）

☐ 其他 （ 具體名稱 _____ ）

回答「有」者，主要發布何種訊息？（可複選）

☐ 照片 ☐ 心得 ☐ 網誌 ☐ 心情 ☐ 打工資訊 ☐ 租屋資訊 ☐ 旅遊資訊

☐ 其他 （ 請舉例 _____ ）

回答「有」者，大約多久發布 1 次訊息？

☐ 每天 ☐ 2～3 天 1 次 ☐ 4～5 天 1 次 ☐ 1 星期 1 次 ☐ 1 個月 1 次

☐ 其他 （ _____ ）

**【活動結束後】**

**關於行動**

打工度假活動結束後，是否有透過網路發布與打工度假相關的訊息（上傳照片、抒發心情、分享心得、撰寫網誌等）？

☐ 有 ☐ 無

回答「有」者，主要透過何種平台發布訊息？（可複選）

☐ 私人部落格

☐ 私人臉書頁面

☐ 臉書社團專頁 （ 社團名 _____ ）

☐ 打工度假論壇 （ 論壇名 _____ ）

☐ BBS 討論版 （ BBS 版名 _____ ）

☐ 其他 （ 具體名稱 _____ ）

回答「有」者，主要發布何種訊息？（可複選）

☐ 照片 ☐ 心得 ☐ 網誌 ☐ 心情 ☐ 打工資訊 ☐ 租屋資訊 ☐ 旅遊資訊

☐ 其他 （ 請舉例 _____ ）

回答「有」者，大約多久發布 1 次訊息？

☐ 每天 ☐ 2～3 天 1 次 ☐ 4～5 天 1 次 ☐ 1 星期 1 次 ☐ 1 個月 1 次

☐ 其他 （ _____ ）

**關於感想**

對這次打工度假是否滿意？

☐ 滿意 ☐ 還算滿意 ☐ 普通 ☐ 不太滿意 ☐ 不滿意

請簡述理由 _____

對日本或日本人的印象有無改變？

☐ 有，變好 ☐ 有，變差 ☐ 沒有

請簡述理由 _____

是否有意願再訪日本（留學、旅行等形式不拘）？

☐ 有 ☐ 沒有

是否推薦身邊親友前往日本（打工度假、旅行等形式不拘）？

☐ 是 ☐ 否

請簡述理由 _____

為了今後的改善，請您分享以下經驗。

覺得很辛苦的地方（找房子等）

_____

覺得如果有的話會更好的地方（協助介紹打工等）

_____

若有其他感想或意見・建議等，請自由填寫。

_____

_____

問卷到此結束，感謝您的協助！因應研究需要，有可能會進行進一步的訪談調查，若您日後仍願意提供協助，請於下方留下您的稱謂（網路暱稱亦可）及聯絡方式（E-mail），我將再與您聯絡，謝謝！

稱謂（網路暱稱亦可） _____

聯絡方式（E-mail） _____

## 付録２　アンケート調査票（日本語版）

調査協力者の皆様

　お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

　本アンケートは、ワーキング・ホリデー制度を研究対象とした学術的なものであり、皆様がワーキング・ホリデーの活動期間中に起こした旅行行動や消費行動、及びインターネットを通した情報獲得や発信状況を把握した上で、ワーキング・ホリデー制度の潜在的な観光的価値を探求することを目的としております。アンケートは無記名方式を取り、皆様にご提供いただく全ての情報は学術的な分析以外には使用致しません。また、守秘義務も厳守し、個別内容の対外的公開は一切致しませんので、安心してご回答ください。

　一定のサンプル数を集めるのは容易ではないため、皆様からいただいた一つ一つのご意見とも、今後の研究に大変有用な情報になります。なお、本アンケートに回答・返送してくださったことにより、本研究の説明事項を理解し、調査・研究に参加することに同意いただけたものとみなします。アンケートを記入する際に何かご不明な点がございましたら、遠慮なくメールでご連絡ください。最後に、アンケートにご協力いただくことに改めて心より御礼申し上げます。

皆様が健康で何事も思う通りに行きますように！

北海道大学大学院　国際広報メディア・観光学院　観光創造専攻　修士課程
指導教員：臼井冬彦　教授
院　　生：馮 惠 芸　　敬具
E-mail：baileyfeng@hotmail.com

**基本情報**

性別　　□　男　・　□　女

現在年齢　＿＿＿＿＿＿　歳　（ 当時年齢　＿＿＿＿＿＿　歳 ）

ワーキング・ホリデー期間　＿＿＿＿＿　ヶ月　（ 例：12 ヶ月 ）

主な居住地（1 ヶ月以上滞在した場所、複数ある場合は全てご記入ください）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ワーキング・ホリデーに参加した理由（複数回答可）

□　異国で長期旅行ができる　□　異国生活を体験できる　□　異国で合法的にバイトできる

□　異国の自然文化を深く体験できる　□　異国の言語を学べる　□　将来の競争力を上げられる

□　国際的視野を身につけられる　□　海外留学を計画している　□　海外就職を計画している

□　ガイドブックに影響された　□　親戚友人に薦められた　□　新しい友達を作ることができる

□　現在の生活から離れられる　□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

協定国の中から日本を選んだ理由（複数回答可）

□　台湾に近い　□　美しい自然景観がある　□　伝統文化に興味がある　□　流行文化に興味がある

□　歴史に興味がある　□　日本語に興味がある　□　日本に留学したい　□　日本で働きたい

□　治安・環境が良い　□　人々が親切　□　食べ物が多様で美味しい　□　親戚友人が日本にいる

□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

他の国へワーキング・ホリデーに行ったことがありますか？

□　はい　□　いいえ

「はい」の方は、行った国及び滞在期間をお教えください　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

他の国へワーキング・ホリデーに行く予定がありますか？

□　はい　□　いいえ

「はい」の方は、行く予定の国及び滞在期間をお教えください　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**【活動開始前】**

渡日前に準備した資金　約　＿＿＿＿＿＿　万円

渡日前の情報（行き先を決めるための情報を含む）獲得手段（複数回答可）

□　親戚友人　□　ガイドブック　□　新聞雑誌　□　ワーキング・ホリデーに関する専門書

□　ブログ　（ ブログ名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　フェイスブックグループ　（ グループ名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　フォーラムサイト　（ フォーラム名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　BBS 掲示板　（ 掲示板名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　その他　（ 具体的に　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

渡日航空券の入手手段

□　自分で購入　□　旅行会社に依頼　□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

住居探し

□　不動産仲介業者に依頼　□　親戚友人の紹介　□　学校の紹介　□　その他　（ ＿＿＿＿＿ ）

語学学校探し

□　自分で申請　□　留学エージェンシーに依頼　□　親戚友人の紹介　□　その他　（ ＿＿＿ ）

アルバイト探し（複数回答可）

□　日本の人材紹介会社に登録　□　職業紹介所に行く　□　親戚友人の紹介

□　フェイスブックグループ上の書き込み　（ グループ名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　フォーラムサイト上の書き込み　（ フォーラム名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　BBS 掲示板上の書き込み　（ 掲示板名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

**【活動期間中】**

**収入について**

アルバイトをしましたか？

□　はい　□　いいえ

「はい」の方、合計何ヶ月アルバイトしましたか？　約　＿＿＿＿＿＿　ヶ月

「はい」の方、1 ヶ月の平均アルバイト時間数　約　＿＿＿＿＿＿　時間

「はい」の方、1 ヶ月のアルバイト平均収入　約　＿＿＿＿＿＿　万円

**支出について**

1 ヶ月の平均生活費用　約　＿＿＿＿＿＿　万円

内訳　　家賃　＿＿＿＿＿＿　％

維持費（水道代、光熱費、通話・通信料など）　＿＿＿＿＿＿　％

生活費（食事代、洋服代、交通費など）　＿＿＿＿＿＿　％
旅行費（移動、宿泊、遊興、お土産など）　＿＿＿＿＿＿　％
学習費（日本語などの語学）　＿＿＿＿＿＿　％
体験費（茶道、花道などの伝統芸能）　＿＿＿＿＿＿　％
交際費（友人との食事会など）　＿＿＿＿＿＿　％
その他　＿＿＿＿＿＿　％

**行動について**

1ヶ月の平均旅行（日帰りも含む）日数　約　＿＿＿＿＿＿　日
旅行で訪れた都道府県数　約　＿＿＿＿＿＿　都道府県
1ヶ月に交流会や食事会などへの平均参加回数　約　＿＿＿＿＿＿　回
集会の主な開催場所
☐　居酒屋　☐　レストラン　☐　自宅　☐　友人宅　☐　その他　（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
ワーキング・ホリデーの活動期間中、インターネットを通じてワーキング・ホリデーに関する情報（写真のアップロード、気持ちの綴り、感想のシェア、ブログの更新等）を発信していましたか？
☐　はい　☐　いいえ
「はい」の方、主にどこを通じて情報を発信していましたか？（複数回答可）
☐　個人ブログ
☐　個人フェイスブックページ
☐　フェイスブックグループ　（ グループ名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
☐　フォーラムサイト　（ フォーラム名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
☐　BBS 掲示板　（ 掲示板名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
☐　その他　（ 具体的に　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
「はい」の方、主にどんな情報を発信していました？（複数回答可）
☐　写真　☐　感想　☐　日記　☐　気持ち　☐　バイト情報　☐　部屋探し情報　☐　旅行情報
☐　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
「はい」の方、どのぐらいの頻度で発信していましたか？
☐　毎日　☐　2～3 日に 1 回　☐　4～5 日に 1 回　☐　1 週間に 1 回　☐　1 ヶ月に 1 回
☐　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

**【活動終了後】**

**行動について**

ワーキング・ホリデーの活動終了後、インターネットを通じてワーキング・ホリデーに関する情報（写真のアップロード、気持ちの綴り、感想のシェア、ブログの更新等）を発信していましたか？
☐　はい　☐　いいえ
「はい」の方、主にどこを通じて情報を発信していましたか？（複数回答可）
☐　個人ブログ
☐　個人フェイスブックページ
☐　フェイスブックグループ　（ グループ名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
☐　フォーラムサイト　（ フォーラム名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
☐　BBS 掲示板　（ 掲示板名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

□　その他　（ 具体的に ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

「はい」の方、主にどんな情報を発信していました？（複数回答可）

□　写真　□　感想　□　日記　□　気持ち　□　バイト情報　□　部屋探し情報　□　旅行情報

□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

「はい」の方、どのぐらいの頻度で発信していましたか？

□　毎日　□　2～3 日に 1 回　□　4～5 日に 1 回　□　1 週間に 1 回　□　1 ヶ月に 1 回

□　その他　（ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）

**感想について**

今回のワーキング・ホリデーに満足しましたか？

□　満足した　□　まあまあ満足した　□　普通　□　あまり満足しなかった　□　満足しなかった

理由を簡単にお教えください ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日本或いは日本人に対する印象は変わりましたか？

□　はい、良くなった　□　はい、悪くなった　□　いいえ、変わっていない

理由を簡単にお教えください ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

日本を再訪（留学、旅行等形式不問）したいと思いますか？

□　はい　□　いいえ

日本に行くこと（ワーキング・ホリデー、旅行等形式不問）を周りの親戚友人にお薦めしますか？

□　はい　□　いいえ

理由を簡単にお教えください ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今後の改善に向けて、以下のことについてお教えください。

大変だったこと（住居探しなど）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

あれば良いと思うこと（アルバイトの斡旋など）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

その他感想や意見・アドバイスがあれば、自由にご記入ください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

アンケートは以上で終わります。ご協力ありがとうございました！研究上の必要に応じてインタビュー調査を行う可能性もあります。引続きご協力をいただける方がいらっしゃいましたら、お名前（インターネット上のハンドルネームでも可）と連絡方法（E-mail）をご記入ください。後日またご連絡差し上げます。宜しくお願い致します！

お名前（インターネット上のハンドルネームでも可） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡方法（E-mail） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

## 付録 3　インタビュー質問項目（繁体中国語版）

| 訪談提問項目 | 第 3 章對照項目 | 第 4 章對照項目 |
|---|---|---|
| 當時想去日本打工度假的契機為何？ | 3.1（5）、（5） | 4.1（1） |
| 為何會選擇以「打工度假」的形式去日本？<br>（認為打工度假與一般的觀光旅遊有何不同？） | 3.1（4）、（5） | 4.1（2） |
| 行前對打工度假抱持的期待或目標為何？ | 3.1（4）、（5） | 4.1（3） |
| 選擇前往地區的理由為何？有無其他候補的地區？ | 3.1（3） | 4.1（4） |
| 當時從事的是什麼樣內容的打工？ | 3.3（1） | 4.2（1） |
| 打工期間取得休假的方式、情形如何？ | 3.3（3） | 4.2（1） |
| 當時出遊時採取的是什麼樣的旅遊形態？ | 3.3（3） | 4.2（2） |
| 當時和日本人或台湾人等的交流情況如何？ | 3.3（4） | 4.2（3） |
| 若再有多一些時間，會做什麼樣的運用？ | 3.3（1）～（4） | 4.2（4） |
| 發布訊息的部分具體來說是發布什麼樣的形式、內容？ | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（1） |
| 在自己的臉書和自己的部落格發布的訊息內容有何不同？ | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（2） |
| 為何會想發布與 WH 相關的訊息？（是否為自主性的行為？） | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（1） |
| 看了發布的訊息以後，周圍的人有什麼樣的反應、回應？ | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（4） |
| 認為發布的訊息是否會對周圍的人產生影響？<br>若會，是什麼樣的影響？ | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（4） |
| 是否會在臉書社團或論壇上投稿，或是回答別人提出的問題？<br>（若不會，其原因為何？） | 3.3（5）、3.4（1） | 4.3（3） |
| （訊息發布頻率降低者）為何頻率降低了？ | 3.4（1） | 4.3（1） |
| 認為這 1 年是否符合自己的期望？最大的收穫為何？ | 3.4（2） | 4.4（1） |
| 打工度假前對日本或日本人的印象為何？ | 3.4（3） | 4.4（2） |
| （印象改變者）印象改變的理由為何？ | 3.4（3） | 4.4（2） |
| 打工度假前是否曾去日本旅遊過？<br>打工度假後是否有去日本旅遊？今後是否有去日本旅遊的計劃？ | 3.4（4） | 4.4（3） |
| 打工度假期間是否有感到困難或不便，或是覺得辛苦的地方？ | 3.4（5） | 4.4（4） |
| 覺得今後若能改善或增加會更好的部分為何？ | 3.4（5） | 4.4（4） |

## 付録 4　インタビュー質問項目（日本語版）

| インタビュー質問項目 | 第 3 章対応項目 | 第 4 章対応項目 |
|---|---|---|
| 日本へ WH に行こうと思ったきっかけは何か？ | 3.1（5)、(5) | 4.1（1) |
| なぜ「WH」で日本に行こうと思ったか？<br>（WH と一般の観光旅行とどう違うか？） | 3.1（4)、(5) | 4.1（2) |
| WH に対する期待或いは目標は何か？ | 3.1（4)、(5) | 4.1（3) |
| 行き先を選定した理由は何か？他に候補としたところはあるか？ | 3.1（3) | 4.1（4) |
| どのようなアルバイトをしていたか？ | 3.3（1) | 4.2（1) |
| アルバイト期間の休暇取得状況はどのようなものか？ | 3.3（3) | 4.2（1) |
| どのような旅行形態を取っていたか？ | 3.3（3) | 4.2（2) |
| 日本人や台湾人などとはどのように交流していたか？ | 3.3（4) | 4.2（3) |
| もう少し時間があれば、何に利用するか？ | 3.3（1）～（4) | 4.2（4) |
| 具体的にどのような情報を発信していたか？ | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（1) |
| 個人フェイスブックページと個人ブログに発信した内容はどう違うか？ | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（2) |
| なぜ WH に関する情報を発信したいのか？（自主的な行為なのか？） | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（1) |
| 発信した情報を見て周囲の人はどう反応したか？ | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（4) |
| 発信した情報は周囲の人に何らかの影響を与えていると思うか？<br>どのような影響か？ | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（4) |
| フェイスブックグループやフォーラムサイトなどに自ら投稿する、または<br>書き込まれた質問に返答するか？（しない場合はなぜか？） | 3.3（5)、3.4（1) | 4.3（3) |
| （発信頻度が低くなった方のみ）なぜ頻度を減らしたのか？ | 3.4（1) | 4.3（1) |
| 自分の期待に合った 1 年だったか？最も得たものは何か？ | 3.4（2) | 4.4（1) |
| WH 前に日本または日本人に対する印象はどのようなものだったか？ | 3.4（3) | 4.4（2) |
| （印象が変わった方のみ）印象が変わった理由は何か？ | 3.4（3) | 4.4（2) |
| WH 前、日本へ旅行に行ったことがあるか？<br>WH 後、日本へ旅行に行ったか？今後日本へ旅行に行く計画はあるか？ | 3.4（4) | 4.4（3) |
| WH 期間中に困難や不便に思ったことや大変だったことはあるか？ | 3.4（5) | 4.4（4) |
| 今後改善できればまたはあれば良いと思うことは何か？ | 3.4（5) | 4.4（4) |

## 付録 5　インタビュー同意書（繁体中国語版）

親愛的受訪者，您好：

首先感謝您百忙之中撥冗接受訪談。

本訪談將以先前您填寫之問卷的回答為基礎，進一步了解您打工度假時的各種經驗，目的亦與先前您填寫之問卷相同，在於了解您打工度假過程中的旅遊行為與消費行為，以及透過網路獲取資訊與發布訊息的情況，藉以分析打工度假制度潛在的觀光價值。

訪談時間大約 1～2 小時，為了方便資料的後續整理與分析，訪談過程將會全程錄音，錄音內容僅供學術分析用並會予以保密，於論文中呈現資料時亦會以匿名方式處理，故請安心分享您的經驗與想法。

在您簽署本訪談同意書後，即視為您了解本研究之說明事項並同意參與此調查研究。若您在接受訪談時有任何疑慮，歡迎隨時提出。萬分感謝您的協助，敬祝您

身體健康、萬事如意！

北海道大學研究所　國際傳播媒體・觀光學院　觀光創造專攻　碩士課程

指導教授：臼井冬彥

研 究 生：馮 惠 芸　　敬上

E-mail：baileyfeng@hotmail.com

本人願意接受北海道大學馮惠芸同學「打工度假制度之潛在觀光價值」研究的訪談，並同意該生於論文中以匿名方式引用本人於訪談中提供的經驗分享與其他相關資訊。同時，亦同意該生於訪談過程中全程錄音。

受訪者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（簽名）

研究者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（簽名）

日　期：　　年　　月　　日

## 付録６　インタビュー同意書（日本語版）

インタビューイーの皆様

お忙しい中、インタビューに応じていただき、ありがとうございます。

本インタビューは、以前皆様がアンケートに回答していただいた内容を基に、当時の各種経験をより深く伺うために行うものです。アンケートと同様、皆様がワーキング・ホリデーの参加期間中に起こした旅行活動や消費活動、及びインターネットを通した情報獲得や発信状況を把握し、ワーキング・ホリデー制度の潜在的な観光的価値を探求することを目的としております。

インタビューの所要時間は約 1～2 時間です。データの後処理及び分析のために、インタビューは録音されます。なお、その内容は学術的な分析以外には使用せず、守秘義務も厳守致します。また、論文に引用する場合は匿名で処理致しますので、安心してご回答ください。

本同意書にサインしていただくことにより、本研究の説明事項を理解し、調査・研究に参加することに同意いただけたものとみなします。インタビューを受けている際に何かご不明な点がございましたら、遠慮なくお知らせください。最後に、インタビューに応じていただくことに改めて心より御礼申し上げます。

皆様が健康で何事も思う通りに行きますように！

北海道大学大学院　国際広報メディア・観光学院　観光創造専攻　修士課程
指導教員：臼井冬彦　教授
院　　生：馮 惠 芸　　敬具
E-mail：baileyfeng@hotmail.com

私は、北海道大学馮惠芸さんの研究「ワーキング・ホリデー制度の潜在的な観光的価値」に関するインタビューに応じ、インタビューで提示した内容やその他情報を匿名で論文に掲載することに同意します。また、インタビューの録音も承認します。

インタビューイー：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（署名）

インタビューワー：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（署名）

日　付　：　　年　　月　　日

## 付録７　日台ワーキング・ホリデー査証案内

２００９年４月３日、日本と台湾の青少年がお互いの文化及び一般的な生活様式を理解することを目的としたワーキング・ホリデー制度の導入が発表されました。

２０１３年の年間発給数の上限は２０００名となっております。

なお、過去にワーキング・ホリデー査証の発給を受けている場合は、再度申請しても発給の対象とはなりません。

### １　ワーキング・ホリデーとは

日本と台湾の取決めにより、台湾居住者である青少年に対して、日本の文化や一般的な生活様式を理解する機会を提供するため、日本において最長１年間の休暇を過ごす活動とその間の滞在費・旅行資金を補うための就労を認める制度です。

※注意

**・就労を目的とした査証ではありません。（就労はあくまで休暇の付属的な活動として認められます。）**

**・バー、スナック、キャバレー等の風俗営業または性風俗特殊営業が営まれている営業所での就労は認められません。**

**・インターンシップは、大学生等が教育課程の一部として日本の公私の機関の業務に従事する活動であり、別の査証取得が必要です。ワーキング・ホリデーとは制度の趣旨が異なりますので、発給の対象とはなりません。**

### ２　発給対象

①　ワーキング・ホリデー査証申請時に台湾の居住者であること。

②　ワーキング・ホリデー査証の申請時の年齢が１８歳以上３０歳以下であること。
　各申請期間の申請対象者（下記４（５）を参考ください）

③　一年を超えない期間、日本において主として休暇を過ごす意図を有すること。
　上記１の注意書きを参考ください。

④　以前にワーキング・ホリデー査証の発給を受けていないこと。

⑤　被扶養者を同伴しないこと。（当該被扶養者に査証が発給されている場合を除く）

⑥　有効な台湾護照（身分証番号の記載のあるもの）を所持すること。

⑦　台湾に戻るための旅行切符又はこのような切符を購入するための十分な資金を所持していること。

⑧　日本国における滞在の当初の期間に生計を維持するための十分な資金を所持していること。

⑨　健康であり、健全な経歴を有し、かつ犯罪歴を有しないこと。

⑩　日本国における滞在中に死亡し、負傷し又は疾病に罹患した場合における保険に加入していること。

### ３　発給する査証

（１）　査証の有効期間は１年間です。（各期の交付期間第１日目から起算）

（２）　査証の有効期間内に日本へ到着し入国審査官から上陸許可を受ければ、その時点から１年間の日本滞在が認められます。

（３）　査証の有効期間の延長はできません。有効期間内に入国できない場合、査証は効力を失います。

### ４　申請手続

（１）　申請方法

希望者本人が、必要書類を直接窓口に提出して申請してください。

※代理人による申請、郵送による申請は受理いたしません。

（２）　申請場所

（財）交流協会台北事務所　　所在地はこちら

（財）交流協会高雄事務所　　所在地はこちら

（３）　申請期間

前期　２０１３年　５月　６日（月）～　５月１０日（金）

後期　２０１３年１１月　４日（月）～１１月　８日（金）

（４）　申請受付時間

午前　９時１５分から１１時３０分

午後　１時４５分から　４時００分

※時間外の受付は一切認められません。

（５）　申請対象者

前期　１９８２年　５月　７日～１９９５年　５月１０日生まれの方

２０１３年　６月１７日から１年以内に、ワーキング・ホリデーを行なう目的で訪日を予定している方。

後期　１９８２年１１月　５日～１９９５年１１月　８日生まれの方

２０１３年１２月１６日から１年以内に、ワーキング・ホリデーを行う目的で訪日を予定している方。

（６）　申請書類

別途ホームページをご覧ください。（付録 8～12 をご参照ください）

**※注意（重要）**

**・申請期間は、多数の方の来所による混乱をさけるため、玄関ホール内への入場制限を行う可能性があります。現場係員の指示に従ってください。**

**・一度に多数の方が来所された場合、処理を行う都合上、１日の受付人員を制限する可能性が生じます。その場合、受付時間内であっても申請受理を行うことができませんので、ご了承ください。**

## 5　審査方法

（１）　申請を受け付けた全件について、厳正な審査を行います。

（２）　発給数を超える申請が行われた場合には、ワーキング・ホリデー制度の目的、発給の要件に最も適している方を選出します。

（３）　審査担当官が必要と判断した場合、面接を実施することがあります。

（４）　審査の基準、理由等については一切お答えできませんのでご理解お願いします。

（５）　一回の申請期間につき、同一人からの複数の申請（台北・高雄両事務所への申請を含む）は全て無効とします。

## 6　結果発表

（１）　発表期日

前期　２０１３年　６月１４日　午前１０時

後期　２０１３年１２月１３日　午前１０時

（２）　発表方法

審査結果については、許可となった方の受理番号（申請受理時に受理票に押印した番号）を当交流協会ホームページ及び台北･高雄各事務所入口に通知いたします。

申請をした各事務所のホームページ及び事務所入口でご確認ください。

**※注意**

**・発表は、申請受理時にお渡しする受理票記載の番号で行います。**

**受理票を紛失されますと、結果を確認することができなくなりますので、紛失にはくれぐれもご注意ねがいます。**

**・結果について、電話、窓口等でのお問い合わせには応じられません。**

## 7　査証交付手続き

（１）　交付期間

２０１２年申請分

前期　２０１２年　６月１８日（月）～２０１３年　６月１８日（火）

後期　２０１２年１２月１７日（月）～２０１３年１２月１７日（火）

２０１３年申請分

前期　２０１３年　６月１７日（月）～２０１４年　６月１７日（火）

後期　２０１３年１２月１６日（月）～２０１４年１２月１６日（火）

（２）　必要書類等

別途ホームページをご覧ください。

**※注意（重要）**

**・上記交付期間後の交付は行いませんのでご注意願います。**

**・上記交付期間内に査証を交付されない場合は、辞退したものと見なし、許可を無効とします。**

**・受理票を紛失された方は、査証交付ができませんので、紛失にご注意ください。**

**※注意（重要）**

**・各交付期間は、各期毎の査証の有効期間となっています。**

**査証の有効期間内に日本に入国できない場合、査証は効力を失います。**

## 8　入国後の生活指南

（１）　就労について

ワーキング・ホリデー制度では、日本において最長１年間の休暇を過ごす活動とその間の滞在費・旅行資金を補うための就労が認められています。

しかし、バー、スナック、キャバレー等の風俗営業または性風俗特殊営業が営まれている営業所での就労は認められていません。

違反した場合、警察逮捕、日本からの強制送還となる可能性もあり、以後の来日に際して入国が制限される場合もありますので、十分注意願います。

（２）　在留管理制度について

２０１２年７月９日より新しい在留管理制度が始まりました。

＜成田空港・羽田空港・中部空港及び関西空港から入国する場合＞

入国審査官が旅券上に上陸許可の証印をするとともに、在留カードが発行されるので、住所確定後１４日以内に居住地の市区町村役所へ在留カードを提出して住所の届出をしてください。

＜その他の空港から入国する場合＞

入国審査官が旅券上に 上陸許可 の証印をし、その脇に「在留カード後日交付」と記載されるので、住所確定後１４日以内に居住地の市区町村役所へ住所の届出をしてください。在留カード作成後、入国管理局から居住地に郵送されます。

また、新しい在留管理制度の実施に伴い、在留期間内において再入国許可を取得することなく自由に出入国をすることが可能になりました（これを「みなし再入国」という）。ただし、空港での出入国審査時に必ずみなし再入国である旨申し出る必要があります。

みなし再入国である旨申し出ないで出国した場合、ワーキングホリデーの在留資格は消滅します。

手続き等に関しては居住地を管轄する入国管理局へお問い合わせください。

新しい在留管理制度については以下を参照してください。

→http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/index.html

（３） 生活情報

日本で生活をする外国人のため最低限必要な情報を案内しています。

日本で生活を始めることを予定している皆様へ（外務省ホームページ）

→ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/visa/pdfs/seikatsu_guide_jpn.pdf（日本語）

→ http://www.mofa.go.jp/j_info/visit/visa/pdfs/guide_living_en.pdf（英語）

## ９ 支援機関

日本におけるワーキング・ホリデー制度の支援機関として、社団法人日本ワーキング・ホリデー協会を紹介していましたが、同協会については、２０１０年６月から新規受付業務を停止し、７月末日以降解散することが決定しました。

日本での生活情報に関する情報については、その問合せ窓口に関する情報等を、今後当所ホームページ「ワーキング・ホリデーQ&A」にて掲載していく予定です。

なお、生活情報に関する情報は、上記「８ 入国後の生活指南」も参考ください。

## １０ アンケート調査

査証発給時にアンケート用紙をお配りしますので、ワーキング・ホリデー制度を利用して台湾に戻った後に、必要事項を記入の上、査証発給を受けた各事務所にメール、郵送等により提出してください。

## １１ その他

この案内は必要に応じて更新することがあります。

ワーキング・ホリデー査証申請、査証の受領等の際には、必ず当事務所の公式ホームページで最新情報を確認して下さい。

また、Ｑ＆Ａも必ずお読みください。

## 付録８　査証申請書（繁体中国語）

# 赴日簽證申請表

| 此空白處僅供官方使用 |
|---|

| （照片黏貼處）<br>約 4.5 釐米×4.5 釐米<br>或 2 英吋×2 英吋 |
|---|

姓（請按護照填寫）（英文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（中文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

名（請按護照填寫）（英文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（中文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

舊名／別號（如有）（英文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（中文）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

出生日期＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　出生地點＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（年）／（月）／（日）　　（省）　　（市）

性別：　男　☐　女　☐　　婚姻狀況：單身　☐　已婚　☐　喪偶　☐　離婚　☐

國籍（或公民身份）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

曾有的或另有的國籍（或公民身份）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

身份證號碼＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

護照類別：外交　☐　公務　☐　普通　☐　其他　☐

護照號碼＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

簽發地點＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　簽發日期＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（年）／（月）／（日）

簽發機關＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　有效日期＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（年）／（月）／（日）

赴日目的＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

預定在日逗留日期＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿～＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

預定在日逗留期間＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿天

入境地點＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　船舶或航空公司名稱＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申請人在日擬入住的酒店／旅館名稱或友人姓名地址

酒店／旅館名稱或友人姓名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　電話＿＿＿＿＿＿＿＿

地址＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上次赴日之日期及停留期間＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

現在（通訊）地址（如有多處居住地，請全部寫上）

住址＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　手機＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

工作單位名稱及地址

名稱＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　電話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

地址＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

目前的職位＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＊配偶所從事的職業（如果申請人是未成年人，請填寫父母的職業）

_____

在日保證人（請填寫保證人的詳細內容）

姓名_____ 電話_____

地址_____

出生日期_____ 性別 男 □ 女 □

與申請人的關係_____

職業和職務_____

國籍（或公民身份）及簽證種類_____

在日邀請人（如保證人和邀請人是同一個人，請寫「同上」）

姓名_____ 電話_____

地址_____

出生日期_____ 性別 男 □ 女 □

與申請人的關係_____

職業和職務_____

國籍（或公民身份）及簽證種類_____

*備註／其他需特殊聲明的事項（如有）_____

是否：

●在任何國家被判決有罪？ 是 □ 否 □

●在任何國家曾被判處一年或一年以上徒刑？** 是 □ 否 □

●在任何國家因非法滯留或違反該國法律法規而被驅逐出境？ 是 □ 否 □

●因違反任何國家關於取締毒品、大麻、鴉片、興奮劑或精神藥物的法律法規被判刑？** 是 □ 否 □

●從事賣淫活動或曾為賣淫仲介、拉客或曾為賣淫或其他與賣淫有直接聯繫的活動提供場所？ 是 □ 否 □

●有過販賣人口的經歷或教唆或協助他人從事販賣人口的活動？ 是 □ 否 □

**若您曾被判刑，即使該刑罰為緩期執行，請選擇「是」

若以上問題的回答中有「是」的，請說明具體情況。

_____

_____

本人特此聲明：上述填寫內容真實且無誤。本人了解入境身份及在日停留期限將在入境日本時由日本入國管理局決定。本人知悉，簽證並非授予持有者進入日本的權利，如果簽證持有者在到達機場／港口時被發現屬於不允許入境的情況，亦無權進入日本。

本人特此同意：我（通過指定的且有簽證代辦權的旅行社）像日本使館／總領館／交流協會提交個人資料。以及當需要支付簽證費時，（委託代辦機構）向日本使館／總領館／交流協會支付簽證費。

申請日期_____ 申請人簽名_____

（年）／（月）／（日）

*可不填寫

簽證申請中提交的任何個人資料以及追加文件所涉及的個人資料（以下簡稱「保留的個人資料」）將依照行政機關保護個人資料法（第 58 號法案，2003，以下簡稱「該法」），被適當的處理。保留的個人資料僅會被用做處理簽證申請的目的以及該法中第八款所認定的必要目的範圍之內。

（H24.05 改訂）

## 付録 9　履歴書（繁体中国語）

年　　月　　日

# 履歷書

○申請者姓名　　性別　　年齡（滿）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　男 □ ・ 女 □　　＿＿＿＿＿

生年月日（請填西元年）　　出身地

＿＿＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日　　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○学歷（請填寫高中以上）

学校名稱・科系現在的狀況

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　畢　業 □ 休　學 □
在學中 □ 肄　業 □

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　畢　業 □ 休　學 □
在學中 □ 肄　業 □

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　畢　業 □ 休　學 □
在學中 □ 肄　業 □

○工作經歷

期間　　公司名稱

＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○是否去過日本

（若有，請註明停留期間、赴日目的、住宿地點）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○是否曾申請日本打工度假簽證

有　□　、　無　□

回答「有」者，請註明次數

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿次

回答「有」者，請註明何時曾提出申請

＿＿＿＿＿年＿＿＿＿＿月

＿＿＿＿＿年＿＿＿＿＿月

＿＿＿＿＿年＿＿＿＿＿月

○特殊能力（日本語能力檢定、日本文化或技藝方面）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

## 付録 10　調査票（繁体中国語）

關於以下的問題，請確實的回答
（若答案為「其他」，請於（　　）內具體說明）

1. 是否已詳讀「日台打工度假制度」的說明？
   ☐ 是　☐ 否

2. 是否已了解並同意「日台打工度假制度」的宗旨及相關打工的限制？
   ☐ 是　☐ 否

3. 您主要的赴日目的為何？
   ☐ 觀光　☐ 體驗異國文化
   ☐ 打工　☐ 其他（　　）

4. 赴日後是否已預定會打工？
   ☐ 是　☐ 否

5. （問題 4 回答「是」者），您是否已決定打工的地方？
   ☐ 是　☐ 否

6. （問題 5 回答「是」者），您是透過下列何種方式找到打工的機會？
   ☐ 友人介紹
   ☐ 報紙、雜誌、網路的資訊（請具體說明：　　）
   ☐ 透過台灣國內業者介紹
   ☐ 其他（　　）

7. （問題 5 回答「否」者），若需要打工，您會利用下列何種方式找尋打工機會？
   ☐ 友人介紹
   ☐ 報紙、雜誌、網路的資訊（請具體說明：　　）
   ☐ 其他（　　）

年　　月　　日

申請人簽名

# 日台打工度假制度

1. 制度的概要與宗旨

此乃基於日台間的協議,為提供台灣青年能有體驗日本文化及日常生活方式之機會，認可其在度假期間，為補旅費之不足，而從事打工活動的一種制度。

2. 對居住在台灣之居民打工度假簽證之發給要件

日本在制定發給範圍內（一年 2000 件），對於符合以下要件之台灣居民,發給可停留一年，單次入境之打工度假簽證。

① 居住在台灣之居民。

② 持有有效之台灣護照（載有身分證字號）

③ 在不超過一年之期間內，以度假為主要目的而停留在日本。

④ 申請簽證時之年齡介於 18 歲以上 30 歲以下。

⑤ 無被扶養者同行。

⑥ 持有返回台灣之交通票券，或有足夠經費購買該票券。

⑦ 持有足以維持停留日本最初期間之生活所需費用。

⑧ 身體健康，資歷健全且無犯罪紀錄。

⑨ 已加入有足夠之海外旅遊保險者。

⑩ 過去未曾取得此種日本簽證。

3. 申請手續

必須向在台之交流協會台北事務所或高雄事務所提出申請。

4. 關於打工等

日本對於持有打工度假簽證者，認可其最長可停留一年之在日度假期間，為補旅費之不足而從事有報酬之打工活動。但不可從事風化行業等違反打工度假制度目的之工作。

5. 其他

訪日之外國人，居留期間超過 90 日以上者，必須向居住當地之市區町村役所辦理外國人登錄。

## 付録 11　理由書（WH 制度を利用したい理由）

| |
|---|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

付録 12　計画書（日本に入国後に何をしたいか）

付録 13　（交流協会による）アンケート調査票（繁体中国語）

# 打工度假簽證問卷調查表

○　性別・年齡

男・女　　＿＿＿＿＿歲

○　學歷

a　大學（在學中・休學・畢業）

b　高中畢業

c　其他（　　）

## Ⅰ【概要】

1　您對於這次的赴日打工度假，有何感想？

a　好

b　還好

c　普通

d　不太好

e　不好

2　您在日本總計停留多久？

a　不滿 3 個月

b　3～6 個月

c　6～9 個月

d　9 個月以上

## Ⅱ【事前準備方面】

1　赴日前，對於在日本的生活，您曾有什麼樣的憂慮嗎？

a　沒有什麼特別憂慮的

b　居住方面

c　工作方面

d　溝通能力

e　生活費方面

f　其他（　　）

2　赴日前，您是如何收集生活上的必要資訊的？

a　沒有特別收集什麼資訊

b　有要收集，但無法取得必要的資訊

c　親友提供

d　報紙･雜誌･網路

e　直接連絡

f　其他（　　）

Ⅲ【居住方面】

1　在日停留期間，您主要的生活地區是：

_____

2　在日停留期間，您停留超過 1 個月以上的地方有幾個？

a　1 個

b　2 個

c　3 個

d　4 個以上

3　您在日本的居住場所是：

a　公寓

b　親戚家

c　友人家

d　學校宿舍

e　短期出租公寓（例如：Leopalace 21 等）

f　其他（　　）

4　您是如何找到居住場所的？

a　不動產公司仲介

b　親戚介紹

c　友人介紹

d　學校介紹

f　其他（　　）

Ⅳ【旅行方面】

1　您在日本國內旅行，總計約多少時間？

約_____個月

2　與誰一起旅行？

a　自己一個人

b　與台灣籍友人

c　與日本籍友人

d　其他（　　）

Ⅴ【打工方面】

1　在日停留期間，您是否有從事打工活動？

a　有（請繼續回答以下 2～7 號題）

b　無

2　您曾在幾個地方打工？

a　1 個

b　2 個

c　3 個

d　4 個以上

3　您主要從事何種打工活動？

a　餐廳（速食店·中華料理店等）服務人員

b　超市·一般商店店員

c　飯店·旅館服務人員

d　工廠作業員

e　公司事務員

f　外語教師

g　其他（　　）

4　您從事的打工活動中，持續最久的一次是多久？

a　3 個月以內

b　3～6 個月

c　6～9 個月

d　9 個月以上

5　您一個月的酬勞大約是多少？

a　3 萬日幣以下

b　3 萬～6 萬日幣

c　6 萬～12 萬日幣

d　12 萬～15 萬日幣

e　15 萬日幣以上（約_____日幣）

6　您平均一星期的打工時數是多久？

a　20 小時以內

b　20～30 小時

c　30～40 小時

d　40 小時以上

7　您是如何找到打工機會的？

a　日本打工度假協會介紹

b　親戚介紹

c　友人介紹

d　學校介紹

e　自己去應徵

f　報章雜誌、網路的訊息

g　其他（　　）

**Ⅵ【日語學習方面】**

1　赴日前您的日語能力如何？

a　電視劇，新聞的內容大致能了解，工作上也沒有問題

b　電視劇看不太懂，但日常會話可以

c　只會打招呼的程度

e　完全不會

2　打工度假期間，您有去學習日語嗎？

a　有（請繼續回答３號題）

b　無

3　在日停留期間，您是如何學習日語的？

a　語言學校（約_____個月 ）

b　義工團體設立的日語教室

c　跟親戚、友人學習

d　其他（　　）

4　日語以外，您是否曾學過其他日本文化方面的技能（例：茶道等）？若有，請列舉：

_____

**Ⅶ【其他】**

1　在日停留期間，您是否有交到台灣籍以外的朋友？

a　很多（10 位以上）

b　有一些（5～9 位）

c　很少（1～4 位）

d　完全沒有

2　在日停留期間，有遭遇到困難或重大事故嗎？

a　有（請繼續回答 3 號題）

b　無

3　是什麼樣的困難或事故呢？（可複選）

a　居住方面

b　打工方面

c　生病･受傷

d　遭竊

e　交通事故

f　其他（　　）

4　在日停留期間，有讓您個人感到困擾的地方嗎？

a　有（請繼續回答５號題）

b　無

5　是什麼樣的困擾呢？（可複選）

a　與日本人之間的溝通

b　生活費用高

c　生活習慣･文化上的差異

d　求職方面

e　生活相關資訊的取得

f　其他（　　）

6　您平均一個月的生活費（房租除外）大約是多少？

a　3 萬日幣以下

b　3 萬～6 萬日幣

c　6 萬～9 萬日幣

d　9 萬～12 萬日幣

e　12 萬日幣以上

7　赴日前，您準備了多少旅費以供在日停留之所需？（赴日時攜帶的金額與赴日後匯款之合計）

a　8 萬台幣以下

b　8 萬～16 萬台幣

c　16 萬～32 萬台幣

d　32 萬～64 萬台幣

e　64 萬台幣以上

8　您是否因此次赴日打工度假，而對日本及日本人的印象有所改變？

a　沒變

b　有改變

①　印象變好（理由：　　）

②　印象變不好（理由：　　）

**Ⅷ【感想與建議】**

請寫出您在日本生活的感想及對打工度假制度的期待或建議。（可以用中文書寫，但因為是給日籍職員看的，用字遣詞請盡量淺顯易懂。）

謝謝您的協助。

# Abstract

Due to its wide range of economic ripple effects, tourism seems to be regarded as a major growth industry in Japan. Japanese government tries hard not only to promote domestic tourism, but also to expand inbound tourism, by organizing "Visit Japan Campaign". When dealing with the word "tourists", it usually means people who take a short stay for tourism or leisure activities. Working holiday makers (abbreviate as WHMs below), however, who take medium and long term stay, are not included at all.

WHMs are the people who participate in "working holiday" (abbreviate as WH below) programs by using a special visa to travel overseas and staying in a country for a certain period of time to experience "travel" and "work" at the same time. Through their WH experiences, they might join some tourist activities or consumption activities in the country where they stay, and might be affected by the cultures of that country. The impact of the experiences is not only on the participants themselves but also on other people through the participants' actions of disseminating the information about their experiences.

In this research, I would like to focus on the characteristics of WHMs and take Taiwanese WHMs with experiences in Japan in particular as the research object, and try to clarify the patterns of consumption activities and tourist activities during their stay, and actions they took to disseminate information about their experiences. By elucidating these, this reseach can reveal the tourism values of WH programs, present the direction of practical ways of inbound tourism promotions and improvements of the systems for accepting more WHMs. At the same time, this can become a reference for understanding the issues of inbound tourism and strengthening bilateral exchanges.

In order to achieve the research objectives above, questionnaires and interviews were conducted in addition to the literature review. As a result, valid questionnaires from 60 people were I obtained and 26 of whom were also actually interviewed. The result of literature review, questionnaires and interviews is summarized in Chapter 2, 3 and 4. Research motivations and purposes are noted in Chapter 1, conclusions and recommendations, future works are explained in Chapter 5. The main conclusions derived

from this research are summarized in the five points below:

1. Many Taiwanese WHMs with experiences in Japan were interested in Japan even before they participated in WH programs, but became more aggressively and frequently visited through their WH experiences.

2. There is a tendency that Taiwanese WHMs with experiences in Japan would stay in one or several places stably, and enjoy travels when they have spare time from their part-time job.

3. Through the actions they took to disseminate information about their WH experiences, passively or actively, Taiwanese WHMs with experiences in Japan have actually played a role of interpreters of Japan towards the people around them.

4. Taiwanese WHMs with experiences in Japan are generally satisfied with their WH experiences, but if possible, they would like to travel more than what they had actually did in Japan.

5. Because of WH is not very well known in Japan as yet, the difficulies that Taiwanese WHMs with experiences in Japan faced are the interaction with Japanese people, the complicated local formalities and regulations of Japan.

Key words: Working Holiday, Working Holiday Makers, tourism values, Japan, Taiwan

# 概要

觀光由於其廣大的經濟效益影響，被視為是日本一大成長產業，因此日本政府不單單只是振興國內的觀光，對於外國人的訪日旅行也投入相當的心力，近年來積極推展「Visit Japan Campaign」活動。但是，過去在提到「觀光客」時，多半限定地指為了觀光・休閒目的而短期停留的人們，中長期停留的打工度假者往往會被忽視。

打工度假者，指的是利用「打工度假」制度前往海外，以特別的簽證在某個國家停留一段時間，並在停留期間同時體驗「觀光」與「就職」兩項活動的人們。透過打工度假體驗，他們在停留國進行各種觀光活動與消費活動，並受到文化等薰陶影響，而這樣的影響不僅限於他們自己本身，透過他們將相關訊息發布出去的行為，預期也會對他們周遭的人們產生影響。

本論文聚焦於打工度假者上述的行動特性，以台灣赴日打工度假經驗者為研究對象，透過了解他們在活動期間中從事之觀光活動與消費活動的模式，以及與其相關的訊息發布行為，藉以明示打工度假的潛在觀光價值，並期望能為打工度假配套措施的改善、訪日觀光促進戰略的活用提供思考方向。同時，也希冀能做為理解訪日各項課題與促進兩國之間交流的參考。

為達成以上研究目的，本研究除文獻調查外，另實施了問卷調查與訪談調查。調查實施的結果，共計回收 60 份符合研究對象限制的有效問卷，其中並有 26 位同意並接受了訪談調查。文獻調查、問卷調查、訪談調查的結果分別統整於第 2 章～第 4 章，研究動機與目的寫於第 1 章，結論及建議、今後的課題則寫於第 5 章。本研究所得之主要結論為以下 5 點：

1・台灣赴日打工度假者多半從以前就對日本持有好感，在歷經打工度假體驗後，成為更積極的再訪者前往日本旅遊。

2・台灣赴日打工度假者具有穩定停留在一處或數處，在一邊打工一邊生活的空檔中，享受近距離或遠距離旅遊的傾向。

3・台灣赴日打工度假者透過主動或被動發布與打工度假相關之訊息的方式，成為周遭親友的日本導覽人。

4・台灣赴日打工度假者大致對於自己的打工度假體驗感到滿意，但若可能仍希望能再從事更多的旅遊活動。

5・台灣赴日打工度假者因打工度假制度在日本之認知度不高而感到最辛苦之處，在於日本當地的各項規定或手續之繁雜與矛盾，以及與日本人的交流。

關鍵字：打工度假、打工度假者、觀光價值、日本、台灣